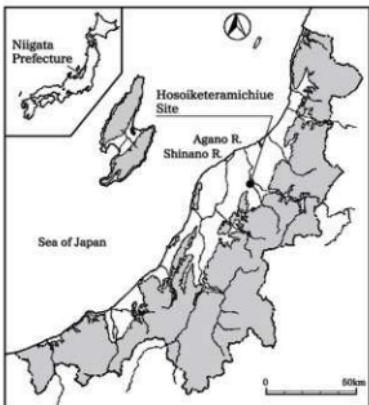


ほそ いけ てら みち うえ

細池寺道上遺跡IV 第43次調査

— 市道大安寺第5号大閑線改良工事に伴う細池寺道上遺跡第3次発掘調査報告書 —



2015

新潟市教育委員会

例　　言

- 1 本書は新潟県新潟市秋葉区大安寺 693-3 地先に所在する細池寺道上遺跡（新潟市道跡番号 151）の発掘調査記録である。書名は旧新津市教育委員会および新潟市教育委員会刊行の発掘調査報告書〔北村・菊池ほか 2004、瀬田 2014、立木ほか 2014〕に続く 4 冊目の報告書であることから『細池寺道上遺跡Ⅳ 第 43 次調査』とした。
- 2 調査は新潟市秋葉区建設課が実施する市道大安寺第 5 号大閑線改良工事に伴い、新潟市教育委員会（以下、市教委という）が調査主体となり、新潟市文化スポーツ部文化財センター（以下、市文化財センターという）が補助執行した。
- 3 平成 26 年度に発掘調査と整理作業、報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第Ⅲ章に記した。
- 4 発掘調査、出土品ほかの整理作業および報告書刊行作業の支援業務は株式会社イビソク新潟支店に、調査に伴う測量業務は株式会社オリスに委託した。
- 5 出土遺物及び調査・整理作業に係る記録類は、一括して市文化財センターが保管・管理している。
- 6 本書の作成・執筆・編集は遠藤恭雄（市文化財センター）と青木 誠（株式会社イビソク）が行った。
- 7 执筆は第 1 章・第Ⅲ章を遠藤が、第Ⅳ・V・VI 章第 1・2 節を青木が、第VII 章第 3 節を遠藤・青木が行った。なお、第VI 章第 1 節～第 3 節を櫛火山灰考古学研究所、第VI 章第 4 節・第 5 節を撫加速度器分析研究所に委託した。
第 1 章第 1 節・第 2 節第 1 表、第Ⅲ章第 1 節・第 2 節を『中谷内遺跡発掘調査報告書 II』（波邊ほか 2002）および『細池寺道上遺跡Ⅳ』（立木・相澤（高野）ほか 2014）から引用・一部加筆した。
- 8 本書で用いた写真是、遺跡写真是青木・日堀祐輔（株式会社イビソク）、遠藤が、遺物写真是青木が撮影した。ただし、写真図版 1 は米軍（国土地理院発行）が撮影したものを使用した。
- 9 道構図のトレースと各種図版作成・編集に際しては、有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 10 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関より御指導・御協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。
伊藤秀和・笠沢正史・細井佳浩・新潟県新潟地域振興局新津農業振興部・新潟県教育庁文化行政課
(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団・新津郷土地改良区

(所属・敬称略、五十音順)

凡　　例

- 1 本書は本文・別表と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。掲載図面のうち、既存の地形図等を使用したものは、原図の作成者・作成年を示した。
- 3 図版2は「新津町外二ヶ村開田耕地整理組合現形図」1922年（新津郷土地改良区所蔵）、「新津郷耕地整理組合現形図」1940年頃（新津郷土地改良区所蔵）を縮小し、「新津市都市計画図」1995年（旧新津市）と重ね合わせたものである。
- 4 本文中の注は各章の末尾に記した。引用文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載した（但し、第IV章は各節の末尾に記した）。
- 5 道構番号は現場で付したもの用いた。番号は道構の種別ごとに付せず、通し番号とした。
- 6 土層の土色および遺物の色調観察は『新版 標準土色帖』（小山・竹原 1967）1998年版を用いた。
- 7 土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。トーンについてはその都度図版中に提示した。
- 8 土器実測図では全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。
- 9 遺物の注記は細池寺道上遺跡の略記号「市道細池寺道上」とし、出土地点や層位を続けて記した。略記号の前には「14」を付し2014年を表した。
- 10 遺物番号は土器・陶磁器・鉄製品・石製品を含めて通し番とし、本文および観察表・写真図版の番号は同一番号とした。
- 11 道構・遺物観察表中における（ ）付きの値は、推定値を意味する。
- 12 道構平面図での切り合い関係のある道構の上端・下端の表現について、切られている道構の場合、上端の復元が可能ならば破線、下端は切っている道構より深度が深ければ実線、浅くても復元が可能であれば破線で示した。
- 13 別表1道構計測表では、道構の重複関係を表現する際に「<」「>」「=」を用いた。>…切る・<…切られる・…不明を表わす。

目 次

第Ⅰ章 序 章	1
第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	2
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	4
第1節 遺跡の位置と地理的環境	4
第2節 周辺の遺跡	4
第3節 歴史的環境	10
第Ⅲ章 調査の概要	12
第1節 試掘・確認調査	12
第2節 本発掘調査	12
A 調査方法	12
1) グリッドの設定	12
B 調査経過	13
C 調査体制	14
第3節 整理作業	14
A 整理方法	14
1) 遺物	14
2) 遺構	14
B 整理経過	14
第Ⅳ章 遺 跡	15
第1節 概 要	15
第2節 層 序	15
第3節 遺 構	16
第Ⅴ章 遺 物	24
第1節 概 要	24
第2節 遺構出土遺物	24
第3節 遺構外出土遺物	25
第VI章 自然科学分析	26
第1節 細池寺道上遺跡の土層	26
第2節 細池寺道上遺跡における植物珪酸体（プラント・オパール）分析	27
第3節 細池寺道上遺跡における花粉分析	31

第4節 細池寺道上遺跡出土種実同定	34
第5節 細池寺道上遺跡出土試料(種実)のAMS法による放射性炭素年代測定	45
第VII章 総 括	48
第1節 細池寺道上遺跡の出土遺物について	48
第2節 細池寺道上遺跡の遺構について	48
第3節 ま と め	50
引用・参考文献	53
別 表	56
報告書抄録・奥付	卷末

挿図目次

第1図 細池寺道上遺跡周辺地形分類図(1/150,000).....	5
第2図 周辺の遺跡分布図(1/125,000).....	6
第3図 細池寺道上遺跡試掘・確認調査土層柱状図 (1/80).....	12
第4図 遺構形態模式図.....	16
第5図 細池寺道上遺跡の土層柱状図①～⑤.....	26
第6図 細池寺道上遺跡における植物珪酸体組成 ダイヤグラム.....	29
第7図 細池寺道上遺跡における植物珪酸体 (プラント・オパール)の顕微鏡写真.....	29
第8図 細池寺道上遺跡における花粉組成ダイヤグラム	33
第9図 細池寺道上遺跡の花粉・胞子.....	33
第10図 細池寺道上遺跡の種実出土状況.....	36
第11図 細池寺道上遺跡の種実遺体写真.....	44
第12図 細池寺道上遺跡の曆年較正年代グラフ(参考).....	46
第13図 細池寺道上遺跡遺構変遷図.....	51

表 目 次

第1表 細池寺道上遺跡調査履歴(1)・(2).....	2・3
第2表 周辺の遺跡一覧表.....	7
第3表 細池寺道上遺跡における植物珪酸体分析結果.....	28
第4表 細池寺道上遺跡における花粉分析結果.....	32
第5表 細池寺道上遺跡SE46・263・300・SD137の 種実同定結果(1)～(5).....	37～41
第6表 細池寺道上遺跡における種実出土状況.....	41
第7表 細池寺道上遺跡における主な炭化種実の計測値 (1)・(2).....	42・43
第8表 細池寺道上遺跡における放射性炭素年代 測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 補正値).....	46
第9表 細池寺道上遺跡における放射性炭素年代測定 結果($\delta^{13}\text{C}$ 未補正値、曆年較正用 ^{14}C 年代、 較正年代).....	46

別表目次

別表1 細池寺道上遺跡遺構計測表.....	56
別表2 細池寺道上遺跡土器・陶磁器観察表.....	57
別表3 細池寺道上遺跡石製品観察表.....	57
別表4 細池寺道上遺跡鍛冶関連遺物観察表.....	57

図版目次

図版 1	周辺の旧地形図 (1/25,000)	図版 14	造構実測図 1 (1/40)
図版 2	周辺の旧地割図 (1/10,000)	図版 15	造構実測図 2 (1/40)
図版 3	市道大安寺第5号大閑線改良工事にかかる確認調査位置図 (1/5,000)	図版 16	造構実測図 3 (1/40)
図版 4	細池寺道上遺跡第 25・26・29・43 次調査位置図 (1/5,000)	図版 17	造構実測図 4 (1/40)
図版 5	造構全体図 (1/1,000・1/500)	図版 18	造構実測図 5 (1/40)
図版 6	造構部分図 1 (1/80)	図版 19	造構実測図 6 (1/40)
図版 7	造構部分図 2 (1/80)	図版 20	造構実測図 7 (1/40・1/80)
図版 8	造構部分図 3 (1/80)	図版 21	造構実測図 8 (1/40)
図版 9	造構部分図 4 (1/80)	図版 22	造構実測図 9 (1/40)
図版 10	造構部分図 5 (1/80)	図版 23	出土遺物 1 造構出土土器・陶磁器 1
図版 11	造構部分図 6 (1/80)	図版 24	出土遺物 2 造構出土土器・陶磁器 2 包含層出土土器・陶磁器 1
図版 12	造構部分図 7 (1/80)	図版 25	出土遺物 3 包含層出土土器・陶磁器 2 石製品 鍛冶関連遺物
図版 13	基本刷序図 (1/40)		

写真図版目次

写真図版 1	細池寺道上遺跡周辺空中写真	SK130	土層断面・完掘状況
写真図版 2	調査区周辺空中写真	SK174・SK265	土層断面
	調査区遠景空中写真	SK174・SK265	完掘状況
写真図版 3	調査区遠景空中写真	SK186・SK270	土層断面
写真図版 4	調査区中央 調査区全景	SK186・SK270	完掘状況
写真図版 5	調査区南端 調査区全景	SK200・SK201	完掘状況
写真図版 6	調査区全景 調査区中央	写真図版 13	SK268 土層断面・完掘状況
写真図版 7	第 26 次調査 2 区・第 43 次調査合成写真	SD170・SK286	土層断面・完掘状況
写真図版 8	道路状造構 1 (SD137・SD142) 全景	SK294	土層断面・完掘状況
	道路状造構 1 (SD137・SD142) 土層断面	SK334	土層断面・完掘状況
写真図版 9	着手前	SD3	土層断面 SD3 完掘状況
	基本刷序 A 基本刷序 B	SD40	土層断面・完掘状況
	基本刷序 C 基本刷序 D	SD117・Pit118・Pit119	土層断面・完掘状況
	基本刷序 E 基本刷序 F		完掘状況
写真図版 10	基本刷序 G SE12 土層断面・完掘状況	写真図版 14	SD122・SD123 土層断面・完掘状況
	SE46 土層断面 SE46 完掘状況	SD137	土層断面①
	SE77・Pit76 土層断面・完掘状況	SD137	土層断面②
	SE77 土層断面・完掘状況	SD137	土層断面③
	SE169 土層断面・完掘状況	SD137	土層断面④
	SE178 土層断面・完掘状況	SD137	土層断面⑤
写真図版 11	SE189 完掘状況	SD142	土層断面①
	SE208 土層断面・完掘状況	SD142	土層断面②
	SE262 土層断面 SE262 完掘状況	写真図版 15	SD144 土層断面・完掘状況
	SE263 土層断面・完掘状況	SD148	土層断面・完掘状況
	SE300 土層断面・完掘状況	SD150・SD151	土層断面・完掘状況
	SK20 土層断面 SK20 完掘状況	SD153	土層断面・完掘状況
写真図版 12	SK49 土層断面・完掘状況	SD154	土層断面・完掘状況
	SK127・SK128 土層断面・完掘状況	SD158	土層断面・完掘状況

SD162	土層断面・完掘状況	写真図版 17	SD272・SD273 土層断面・完掘状況
SD170・SK286	土層断面・完掘状況	SD309	土層断面・完掘状況
写真図版 16	SD173 土層断面・完掘状況	SD316	土層断面
SD199	土層断面・完掘状況	SD316	土層断面・完掘状況
SD199	土層断面・完掘状況	Pit106	完掘状況
SD219	土層断面・完掘状況	Pit315	完掘状況
SD237	土層断面・完掘状況		調査区南端完掘状況
SD239・SD240	土層断面・完掘状況	写真図版 18	出土遺物
SD256	土層断面 SD256 完掘状況		

第Ⅰ章 序 章

第1節 遺跡概観(第1表)

細池寺道上遺跡は昭和60年8月に行われた新潟県教育委員会(以下、県教委という)主催の遺跡詳細分布調査の折に、寺道上遺跡(旧新津市遺跡番号28)から平安時代の須恵器壺・壺、绳文時代後・晚期とされる土器が採取され、古代を中心とした遺跡として登録された。その後、今回の調査を含めて通算43回の本発掘調査および確認調査が行われている(第1表)。平成元年に刊行された『新津市史資料編第1巻 原始・古代・中世編』では後に細池寺道上遺跡に統合された木津橋遺跡(旧新津市遺跡番号63)のみが報告され、平安時代の土器師長壺、須恵器大壺が紹介されており(川上・木村・鈴木1989)、その後に遺跡登録されている。平成2年に行われた「磐越自動車道建設」に伴う県教委が行った試掘・確認調査により、金屋集落横が寺道上遺跡の地点と異なることから新遺跡、細池遺跡(旧新津市遺跡番号68)とした。さらに、寺道上遺跡の範囲は拡大した。その後の平成3・4年に新潟県による細池遺跡と寺道上遺跡の調査が行われ(小池ほか1994)、平成8・9年には新潟市による市道建設に伴う本発掘調査が細池遺跡で行われた(立木・渡邊ほか1998)。平成11年には新津市による同原因の調査が寺道上遺跡で行われた(渡邊ほか2001)。平成13年に行われた両新地区ほ場整備事業に伴う確認調査(図版3)の結果、遺跡範囲がさらに拡大し、細池・寺道上遺跡の両遺跡と木津橋遺跡を含めた範囲を「細池寺道上遺跡」(旧新津市遺跡番号28、新潟市遺跡番号151)として寺道上遺跡の番号を用いて、再登録された。それに伴う処置として、細池・木津橋遺跡の遺跡番号は欠番として扱われた。これ以降の遺跡名は「細池寺道上遺跡」の名称を用いる。合わせて、土手外遺跡(旧新津市遺跡番号89)が細池寺道上遺跡の東側で古代・中世の遺跡として新発見され、遺跡登録されたが、平成14年に行われた両新地区ほ場整備に伴う確認調査の結果、細池寺道上遺跡の範囲拡大により同遺跡に統一された。それに伴う土手外遺跡の遺跡番号は欠番となった。

細池寺道上遺跡における既往の本発掘調査については、平成3・4年度にかけて県教委が磐越自動車道建設に伴い「細池遺跡」 $19,960\text{m}^2$ 、「寺道上遺跡」 $14,660\text{m}^2$ の計 $34,620\text{m}^2$ の調査を実施している。その結果、微高地に古代から中世に至る集落跡・ほ場跡などが検出されている(小池ほか1994)。平成8・9年度に行われた市道建設に伴う「細池遺跡」の本発掘調査(立木・渡邊ほか1998)では、 $2,848\text{m}^2$ が調査され、平安時代の遺構・遺物が検出された。平成11年には市道建設に伴い、 843.78m^2 が調査され、「都保一口」と刻書された短頸壺に代表される9世紀第2四半期のまとまった土器群が確認され、短期間に跨られた集落跡で遺物の出土状況も良好であり、古代土器編年研究に重要な調査例となった(渡邊ほか2001)。平成15年度には、東北電力(株)の「平成15年度東北電力西新潟線鉄塔建設工事」に伴う本発掘調査をほ場整備事業対象範囲で実施し、細池寺道上遺跡の一部 412.4m^2 を調査した結果、古代の旧河跡と仏鉢形土器など特殊な土器を含む9世紀後半の土器が出土している(北村・菊池ほか2004)。

平成19年度から細池寺道上遺跡範囲内で本格的にはほ場整備に伴う本発掘調査が開始され、当年度は $8,952.7\text{m}^2$ が調査された。区画溝で区切られた中世の集落が確認された(潮田2014)。平成20年度には $2,912.0\text{m}^2$ が調査され鎌倉・室町時代の集落跡が確認された。14世紀後半に位置付けられる集落間を結ぶ「道路」が確認されている(立木・相澤(高野)ほか2014)。平成21年度には $2,346\text{m}^2$ を調査し、旧河道に沿って古代・中世の集落域が確認された(朝岡2010)。平成22年度には $4,464.2\text{m}^2$ を調査し、古代・中世の集落跡を確認し、中世の井戸から農耕具の柄振・田下駄などの木製品が井戸側に再利用された状態で出土して注目された(遠藤2011)。平成24年度は $4,715\text{m}^2$ を調査し、旧河道に沿って古代・中世の農地などが確認された(前山2013)。

平成25年度には2,814m²を調査し、古代・中世の集落と中世の水田跡が注目される（立木2014）。

第2節 発掘調査に至る経緯

「市道大安寺第5号大閑線改良工事」は、平成17年の新潟市と旧新津市の合併に伴う合併建設計画として策定された。平成24年度に既設道路を全長約640mにわたり拡幅する計画が秋葉区建設課から歴史文化課に示された。事業対象地が細池寺道上遺跡範囲内にあることから、秋葉区建設課から調査の依頼（平成24年6月19日付け新秋建第297号の2）をうけ、平成24年7月3日から4日まで確認調査（着手届平成24年7月3日付け新歴B第55号の4）を実施した。確認調査の結果（終了報告平成24年12月3日付け新歴B第55号の5）、遺構・遺物とも発見されず、事業は実施された。

平成25年度には前年度の北側、全長約340mの拡幅工事計画が示された。事業対象地が細池寺道上遺跡範囲内にあり、平成20年度に両新地区は場整備事業に伴い本調査を行った範囲にも隣接することから、秋葉区建設課から調査の依頼（平成25年5月21日付け新秋建第209号）をうけ、平成25年11月18日から11月22日まで確認調査（着手届平成25年11月13日付け新歴B第56号の4）を実施した。確認調査の結果（終了報告平成25年12月13日付け新歴B第56号の5）、事業対象地のほぼ全域で遺構を検出し、遺跡範囲の広がりが確認された。これを受けて新潟県教育委員会は、新潟市に対し平成26年2月10日付け教文第1361号の2で発掘調査実施の通知を行った。その後、秋葉区建設課と歴史文化課で協議を重ね、平成26年度に本発掘調査を行うことで合意した。

平成26年3月10日付で秋葉区建設課から調査の依頼（平成26年3月10日付け新秋建第209号の2）をうけ、平成26年6月20日付け新歴F第77号で新潟県教育委員会教育長あてに文化財保護法第99条の規定による埋蔵文化財発掘調査の通知を行い、6月20日から10月7日までの予定で本発掘調査を実施することとなった。調査対象は、道路拡幅部分平均幅2.5m、延長352m、面積880m²である。

第1表 細池寺道上遺跡調査履歴（1）

調査 調査 回数	実施人安寺 第5号大閑 線改修工事 に伴う 遺跡調査	調査年次	調査種別	調査区域	調査主体	担当	調査面積	文献	遺跡名	備考
		8.6	860 m ² (1985)	分布調査	新潟市道大閑 寺道上	新潟県 歴史文化行政課 山岸博史				
		H1年 (1989)	分布調査	「新津市セイ タツ編集」1巻 中央伊に伴う 調査	新潟市 土木課		(川上a+1989)			古史に古代の遺跡として記載され、一般に知られる。
1次	H2年 (1990) 10.1～10.18	確認調査	鶴越白動車両	新潟県 小池義人		958 sf	(小池a+1994)	調査		
2次	H2年 (1990) 10.1～10.18	確認調査	鶴越白動車両	新潟県 小池義人		820 sf	(小池a+1994)	寺道上		
3次	H3年 (1991) 4.15～12.7	木質櫛溝査	鶴越白動車両	新潟県 小池義人		34,320 sf 39,960 sf	(小池a+1994)	調査		
4次	H3年 (1991) 7.8～12.7	木質櫛溝査	鶴越白動車両	新潟県 小池義人		18,960 sf	(小池a+1994)	寺道上	古代・中世の集落跡の一例および中世の広範囲な馬が確認さ れた。古貝・平安時代の遺物は9世紀が主体で、新津丘陵東 より伝来せ家底が確認されている。	
5次	H4年 (1992) 4.5～8.1	木質櫛溝査	鶴越白動車両	新潟県 小池義人		14,660 sf		調査		
6次	H4年 (1992) 4.24～5.28	木質櫛溝査	鶴越白動車両	新潟県 小池義人				寺道上		
7次	H7年 (1995) 11.6～11.10	確認調査	新津市教育委員会 道沿い用	新津市 道沿い用		97 sf		調査		
8次	H8年 (1996) 7.22～7.23	確認調査	新津市 道沿い用	新津市 道沿い用		53 sf		寺道上		
9次	H8年 (1996) 10.1～10.13	木質櫛溝査	新津市 道沿い用	新津市 道沿い用		1,429 sf	(立木・荒瀬a+ 1996)	調査		
10次	H9年 (1997) 10.7～11.25	木質櫛溝査	新津市 道沿い用	新津市 道沿い用		1,419 sf		寺道上	古代の集落跡の一部および中世の馬が確認された。	
11次	H9年 (1997) 10.30	確認調査	新津市 道沿い用	新津市 道沿い用		9 sf		寺道上		
12次	H11年 (1999) 10.1～12.15	木質櫛溝査	新潟市 教育委員会 道沿い用	新潟市 教育委員会 道沿い用		843.7 sf	(瀧澤a+2001)	寺道上	古代の溝などを検出した。「御一臼」とヘラ削きされた頭部 埴輪類が出土した。	

第1表 細池寺道上跡調査履歴（2）

調査 回数	調査年 度	調査年次	調査理由	調査原図	調査主体	担当	調査面積	文献	目 標地名	備 考
13次	H13年(2001)	10.15～11.8	確認調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市教育委員会 高麗地区	新潟市教育委員会 高麗地区			今道上	
14次	H14年(2002)	10.15～11.8	確認調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市教育委員会 高麗地区	新潟市教育委員会 高麗地区	1,147 m ²		4津道	細池・今道上・木幡轍走を結合し細池寺道とする。
15次	H15年(2003)	10.15～11.8	確認調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市教育委員会 高麗地区	新潟市教育委員会 高麗地区			細池	
16次	H15年(2003)	10.15～11.8	確認調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市教育委員会 高麗地区	新潟市教育委員会 高麗地区			上手井	
17次	H16年(2002)	10.16～10.24	確認調査	轍掛車走	新潟市教育委員会 日本文化		86.4 m ²			
18次	H17年(2003)	10.16～11.15	確認調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市教育委員会 高麗地区	新潟市教育委員会 高麗地区	1,701 m ²		上手井跡	上手井跡を捉む。
19次	H18年(2002)	10.16～11.15	確認調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市教育委員会 高麗地区	新潟市教育委員会 高麗地区			上手井	
20次	H19年(2003)	9.5～12.19	本斎御調査	轍掛車走	新潟市 シン技社コーザル 北村一治		412.4 m ²	[北村一治:2004]	古代の日向道が確認され、屢々中に上野跡・高庭庭の食糞跡が多出した。「日向」と墨書きされた善井跡が出土した。	
21次	H19年(2003)	11.1～12.19	確認調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市教育委員会 高麗地区	新潟市教育委員会 高麗地区	490.5 m ²			
22次	H20年(2004)	10.2～11.5	確認調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市教育委員会 高麗地区	新潟市教育委員会 高麗地区	40.1 m ²			
23次	H21年(2005)	10.11～10.26	確認調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市教育委員会 高麗地区	新潟市教育委員会 高麗地区	154.5 m ²			
24次	H21年(2006)	11.30	確認調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市文化行政 吉岡一郎		24 m ²			
25次	H21年(2007)	6.11～12.11	本斎御調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市文化行政 センター・源山丸りか		8,952.7 m ²	[源山 2014]	古代・中世の集落跡が確認された。下体は中央(150m×140m程度)で、壁が塗抹された中に繩の柱跡物や瓦片が発見し、築造している。	
26次	H20年(2008)	6.10～9.27	本斎御調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市文化行政 センター・吉田弘明		2,912 m ²	[吉田弘明:2014]	中世の集落跡。掘立柱建物 7棟以上、坪庭 30 坪、土坑 121 基、Pb1300 基以上など遺構密度が高く、道路状況も概状構造物などの上に施設が確認されている。遺構は縄文・平安時代の塙跡、骨壙、白塙、環濠・農耕などが併存している。	
27次	H20年(2008)	10.14～10.16	確認調査	轍掛車走	新潟市文化行政 センター・今月さやか		117 m ²			
28次	H21年(2009)	5.28	確認調査	作業所	新潟市文化行政 センター・源山丸りか		3 m ²			
29次	H21年(2009)	6.15～10.17	本斎御調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市文化行政 センター・柳原政典		2,346 m ²	[柳原政典:2010]	古代・中世の集落跡が確認された。廻り柱跡物 5棟以上、坪庭 9 基、土坑 1 基、環濠 208 基、ビット 225 基、河跡 8 条が確認されている。遺構は平安時代では廻り柱跡、土坑跡、土塁跡、平安時代では環濠跡、土塁跡、土壙跡など、各時代とも併存する複数の施設が出土している。平安時代には土塁として利用され、鎌倉・室町時代には廻り柱として利用されたものと考えられる。	
30次	H22年(2010) 5.11	確認調査	放送局合築	新潟市	新潟市文化行政 センター・日本文化		3 m ²			
31次	H22年(2010) 6.21～12.1	本斎御調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市	新潟市文化行政 センター・連造藤原		4,464.2 m ²	[連造藤原:2011]	古代・中世の集落跡が確認された。廻り柱跡物 7棟以上、坪庭 28 基、土坑 96 基、環濠 208 基、ビット 225 基、河跡 8 条が確認されている。遺構は平安時代では廻り柱跡、土坑跡、土塁跡、土壙跡など、各時代とも併存する複数の施設が出土している。平安時代には土塁として利用され、鎌倉・室町時代には廻り柱として利用されたものと考えられる。	
32次	H23年(2011) 7.25～8.25	本斎御調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市	新潟市文化行政 センター・源山丸りか		224 m ²			
33次	H23年(2011) 8.03～8.4	確認調査	轍掛車走	新潟市	新潟市文化行政 センター・源山丸りか		90 m ²			
34次	H23年(2011) 10.28	確認調査	轍掛車走	新潟市	新潟市文化行政 センター・源山丸りか		48 m ²			
35次	H24年(2012) 5.29～5.29	確認調査	轍掛車走	新潟市	新潟市文化行政 センター・源山丸りか		206.7 m ²			
36次	1次	7.3～7.4	確認調査	轍掛車走	新潟市	新潟市文化行政 センター・源山丸りか	84 m ²			
37次	H24年(2012) 7.15	確認調査	轍掛車走	新潟市	新潟市文化行政 センター・源山丸りか		6 m ²			
38次	H24年(2012) 07.23～H25 9.(2013)1.10	本斎御調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市	新潟市文化行政 センター・源山丸りか		4,715.17 m ²	[源山 2013]	古代・中世の遺跡。遺構は水戸 2 号、丹戸 1 号、テラス状遺構、木造 1 基、土坑・ビット 217 基、環濠 79 基、河跡 1 基が確認されている。遺構は平安時代では廻り柱跡、土塁跡、土壙跡など、各時代とも併存する複数の施設が出土している。各時代とも水戸に含まれた遺跡と考えられる。	
39次	H24年(2012) 10.16	確認調査	基地造成	新潟市	新潟市文化行政 センター・源山丸りか		112 m ²			
40次	H25年(2013) 2.27～H25年 (2013)2.22	確認調査	避難誘導設置	新潟市	新潟市文化行政 センター・連造藤原		9.3 m ²			
41次	H25年(2013) 07.25～H25 9.(2013)1.22	本斎御調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市	新潟市文化行政 センター・日本文化		2,814.55 m ²	[日本 2014]	古代・中世の集落と、中の野の畠作。遺構は廻り柱跡物 11 基、木造 13 基、丹戸 1 基、土坑・ビット 217 基、環濠 33 基、土塁 17 基、ピット 594 基が確認された。遺構は平安時代では廻り柱跡、土塁跡、土壙跡など、各時代とも併存する複数の施設が出土している。各時代とも水戸に含まれた遺跡と考えられる。	
42次	2次	H25年(2013) 7.25～11.22	確認調査	轍掛車走	新潟市	新潟市文化行政 センター・源山丸りか	51.4 m ²			
43次	3次	2014～H26年 (2014)10.10	本斎御調査	轍掛車走	新潟市	新潟市文化行政 センター・源山丸りか	567.28 m ²		[日本]	
44次	H26年(2014) 7.16～H26年 (2014)12.26	本斎御調査	高麗地区は場 轍掛車走り	新潟市	新潟市文化行政 センター・日本文化		5,547.6 m ²	[日本 2015]	古代・中世の構造集落。遺構は廻り柱跡物 29 基、坪庭 11 基、土坑・ビット 217 基、環濠 79 基、河跡 1 基が確認された。遺構は平安時代では廻り柱跡、土塁跡、土壙跡など、各時代とも併存する複数の施設が出土していた。水戸跡は水戸に含まれた遺跡と考えられる。	

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境（第1図、図版1・2）

新潟市は平成17年に行われた周辺市町村（新津市・白根市・豊栄市・小須戸町・横越町・亀田町・西川町・巻町・味方村・鶴東村・月潟村・中之口村）との合併により、海岸部を含む越後平野の大部分と信濃川を挟んで対峙する弥彦・角田山塊と新津丘陵が含まれる総面積726.45km²の広大な面積を有する市となった。

遺跡のある新潟市秋葉区（以下、秋葉区という）は越後平野のほぼ中央に位置し、新津丘陵を中心として東に阿賀野川、西に信濃川が北流する。享保年間には加治川が阿賀野川に、阿賀野川が新潟港で信濃川に合流する状況で、度々水害に見舞われていたため、享保15年（1730）に新発田藩が松ヶ崎放水路を開削し、現阿賀野川の河口となつた。下新付近で、五泉市域を北流してきた早出川が阿賀野川に合流する。また、七日町付近では阿賀野川から分岐した小阿賀野川が西流し、覚路津付近で信濃川に合流する。新津丘陵東縁を北流する能代川は、太平洋戦争後に水害対策の河川改修が行われた。これにより五泉市千原～秋葉区大間間の蛇行部分が直線化し、秋葉区新津地区の市街地を貫流していた本来の流路から分流が東方に作られ、現在の新津川・能代川となっている。この能代川と新津川は下興野付近で再び合流し、荻島付近で小阿賀野川に注いでいる。

秋葉区付近の地形は丘陵とその縁辺の段丘、沖積地から成っている。南南西～北北東に走る新津丘陵は加茂川を南限に標高278mの高立山が最も高く、北に行くに従い標高を下げて北端で70～80mとなり、その周囲には段丘が標高10～70m間に4段見られる。沖積地は信濃川・阿賀野川の二大河川により形成され、自然堤防や旧河道・後背湿地・三角州などの地形が見られる。阿賀野川が流路を東遷してきた結果、秋葉区域では新津丘陵北端～小阿賀野川間に自然堤防が形成され、現在起伏の極少ない微高地として断続的に存在している。遺跡は阿賀野川左岸、早出川合流地点の北西約1.5kmに位置し、この微高地上に存在する。

遺跡では調査直前まで水田として利用されているが、遺跡周辺の旧景観については既にまとめられている〔小池ほか1994〕。それによれば現在の遺跡周辺は水田地帯であるが、これは大正末年～昭和20年代に行われた耕地整理事業によって形成されたものであり、整理事業以前の状況からは当該地域の微地形を反映した土地利用が行われていた様子が窺えるとする。つまり低地は方形区画の水田に、微高地は畑地に、微高地周縁は畑地と微高地を水田化するため開発された畑を囲む水田「堀田」が混在するという土地利用が見られるとしている。

第2節 周辺の遺跡（第2表、第2図）

時代別の遺跡の分布は旧石器時代では丘陵部に限定される。縄文・弥生時代では丘陵・段丘上および砂丘地に集中し、古墳時代には丘陵や段丘の縁辺部や平野部微高地・砂丘地、奈良・平安時代になるとさらに平野部微高地に多くの分布が見られるようになる。具体的には古代までは丘陵上に弥生時代後期の環濠集落・円墳などが展開し、丘陵裾部には奈良・平安時代の製鉄・須恵器（土師器）窯などの生産遺跡が集中している。そして細池寺道上遺跡は、古代・中世の複合遺跡として周知されている。

合併後の遺跡数は市域で731か所（平成27年3月現在）である。以下に時代ごとに解説を加える。

旧石器時代の遺跡 市内で3遺跡確認されている。新津丘陵に2か所、角田山麓に1か所ある。当該期の遺跡は、風化火山灰層（ローム層）の上部に含まれる場合が多い。新津丘陵においては古津八幡山遺跡（297）〔渡邊・立木ほか2001・2004〕や、草水町2丁目窯跡（253）でナイフ形石器・石刀などが散発的に出土している。角



第1図 極地寺道上遺跡周辺地形分類図



第2図 周辺の遺跡分布図

第2表 周辺の遺跡一覧表

田山麓ではケカチ堂遺跡（小野 1994a）から尖頭器（旧石器～縄文時代草創期）などの出土が確認されている。

縄文時代の遺跡 草創期～晚期の遺跡が確認されているが、土器の出土が確認されるのは早期後半以降である。市内の代表的な遺跡を網羅的に紹介すると、草創期の遺跡としては新津丘陵にある愛宕澤遺跡（254）で縄文時代草創期前半の石器（神子柴型の石斧・石核）が検出された（立木・澤野ほか 2004a）。角田山麓には御手洗遺跡、福井遺跡、新谷遺跡（小野 1994b）などで同期の石斧が出土している。遺跡は丘陵沿いに確認されている。続く、早期の確実な遺跡は確認されていない。前期以降になると山麓や砂丘上に多くの遺跡が残されている。砂丘上の遺跡として旧亀田町の砂崩遺跡（154）（酒井・廣野 2002）と角田山麓の布目遺跡（小野・小熊 1987）は前期前半の遺跡である。それに続く前期後半の新谷遺跡（前山 1994a）、重稻場遺跡群（前山 1994b）などが代表例である。中・後期には新津丘陵の丘陵平坦面に平遺跡（249）（川上・達藤 1983）、原遺跡（279）（中～晚期）、秋葉遺跡（260）（中～後期）などがある。角田山麓には縄文時代の遺跡密度が高く、豊原遺跡（小野・前山ほか 1988）、大沢遺跡（甘粕・古川ほか 1981、小野ほか 1982、前山 1990）上原遺跡（上原 1971）などが代表例である。砂丘地・沖積地の遺跡には、大規模な集落を形成するような遺跡は確認されていない。出土状況が注目される例として、味方排水機場遺跡（高浜・ト部・寺崎 2000）の現地表下 19～20m から確認された中期後葉・後期前葉土器片がある。沖積地での縄文時代遺跡のあり方を考える上で非常に重要な例である。晚期の遺跡としては砂丘上や沖積地に立地する遺跡が多い。代表例として鳥屋遺跡（51）（関ほか 1980）、緒立遺跡（金子ほか 1983）、御井戸遺跡（前山 1994c）など県内を代表する遺跡が存在する。近年の調査では、採取した天然アスファルトの精製・加工を行ったと考えられる晚期中～後葉の大沢谷内遺跡（細野・伊比ほか 2012）や近隣の漆製品・木製品が出土した大沢谷内北遺跡（前山・伊比ほか 2010）などが注目される。

弥生時代の遺跡 弥生時代全時期をとおして遺跡が存在する。弥生時代前期の遺跡としては前述した緒立遺跡（金子ほか 1983）が代表例である。そのほか、砂丘上や沖積地に多くの遺跡が存在する。中期の遺跡としては旧横越町の駒込小丸山遺跡（143）（家田 1987、酒井 2000a）、山家遺跡（151）（川上 1993、酒井 2000b）などがある。秋葉区新津地区では平成 15 年度の立会調査で秋葉遺跡から中期前半、塩辛遺跡（291）から中期後半の土器が出土している（渡邊・立木ほか 2004）。特に塩辛遺跡では、現地表下 2m の地点から出土しており、今後も台地と沖積地の境界から遺跡が検出される可能性があり、注意を要する。後期の遺跡としては新津丘陵沿いの古津八幡山遺跡（川上 1994、渡邊 1994）とその周辺の居村 C 遺跡（D・E 地点）（308）（川上 1996、渡邊ほか 1997）があり、いずれも弥生時代後期に属する。古津八幡山遺跡は一定期間定住していた拠点集落と見られる高地性環濠集落で、二重の環濠・竪穴住居・炉跡・方形周溝墓が確認されている。遺物は東北系と北陸系の弥生土器が出土しており、当該地域の弥生時代を考える上で重要な遺跡である。砂丘上の遺跡としては六地山遺跡（寺村 1960、中村 1960）、石動遺跡（112）（廣野 1996）がある。近年、江南区（旧亀田町）の砂丘および砂丘間低地に養海山遺跡（204）（新潟市 2007）や西郷遺跡（土橋 2009）などの前・中期の遺跡が確認されている。また角田山麓には山谷遺跡（山谷古墳下層）（甘粕・小野ほか 1993）、大沢遺跡（甘粕・古川ほか 1981、小野ほか 1982）、御井戸遺跡（前山・相田 2004・2005）などがある。

古墳時代の遺跡 前期の古墳としては、角田山麓の前方後方墳である山谷古墳（甘粕・小野ほか 1993）、前方後円墳である菖蒲塚古墳（相田・前山 2003・2005）がある。それに隣接して同期の南赤坂遺跡（前山・相田 2002）、御井戸遺跡（前山・相田 2004・2005）がある。砂丘上や沖積地には緒立 C 遺跡（渡邊 1994）や東開遺跡（138）（朝岡・諫山 2003）、日水遺跡（199）（立木・細野ほか 2013）、正尺 C 遺跡（50）（土橋 2006）などがある。新津丘陵の古津八幡山遺跡の北西端には古津八幡山古墳（297）が造営される（埴丘約 60m・円墳）（甘粕・川村ほか 1992）。古墳に隣接する舟戸遺跡（290）（川上 1996）、高矢 C 遺跡（292）は中期の遺跡であり、丘陵縁辺や縫部に立地する。舟戸遺跡では中期頃の竪穴住居跡が検出され、古墳との関連が注目されている。また、中期以降の古墳は、これまで未発見であったが、東区で牡丹山諏訪神社古墳が新たに発見されている（橋本 2014・2015）。平野部の沖ノ羽遺跡（227）（星野ほか 1996）、上浦 A 遺跡（234）（坂上 2003）、結七島遺跡（228）（田中・丹下ほか 2004）では古

代の生活面より下から古墳時代前・中期の遺構・遺物が検出されている。近年沖積地の微高地から古墳時代の遺跡が多く見つかっており、平野部への遺跡進出の様相が明らかになりつつある。

古代の遺跡 古代（飛鳥～平安時代）の遺跡は市内で 348 遺跡確認されている。平野部には集落遺跡が多く立地し、丘陵部には製鉄遺跡、須恵器・土師器窯跡などの生産遺跡が集中している。海岸近くの砂丘上には製塩遺跡もある。古代の遺跡については遺跡周辺の秋葉区に限定して記述する。新津丘陵窯跡群は新津丘陵北東斜面に分布し、七本松窯跡（256）[中川・倉田 1956]、草水町 2 丁目窯跡、滝谷窯跡（255）[川上・木村・鈴木 1989]などがある。平成 18 年度の下水道工事に伴う立会調査で七本松窯跡に隣接する地点で、新たに秋葉 2 丁目窯跡（257）（9世紀前半）が発見された。昭和 27 年に出版された『新津市誌』では新津丘陵に 18 か所の窯跡が存在すると記載されており [小林 1952]、近隣に未知の窯跡がまだ多数存在すると考えられる。製鉄遺跡は新津丘陵西斜面に居村遺跡・大入 C 遺跡（303）などがあり、9世紀第 2 四半世紀以降とされる [渡邊ほか 1997]。

次に、沖積地に立地する集落遺跡を古い時期から紹介する。長沼遺跡（236）は非ロクロの土師器や返りのある須恵器蓋が定量出土した、7世紀後半～8世紀の遺跡である [渡邊 1991]。近年、秋葉区天ヶ沢地内の大沢谷内遺跡（321）からは 7世紀後半の土器に伴出して県内最古と言われる「九丸木簡」などの木製品や律令祭祀具などが出土している [細野・伊比 2012]。両遺跡とともに、7世紀中葉の 647 年に造営されたとされる「淳足櫓」と年代が近く、注目される。上浦 A 遺跡では掘立柱建物が発見され [川上 1997, 坂上 2003]、円面鏡や多量の墨書き土器が出土している。上浦 A 遺跡の年代は出土遺物の年代観から 7世紀末～10世紀と考えられ、存続期間の長い遺跡である。隣接する上浦 B 遺跡（233）[新潟市国際文化部歴史文化課 2007] からは、周囲を溝で囲まれた総柱建物 1 基と掘立柱建物 2 基が方向を揃えて検出された。周囲には井戸や煙跡も検出されている。遺跡は 9世紀後半の短期間に営まれている。希少なものとしては奈良三彩の小壺が 1 点出土している。

また、新津丘陵北側の満日地区には沖ノ羽遺跡 [石川ほか 1994, 星野ほか 1996, 細野ほか 2002, 春日 2003a, 北村・菊池ほか 2004, 立木・澤野ほか 2005, 立木ほか 2008, 遠藤・澤野ほか 2014]、山王浦遺跡（223）[立木・澤野ほか 2004b]、中谷内遺跡（226）[立木ほか 1999, 渡邊ほか 2002]、内野遺跡（225）[立木・高野ほか 2002]、無頭遺跡（221）[長澤ほか 2002]、大下遺跡（222）、中新田久保遺跡（220）など 9世紀後半を中心とする遺跡が多く確認されている。沖ノ羽遺跡からは 8世紀第 3 四半世紀から 10世紀第 1 四半世紀までの遺構・遺物が連続的に確認されており、集落や生産域が時期的に移動する様相が明らかになりつつある。瓦塔や縁軸陶器香炉、同香炉蓋、土師器仏鉢形土器など特殊な遺物が出土した地点もあり、「村落内寺院」を持つ地域の中心的な集落である。山王浦遺跡からは 9世紀後半の雨落溝を伴う掘立柱建物が 3 基検出されており、井戸や土坑など周辺施設が併設する建物小群がいくつか並在する「住耕一体型」の集落の一部と考えられる。中谷内遺跡からは平安時代の旧河道に沿って、集落の一部が確認された。旧河道の覆土中からは祭祀に伴う墨書き土器が多数出土した。土器は上層と下層で様相を異にし、9世紀第 3 四半世紀からと第 4 四半世紀の概ね 2～3 時期に分けられる。縁軸陶器無台碗など希少品も出土している。内野遺跡からは溝・小土坑などが検出され、9世紀後半の集落の一部が確認された。無頭遺跡は狭小な調査区で不明な部分が多いが、9世紀後半の土器が少量出土している。

新津丘陵東側の両新地区では細池寺道上遺跡（244）[小池ほか 1994, 立木・渡邊ほか 1998, 渡邊ほか 2001, 北村ほか 2004, 潮田 2014]、諏訪畑遺跡（250）[潮田 2008]、小実山遺跡（546）[山崎・遠藤 1999] など 9～10 世紀にかけての遺跡が確認されている。細池寺道上遺跡は、遺跡範囲が広範囲におよんでいるが 9世紀代の遺物が主体的に確認されている。遺物の中には、「都保一口」と刻書された 9世紀前半の須恵器短頸壺や土師器仏鉢形土器など特殊な遺物も出土している。諏訪畑遺跡からは 9世紀後半から 10世紀初頭の土師器長甕と鍋の一括資料が出土している。出土状況から埋蔵構造に伴うと考えられ貴重な例である。小実山遺跡は諏訪畑遺跡の能代川対岸の丘陵上に位置する。出土遺物は 10世紀前半が主体である。縁軸陶器耳皿など特殊遺物が出土している。

中世の遺跡 市内で 215 遺跡が確認されているが、秋葉区に限定して記述する。城館跡が 10 か所、山城として東島城跡（280）、金津城跡（311）[横山・竹田ほか 1987] の 2 か所があり、館跡とされるものが 5 か所ある。

集落跡は平野部微高地に立地する。自然堤防上の遺跡の実態がよく分からなかつたが、平成4年に調査された江内遺跡（230）〔春日ほか1996〕の発掘に伴い、14～15世紀の集落が発見された。また細池遺跡（現、細池寺道上遺跡）〔小池ほか1994〕では中世以降のほ場の各単位施設と思われる遺構が検出されている。沖ノ羽遺跡では12～13世紀の集落およびほ場の一部が確認された〔石川ほか1994、星野ほか1996、春日2003a〕。出土遺物の中には県内初出土となる鳥帽子が出土している。沖ノ羽遺跡の北東にある内野遺跡の調査では14～15世紀の自然堤防上の集落の様相が明らかとなった〔立木・高野ほか2002〕。遺構としては掘立柱建物・井戸・溝があり、遺物は珠洲焼壺・壺類・青磁・白磁・瀬戸美濃焼などが確認された。さらにそれらの陶磁器とともに井戸内より鉄錆が出土した。リサイクルを基本とする当時の社会で鉄製品が残ったということは、祭祀行為等で埋納されたと考えられる例である。そのほかに井戸底から大型犬の骨の一部が検出され、食用の可能性が指摘されており、中世の食文化を考える上で貴重である。

近世の遺跡 市内で50遺跡が確認されている。集落跡は中世と同じ平野部微高地に立地しており、現在の住宅地が存続して立地することが多く実態は不明な点が多い。発掘調査例も少ないが、秋葉区では江内遺跡で17世紀前半からの集落の一部が明らかにされている〔春日ほか1996〕。近年、淡町新潟の「近世新潟町跡」〔佐藤ほか2008〕が調査され、幾層も重なる生活面を確認した。肥前系を中心とする各地の陶磁器が大量に出土した。部分的な調査ではあるが、17～19世紀の町屋の実態に迫る重要な調査例である。

第3節 歴史的環境

古墳時代の越後国については文献資料では不明な点が多い。越後平野に立地する古墳は秋葉区の古津ハ幡山古墳をはじめ、西蒲区の菖蒲塚古墳・山谷古墳、西区の緒立神社古墳や三条市の保内三王山古墳などいずれも前期のもので、5世紀代は越後平野での古墳の実態は不明瞭である。5世紀後半以降は高田平野・魚野川流域に造営されるようになる。

越国の領域については第1段階（3～4世紀）は旧越前国（越前・加賀・能登）、第2段階（5～6世紀）は旧越中国（頸城・古志・魚沼・蒲原4郡まで含む）まで、第3段階（7世紀～）は渟足・磐舟柵までとし、次第に北上していく様が窺える〔米沢1965-1980〕。『続日本紀』大宝2年（702）3月条には、越中国4郡を削いて越後国に編入するとあり、頸城・古志・魚沼・蒲原の4郡がこれに当たるとされ、これにより越中国の領域が確定した。最終的に越後国との領域が確定するのは、和銅5年（712）にそれまで越後国に属していた出羽群を分割して出羽国を建国したことによる。

古代の秋葉区域は蒲原郡に属し、その郡域は概ね三条市以北阿賀野川以西の越後平野と推定され、中世南北朝期に蒲原郡の郡域が旧沼垂郡を含む領域に拡大されるまでは大幅な変更はないと思われる。7世紀段階には旧越中国の渟足柵に属する領域として整備され、8世紀には蒲原郡として成立したとみられる。蒲原郡内には10世纪成立の『名和類聚抄』に日置・桜井・勇礼・青海・小伏の5郷が見られる。秋葉区域の郷域は現段階では不明である。

宝亀11年（780）の「西大寺資財流記帳」（『寧楽遺文』中巻）には、西大寺の莊園として蒲原郡に鶴橋庄・槐田庄が見られる。同資料に「越後国水田并畠地帳景雲三年」とあることから、成立はいずれもそれ以前の8世紀中葉と見られる。所在地については式内社名から、鶴橋庄は五泉市橋田、槐田庄は三条市周辺とされている。これらの莊園に秋葉区域が含まれていたのかは不明である。

新津丘陵における須恵器生産は、早ければ7世紀後半には始まり、8世紀前半～9世紀中頃が主な操業時期である。これは越後国内の他地域の須恵器生産動向とほぼ一致しており、いわゆる「一郡一窯体制」であった。しかし9世紀前半～中葉には、佐渡小泊窯の製品が越後国全域に流通するという画期的变化が生じる〔坂井1996〕一方、金津丘陵製鉄遺跡群は新津丘陵北西側の金津地区にあり、窯跡と近接するのは燃料が薪や木炭と

共通するためである。古代の秋葉区域の産業は新津丘陵の製鉄・窯跡群が中心で、低湿地や潟湖が大部分を占めていた越後平野の中で新津丘陵は重要な位置にあったと思われ、文献史料上は確認できないが、沼垂柵や国府津である蒲原津とも何らかの関係があった可能性がある。

11世紀後半に各地で成立し始めた公領のひとつである金津保は、秋葉区域に所在したとされる。金津保の初見は建武3年(1336)11月18日「羽黒義成軍忠状写」で、「同二日、引籠于金津保新津城、对于小国政光以下御敵等、到散々合戦畢」(『新潟県史』資料編4-1935[新潟県1983])とあり、北朝方である三浦和田(羽黒)義成は金津保にあった新津城に籠り、南朝方の小国政光らと戦ったとある。この史料によって金津保には新津城が含まれていたことがわかり、この新津城とは新津城・程島館・東島城のいずれであろうとされる(木村1989)。また天正5年(1577)「三条衆給分帳」に「金津保之内遊川」(『新潟県史』資料編5-2704[新潟県1984])とあり、遊川は田上町湯川とみられ、さらに天文13年(1544)10月10日「上杉玄清定実知行宛行状」・同「長尾晴景副狀」(『新潟県史』資料編4-1495・1496[新潟県1983])に「金津保下条村」とあるのは、五泉市下条に当たるとされる。以上のことから金津保の領域は年代によって若干の違いがあった可能性はあるが、秋葉区～田上町北部と新津丘陵の五泉市側までを含む範囲であったと推定する。

院政期～鎌倉初期には建仁元年(1201)3月4日に「城四郎長茂并伴類新津四郎已下、於吉野奥被誅畢」(『吾妻鏡』)とあり、新津四郎はおそらく金津保に何らかの関連を持つ人物と見られるが、阿賀野川以北に勢力を持ち国衙勢力と対峙する城長茂と行動をともにしている。のことから公領である金津保は国衙勢力と城氏との間で不安定な状況であったことが予想される。また南北朝動乱期には阿賀野川以北の北朝方佐々木加地景綱らと、刈羽・魚沼地域に勢力を置く南朝方の小国氏らの蒲原津をめぐっての攻防が続き、阿賀野川流域である金津保(つまり秋葉区域)は、その中で拠点の一つとして注目されていた。その後も越後守護となつた上杉氏・守護代長尾氏にとって、その支配に抵抗する阿賀野川以北の国人層や本庄・色部・中条・佐々木加地氏らを統制するために金津保は地理的に極めて重要な拠点であった。そのため金津保は国衙領として守護の支配下に置かれることとなる。

天正6年(1578)3月に上杉謙信が死去し、養子である景勝・景虎の間で後繼者争い「御館の乱」がおこる。この亂に景勝方として参戦した新津氏は、以降それまで金津保の勢力であった平賀氏に替わり領主となつた。そして慶長3年(1598)景勝とともに会津へと国替えさせられるまで、新津氏が金津保を中心により発展することとなつた。

中世における金津保を中心とした秋葉区域は、阿賀野川流域であり、蒲原津に近いという地理的環境や越後平野を一望することができるという新津丘陵の存在から、常に不安定な政治的状況に置かれていた。先に金津保の領域に推定した範囲に、新津丘陵を中心に中世城館が常に置かれていたのはそのことを示しているのだろう。

近世に入り、越後平野では新発田藩によって新田開発に伴う治水工事が行われるようになった。また近世後期には町人請負による新田開発が盛んになり、潟の干拓が行われた。阿賀野川などの河川も水害対策のために掘削を掘削するなどの普請がなされた。

第III章 調査の概要

第1節 試掘・確認調査（第3図、第1表、図版3）

市道大安寺第5号大開線改良工事（以下、市道改良）に伴う確認調査を2回（細池寺道上遺跡第36-42次調査、以下、第36次調査・第42次調査）実施している。

第36次調査は平成24年7月3日から4日の2日間、寺新田集落を挟む約640mの区間の水田部分を対象に実施した（市道改良第1次調査）。調査対象地は細池寺道上遺跡中央東寄りに含まれる。対象面積は6,400m²で、15か所のトレンチを設定した。調査の結果、表土から0.2～0.7mで遺物包含層の可能性が高い黒褐色シルト層が確認されたが、いずれの地点でも遺構・遺物は確認されなかつた。

第42次調査は、平成25年11月18日から11月22日の5日間行った。調査対象地は細池寺道上遺跡北部に含まれる。道路と田の間の空闊地で、平成20年度に両新地区は場整備事業が行われる以前は水田であった。対象地中央部に接する範囲では、平成20年度には場整備事業に先立って細池寺道上遺跡第26次調査（以下、第26次調査）2区の本調査が行われており、道路状遺構や9棟の掘立柱建物跡などが検出されていることから、遺跡の広がりが予想された。確認調査対象面積は5,500m²で、9か所のトレンチを設定した。現地形は、南端の9Tにおいて標高8.3m程度と最も高く、北端の1Tで7.7mと南から北に向かって緩やかな下り勾配となっている。

調査の結果、いずれのトレンチからも遺物の出土ではなく、遺物包含層の可能性が高い暗褐色シルト層（本調査Ⅲ層）は1Tで確認されたのみである。9か所のトレンチ中1・3Tを除く7か所で遺構が検出された。検出遺構は溝2条・土坑3基・ピット22基で、特に第26次調査2区に隣接する5～7Tで集中する傾向にある。これらの検出層位・標高、覆土は第26次調査で検出された遺構と近似することから、いずれも中世のものと判断され、道路新規拡幅部分の本調査を行うこととなった。

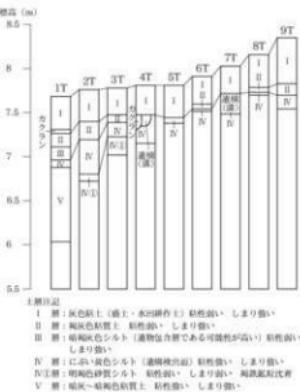
第2節 本発掘調査

A 調査方法

1) グリッドの設定（図版4）

当該地域については、平成19年度に県営両新地区は場整備事業に伴う調査実施のために、世界測地系（測地成果2000）を用いたグリッド設定が行われており、これをそのまま利用した。なお、当該地域では、平成23年の東日本大震災による地盤変動に対応するため、三角点位置および水準点標高の改定が行われている（測地成果2011）、既往調査との整合をとるために断りがない場合には、測地成果2000による座標値を掲載している。

調査グリッドの基準点は、X座標：200400.000、Y座標：56900.000、緯度：37°48'15" 14414、経度



第3図 細池寺道上遺跡試掘・確認調査
土盤柱状図(1/80)

139° 08' 46" 21710 (測地成果 2011:X 座標 : 200399.790, Y 座標 : 56901.000, 緯度 : 37° 48' 15" 13710, 経度 139° 08' 46" 25792) を 1A-1A 杭とした。基準点に対し国土地理院の第 8 系座標軸を用いて 10m の方眼を組み、これを大グリッドとした。大グリッドの名称は北西隅の杭を基点として短軸方向をアラビア数字、長軸方向をアルファベットとし、この組み合わせによって表示した。大グリッドをさらに 2m 方眼に区分して 1 から 25 の小グリッドに分割し、「8O-4A12」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。

発掘調査区の座標は次のとおりである。

8O-4A (X 座標 : 199670.000, Y 座標 : 58300.000, Z 座標 : 7.967m, 緯度 : 37° 47' 51" 14833, 経度 : 139° 09' 43" 23785)

8O-4A 杭で長軸方向を座標北の 0 度 0 分 0 秒とし、座標北は真北に対し 0 度 20 分 20 秒 69 東偏し、磁北は真北に対し 8 度 10 分西偏する。

2) 調査方法

① 表土剥ぎ：確認調査結果から、遺構確認面上面まで水田耕作による削平を受けていることが確認されたため、遺物包含層（Ⅲ層）上面まで、遺物の出土に注意しながら重機（バックホウ）により除去した。排土は一旦仮置場に集積した後、場外へ搬出した。法面は安全面を考慮して一分の勾配とした。また、湛水防止のために、表土剥ぎと並行して調査区の周間に土側溝を掘り、2 時のポンプで強制排水を行った。土側溝は人力で掘削し、幅 20cm、深さ 20cm 程の溝で、壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるために緩く傾斜をつけた V 字の溝を掘削した。土側溝により遺構の破壊が考えられたが、湛水により調査が不能になることを防ぐ処置である。

② 包含層掘削・遺構検出・発掘：重機で掘削後、ジョレン等を用いて人力で精査を行い、包含層の掘削・遺構の検出にあたった。排土は人力で調査区外へ搬出した。

③ 実測・写真：実測図は断面図を 1/20 で作成した。平面図や各種測量点は測量業者に委託してトータルステーションを用いて作成し、あわせて俯瞰写真を撮影した。写真撮影は 35mm 版、6×7 版のフィルムカメラおよびデジタルカメラを用い、白黒フィルム・カラー・ポジフィルムを適宜併用した。

④ 遺物取り上げ：包含層出土遺物は小グリッド単位として取り上げた。遺構出土遺物は点数が少ない地点が多く、層位・小グリッド単位ごとに一括で取り上げた。

⑤ 自然科学分析：土壤分析・植物珪酸体分析・花粉分析・種実同定・放射性炭素年代測定（AMS）の科学分析を行った。

B 調査経過

平成 26 年 6 月 20 日から諸準備を開始した。農道乗り入れ、水田の使用等の協議を行い、準備工として、6 月 20 日に調査前草刈、6 月 26 日に調査前撮影、6 月 30 日に機材・重機、7 月 1 日に敷設板を搬入した。6 月 27 日～6 月 30 日に仮設準備作業を行い、7 月 4 日にプレハブ・休憩所・トイレなどを搬入・設置し、7 月 7 日に発掘機材の搬入を行った。

7 月 14 日から重機によって表土を除去する作業を調査区北側より開始。調査区南端までを 7 月 30 日まで行った。重機掘削と並行して作業員約 5 名で排水路掘削・法面仕上げおよび遺構検出準備作業を開始した。徐々に増員しながら、7 月 22 日より表土機械掘削班 5 名と遺構検出班 6 名の 2 バンに分かれ、重機掘削の終了した調査区北側から包含層掘削および遺構検出作業を開始した。遺構の掘削・写真撮影・計測は 7 月 23 日より開始した。

9 月 11 日までにほぼ遺構の精査を終了し、空掘に備えた清掃作業を 9 月 12 日～9 月 18 日に行い、9 月 19 日にラジコンヘリコプターおよび高所作業車による調査区全体の撮影を行った。9 月 22 日にラジコンヘリコプターによる追加撮影を行った。全景撮影後は、9 月 22 日～24 日まで調査の補足を行うとともに現地説明会の準備作業を行った。

9 月 28 日に現地説明会を実施し、68 名の来場者があった。

9月30日には(株)火山灰考古学研究所の早田勉氏に来跡頂き、1・2区の自然科学分析サンプリングを行った。
10月1日～9日まで機材搬出・撤収を行い、10月7日までにプレハブ・休憩所・トイレなどを撤去し、10月10日に秋葉区建設課と引き渡し協議を行ない、現地調査を終了した。

最終的な発掘調査面積は、合計面積は上端面積 557.28m²、下端面積 359.06m²である。

C 調査体制

【平成25年度 第42次調査】

調査期間	平成25年11月18日～平成25年11月22日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化観光・スポーツ部歴史文化課（課長 倉地一則、課長補佐 拝野博一） 歴史文化課埋蔵文化財担当（主査 広野耕造）
調査担当	朝岡政康（新潟市歴史文化課 主査）

【平成26年度 第43次調査】

調査・整理期間	平成26年6月20日～平成27年3月31日
調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化スポーツ部文化財センター (所長 中野俊一 所長補佐 福地康郎 主任 渡邊朋和 本間敏則 遠藤恭雄)
調査担当	遠藤恭雄（新潟市文化財センター 主任）
調査員	青木 誠 日置祐輔（株式会社イビソク）

第3節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

遺物量はコンテナ（内径 54.5×33.6×10.0cm）にして 5 箱である。平安・鎌倉・室町時代の土器・陶磁器・石製品・土製品・鍛冶関連遺物などの遺物がある。

遺物の整理作業は次の手順で行った。①洗浄。②注記。③包含層：グリッド別の種別の重量計測。④遺構：遺物の器種別の重量・個体数計測。⑤接合。⑥報告書掲載遺物の抽出。⑦実測図作成。観察表作成。⑧トレス図作成。⑨仮割付作成。⑩版下作成。このうち⑧と⑩は業者に委託してデジタル編集をした。

2) 遺構

平面図を作成するにあたっては、まず測量業者に委託した 1/20 の遺構平面図と手取り断面図との校正作業を行った。報告書の 1/80 と 1/40 の遺構平面図は測量業者が作成し、デジタルデータとした。

B 整理経過

発掘調査と並行して整理作業を行った。出土遺物の水洗・注記・計測・接合・実測作業と、写真・図面整理を行い、併せて測量業者に委託した遺構平面図の校正作業を行った。遺構平面図は測量業者が作成のデジタルデータを用いた。職員および調査員は、遺物写真の撮影、図版のレイアウト、報告書の執筆・編集にあたり、平成26年度に報告書を刊行した。

第IV章 遺 跡

第1節 概 要

細池寺道上遺跡は阿賀野川の自然堤防上に立地する。標高は現水田面で 8.5 ~ 8.2m を測り、南東から北西にかけて緩やかに下がっていく。遺構確認面でも同様に傾斜しており標高 8.1 ~ 7.7m を測る。出土遺物は鎌倉・室町時代のうち 13 世紀から 14 世紀のものが主体を占め、平安時代の遺物は少量であり大半は後世の紛れ込みと見られる。

大部分の遺構は出土遺物の状況から鎌倉・室町時代に属する。調査区域全体が狭小なため遺構全体を調査できず、一部分の調査に限られているものが多い。

遺物量はコンテナ（内径 54.5×33.6×10.0cm）換算で 5 箱となる。内訳は土器・陶磁器 3 箱、石製品・礫・鍛冶関連遺物 1 箱、木製品 1 箱である。

なお、本調査地（以下、本調査または第 43 次調査）は、2008 年度は場整備に伴う調査地〔立木ほか 2014〕（以下、第 26 次調査）2 区に隣接する。

第2節 層 序（図版 13、写真図版 9・10）

基本層序は第 26 次調査を元に I ~ IV 層の 4 層に大別した。延長の長い調査区の記録をしているため、色調等に若干の相違が生じているが、共通の認識のもとに分層した。I 層は表土・盛土・現水田耕作土、II 層は現水田床土である。III 層は古代・中世の遺物包含層であるが、既に削平されているため、今回の調査ではごく一部の確認に留まる。IV 層は遺構確認面となる。記録に際しては色調・土質・土色・粘性・しまり・混入物に着目した。調査区は大正末年から昭和 20 年代に行われた耕地整理による削平や耕作による搅乱および既存道路造成工事・埋設管敷設工事による搅乱を受けており、遺物包含層はほとんど消失している。遺構確認面までの深度は最も浅いところで 0.5m、最も深いところで 0.94m である。旧河川と推測される落ち込みは見られず、阿賀野川や早出川による洪水堆積層も確認できない。また、遺構確認面である IV 層は酸化しており長時間湛水することなく安定した土地だったことが窺える。

- I 層 黒褐色 (10YR3/1) 土 粘性・しまりややあり。炭化物はほとんどなし。層厚 0.4 ~ 0.8m。本調査区では畦を構築した時の盛土・整地土が主体。
- II 層 褐灰色 (10YR4/1) 土 粘性あり、しまり非常にあり。炭化物はほとんどなし。層厚 0.1 ~ 0.2m。水田耕作土・床土。色調等により細分は可能であったが、基本層として水田耕作土・床土と捉えられるところから、今回の調査では分けていない。
- III 層 黒褐色 (10YR2/3) 土 粘性ややあり、しまりあり。φ1mm の炭化物が少量入る。層厚 0.06m。古代・中世の遺物包含層。今回の調査では既に削平されており、ごく一部の確認に留まる。
- IV 層 暗褐色 (10YR3/4) 土 粘性ややあり、しまりあり。炭化物はほとんどなし。地山、一部遺構確認面。

第3節 遺構 (図版5~22)

遺構番号は調査区ごとに遺構の種別に関わらず通し番号を付したが、遺構ではないと判断したものについては欠番とした。説明は種別ごとにし、井戸(SE)、土坑(SK)、溝(SD)、小土坑(Pit)、道路状遺構の順に順次記す。遺跡全体で検出された遺構数は道路状遺構2基、SE10基、SK16基、SD28基、小土坑(Pit)191基である。遺構の形態分類はSE・SK・SDについては大まかに円形、楕円形・方形・長方形・不整形の5種類に、断面形は皿形、半円形、台形状、箱形の4種類に分類し(第4図)、調査区外へ延びる遺構については可能な限り推測して記した。遺構の計測値等は別表1に記し、詳細な説明は一部省略している。

調査区内は標高7.70~8.10mを測り、遺構は8.00m以上の範囲に集中しており地形の低い北側では遺構密度が希薄となる。調査面積は上端面積557.28m²、下端面積359.06m²である。

a 井戸 (SE)

SE12 (図版8・13・14、写真図版9・10)

7N-10H9・10・14・15に位置する素掘りの井戸である。Pit324を切る。遺構の半分は調査区東側に延びている。平面形は長方形と推定され、断面形は台形状である。確認面での深さ0.76mを測る。覆土は4層に分けられ、2層はIV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。遺物は出土していない。

SE46 (図版8・14、写真図版10)

8N-2J11・16に位置する素掘りの井戸である。平面形は不整形で、断面形は台形状である。確認面での深さ0.85mを測る。覆土は4層に分けられ、3層以上はIV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。珠洲焼片口鉢、砥石が出土している(図版23・25)。

2層より出土した種実(コムギ胚乳)の放射性炭素年代測定の結果、14世紀初頭~15世紀初頭の年代が得られている。

SE77 (図版8・13・14・22、写真図版10)

8N-3J14に位置する素掘りの井戸である。遺構の半分は調査区東側に延びている。確認面で深さ0.51mを測る。平面形は楕円形と推定され、断面形は皿形である。確認面で深さ1.12mを測る。覆土は5層に分けられ、3層以上はIV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。珠洲焼甌が出土している(図版23)。

SE169 (図版10・15、写真図版10)

8O-9D23に位置する素掘りの井戸である。SK286の西側を切る。遺構の半分は調査区西側に延びている。平面形は楕円形と推定され、断面形は皿形である。確認面で深さ1.12mを測る。覆土は5層に分けられ、全体がIV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。中世土師器皿小片が出土している。

SE178 (図版11・14、写真図版10)

9O-1E1-2・6・7に位置する素掘りの井戸である。Pit180に切られる。遺構の半分は調査区東側に延びている。平面形は楕円形と推定され、断面形は台形状である。確認面で深さ1.05mを測る。覆土は5層に分けられ、3層以上はIV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。青磁碗、鉄釘、鉄滓が出土している(図版23)。



平面形態の分類



断面形態の分類

第4図 遺構形態模式図

[北村他(2004)]から転載・一部改変

SE189 (図版 11・16、写真図版 11)

9O-2E15・20 に位置する素掘りの井戸である。西側上面を擾乱により切られる。平面形は梢円形で、断面形は箱形である。確認面で深さ 0.90m を測る。白磁碗、軽石製石製品が出土している (図版 23)。

SE208 (図版 12・15、写真図版 11)

9O-6H2・7・8・12 に位置する素掘りの井戸である。SD293 の東側と SD309 の西側を切る。調査区東側に延びており、遺構全体の 3/4 の確認に留まる。平面形は円形と推定され、断面形は台形状である。確認面で深さ 1.04m を測る。覆土は 6 層に分けられる。珠洲焼片口鉢・中世土師器皿小片・須恵器壺が出土している (図版 23)。

SE262 (図版 9・16、写真図版 11)

8O-4A22・23 に位置する素掘りの井戸である。SD256 に北側を切られる。調査区西側に延びており、遺構全体の 3/4 の確認に留まる。平面形は梢円形であり、断面形は箱形である。確認面で深さ 0.85m を測る。覆土は 2 層に分けられ、いずれも IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積であり、短期間に人為的に埋められたことがわかる。須恵器無台壺が出土している。

SE263 (図版 10・16・20、写真図版 11)

8O-7B15・7C11 に位置する素掘りの井戸である。SD142 の東側を切る。遺構の大半は調査外に延びている。平面形は円形で、断面形は台形状である。確認面で深さ 1.41m を測る。覆土は 3 層に分けられる。珠洲焼片口鉢、珠洲焼甕、土師器、鉄滓、礫が出土している (図版 23)。3 層より出土した種実 (イネ胚乳) の放射性炭素年代測定の結果、13 世紀後葉～14 世紀後葉の年代が得られている。

SE300 (図版 12・15、写真図版 11)

9O-6H1・2 に位置する素掘りの井戸である。南側を SD293 と Pit209、西側を Pit205 に切られる。調査区東側に延びており、遺構全体の 3/4 の確認に留まる。平面形は円形と推定され、断面形は台形状である。確認面で深さ 1.06m を測る。覆土は 4 層に分けられる。青磁碗、珠洲焼片口鉢、珠洲焼甕、軽石製石製品が出土している (図版 23～25)。4 層より出土した種実 (コムギ胚乳) の放射性炭素年代測定の結果、13 世紀後葉の年代が得られている。

b 土 坑 (SK)**SK20** (図版 8・16、写真図版 11)

7N-10H20・25、10I16・21 に位置する。西側を擾乱に切られる。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.58m、深さ 0.15m を測る。覆土は単層であり、黄褐色土ブロックを含む。遺物は出土していない。

SK38 (図版 8・16)

8N-11I23・24 に位置する。遺構の半分は調査区東側に延びている。Pit249 の上面を切る。平面形は梢円形、断面形は半円形である。確認面で現存長軸 0.85m・短軸 0.74m・深さ 0.20m を測る。覆土は単層であり、黄褐色土ブロックを含む。中世土師器小片が出土している。

SK49 (図版 8・17、写真図版 12)

8N-2J17・22 に位置する。Pit48・58 に切られる。遺構の半分は調査区東側に延びている。平面形は不整形、断面形は皿形である。確認面で長軸 1.56m・現存短軸 0.34m・深さ 0.50m を測る。覆土は 2 層に分けられ、3 層以上は IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。断面形状からは柱穴の可能性もあるが、判然としない。遺物は出土していない。

SK127 (図版 9・13・17、写真図版 9・12)

8O-5A15 に位置する。遺構の半分は調査区東側に延びている。西側は SK128 を切る。平面形は長方形と思われ、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 1.02m・現存短軸 0.41m・深さ 0.51m を測る。覆土は 7 層に分けられ、III 層由来の黒褐色土ブロック・IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。遺

物は出土していない。

SK128 (図版 9・17、写真図版 9・12)

8O-5A14・15に位置する。東側を SK127、上面を Pit125 に切られる。平面形は楕円形と推定され、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 0.73m・短軸 0.50m・深さ 0.45m を測る。遺物は出土していない。形状からは溝の可能性がある。

SK130 (図版 9・17、写真図版 12)

8O-5A20に位置する。遺構の半分は調査区東側に延びている。西側を Pit129 に切られる。平面形は楕円形と推定され、断面形は半円形である。確認面で長軸 0.64m・現存短軸 0.38m・深さ 0.18m を測る。覆土は単層である。土師器長甕・小甕小片が出土している。

SK174 (図版 10・18、写真図版 12)

8O-10D20に位置する。調査区西側に延びており、遺構全体の 1/4 のみの確認に留まる。南側を SK265 に切られる。平面形は円形と推定され、断面形は皿形である。確認面で現存長軸 0.45m・現存短軸 0.40m・深さ 0.13m を測る。黄褐色土ブロックを含む。遺物は出土していない。

SK186 (図版 11・18、写真図版 12)

9O-2E2・3に位置する。遺構の半分は調査区西側に延びている。南側の SK270 を切る。平面形は楕円形と推定され、断面形は一部段を有する皿形である。確認面で長軸 0.80m・現存短軸 0.30m・深さ 0.11m を測る。遺物は出土していない。堆積土の状況から井戸の可能性があるが、西壁際のため詳細は不明である。

SK200 (図版 12・18、写真図版 12)

9O-5G3・8に位置する。遺構の半分は調査区東側に延びている。西側は SK201 に切られる。平面形は楕円形と推定され、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.02m・現存短軸 0.50m・深さ 0.10m を測る。覆土は 2 層であり、黄褐色土ブロックを含む。遺物は出土していない。

SK201 (図版 12・18・21、写真図版 12)

9O-5G3・8に位置する。遺構の大半は調査区西側に延びている。東側の SK200 と西側の SD199 を切る。平面形は楕円形と推定され、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.95m・現存短軸 0.19m・深さ 0.08m を測る。覆土に黄褐色土ブロックを含む。遺物は出土していない。

SK265 (図版 10・18、写真図版 12)

8O-10D20に位置する。遺構の半分は調査区西側に延びている。南側で SK174 を切る。平面形は楕円形と推定され、断面形は皿形である。確認面で長軸 0.60m・現存短軸 0.65m・深さ 0.06m を測る。覆土に黄褐色土ブロックを含む。遺物は出土していない。

SK268 (図版 11・18、写真図版 13)

9O-1E12・13・17・18に位置する。遺構の大半は調査区東側に延びている。平面形は不整形、断面形は台形状である。確認面で長軸 1.89m・現存短軸 0.50m・深さ 0.36m を測る。覆土は 3 層であり、黄褐色土ブロックを含む。坑底面には粘質の黒色シルトが見られる。須恵器瓶類底部片が出土している (図版 24)。堆積土の状況から井戸の可能性がある。

SK270 (図版 11・18、写真図版 12)

9O-2E4に位置する。遺構の半分は調査区西側に延びている。北側を SK186 に切られる。平面形は方形、断面形は半円形である。確認面で現存長軸 0.36m・現存短軸 0.26m・深さ 0.16m を測る。覆土に黄褐色土ブロックを含む。遺物は出土していない。坑底面南側に杭状の痕跡と北側に緩やかな段差を有し、Pit の可能性があるが、全容を確認できていないため、詳細は不明である。

SK286 (図版 10・18、写真図版 13・15)

8O-9D23に位置する。遺構の大半は調査区外に延びている。北側を SE169 に切られ、南側の SD170 を切る。

平面形は不明、断面形は台形状である。確認面で長軸 0.70m・現存短軸 0.65m・深さ 0.43m を測る。覆土は単層であり、黒色土が主体である。遺物は出土していない。断面の形態、堆積土の状況から溝の可能性がある。

SK294 (図版 12・19・22、写真図版 13)

9O-6H13・14・18・19 に位置する。遺構の半分は調査区東側に延びている。北側の Pit305・310・311、南側の Pit304 を切る。平面形は梢円形と推定され、断面形は半円形である。確認面で現存長軸 1.93m・現存短軸 0.68m・深さ 0.53m を測る。覆土は 4 層であり、黒色土が主体である。遺物は出土していない。形状、堆積土の状況から井戸の可能性がある。

SK334 (図版 12・13・19、写真図版 10・13)

9O-7H5・10・711・6 に位置する。遺構の大半は調査区外に延びているため、全体の 1/4 の確認に留まる。平面形は梢円形と推定され、断面形は台形状である。確認面で現存長軸 1.10m・現存短軸 0.89m・深さ 0.38m を測る。覆土は 3 層である。遺物は出土していない。形状、堆積土の状況から井戸の可能性がある。

C 溝 (SD)

SD3 (図版 7・19、写真図版 13)

7N-6G17-22・23, 7G3・8 に位置する。主軸方位は N38°W で南北は調査区外へ延びる。断面形は皿形である。確認面で現存幅 0.75m、掘り込み面からの深さ 0.15m を測る。覆土は 2 層である。遺物は土器小片が出土している。堆積土は黒色土であるがしまりが弱く、新しい時期のものである可能性が高い。

SD40 (図版 8・13・19、写真図版 9・13)

8N-214・5・9・10 に位置する。南側で Pit41 を切る。主軸方位は N58°E で東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面で幅 1.98m、深さ 0.58m を測る。覆土は 5 層に分けられる。遺物は出土していない。

SD117 (図版 9・13・17、写真図版 13)

8O-5A3・4・8・9 に位置する。主軸方位は N81°E で東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅 0.70m、掘り込み面からの深さ 0.37m を測る。覆土は 3 層に分けられる。珠洲焼片口鉢、土器小片、鉄滓が出土している (図版 24)。SD316 とセットで道路状遺構 3 を構成する。

SD122 (図版 9・13・17、写真図版 14)

8O-5A9・14 に位置する。南側を SD123 に切られる。主軸方位は N72°E で東西は調査区外へ延びる。断面形は緩やかな段を持つ半円形である。確認面での幅 0.68m、掘り込み面からの深さ 0.34m を測る。覆土は 3 層に分けられ、黄褐色土ブロックを含む。遺物は出土していない。

SD123 (図版 9・13・17、写真図版 14)

8O-5A14・15 に位置する。北側の SD122 を切る。主軸方位は N72°E で東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅 0.42m、掘り込み面からの深さ 0.22m を測る。覆土は 2 層に分けられ、黄褐色土ブロックを含む。土器器長甕の小片 6 点が出土している。

SD137 (図版 9・20、写真図版 8・14)

8O-6B7・12・13・18・23・24 に位置する。少なくとも 3 時期の溝を含み、第 26 次調査 2 区で確認された道路状遺構 1 の西側を構成する SD78・79 の南側延長にあたると考えられる。主軸方位は北側が N3°W、南側が N5°W で、南北は調査区外へ延びる。切り合いがあり不明瞭であるが、北側で断面形半円形、確認面での現存幅 0.86m、掘り込みからの深さ 0.49m を測り、覆土は 3 層に分けられる。南側では断面台形状、確認面での現存幅 1.00m、掘り込みからの深さ 0.57m を測る。覆土は 4 層である。南北の 2 条の溝はほぼ同軸であることから、同一の機能を持つ溝が造り直されたものと考える。また、北側の溝の断面を見ると、異なる深度の部分が検出されており、これは掘り直した痕跡と考えられる。これらのことから、少なくとも 3 時期の掘り直しが行われたと推定される。須恵器長頸壺部片・中世土器皿・珠洲焼甕が出土している (図版 24)。南側の坑底面には工具痕が残る。南側 3 層より出土した種実 (イネ胚乳) の放射性炭素年代測定の結果、11 世紀半ば～13

世紀初頭の年代が得られている。

SD142 (図版 9・10・20、写真図版 8・14)

8O-7B4・5・9・10・15に位置する。第26次調査2区で確認された道路状遺構1の東側を構成するSD767・768の南側延長にあたると考えられる。主軸方位はN11°Wで、断面形は半円形、確認面での現存幅0.85m・掘り込み面からの深さ0.67mを測るが、南北は調査区外へ延びるため、全容は不明である。覆土は3層である。遺物は出土していない。断面の観察からSD137同様、異なる深度の部分が検出されており、少なくとも2時期は存在する。

SD144 (図版 10・21、写真図版 15)

8O-7C16に位置する。主軸方位はN82°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅0.48m、掘り込み面からの深さ0.27mを測る。覆土は2層に分けられ、IV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。鉄滓が出土している。

SD148 (図版 10・21、写真図版 15)

8O-7C22、8C2に位置する。北側をPit145に切られる。主軸方位はN8°Eで南北は調査区外へ延びる。断面形は皿形である。確認面での短軸0.68m、掘り込み面からの深さ0.14mを測る。覆土は2層に分けられ、IV層由来の黄褐色土ブロックを微量含む堆積土である。遺物は出土していない。

SD150 (図版 10・21、写真図版 15)

8O-8C8に位置する。南側のSD151を切る。主軸方位はN59°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅0.88m、掘り込み面からの深さ0.41mを測る。覆土は単層で、IV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。遺物は出土していない。

SD151 (図版 10・21、写真図版 15)

8O-8C8に位置する。北側をSD150に切られる。主軸方位はN73°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は半円形である。確認面での幅0.58m、掘り込み面からの深さ0.32mを測る。覆土は単層で、IV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。珠洲焼片口鉢が出土している。

SD153 (図版 10・21、写真図版 15)

8O-8C9・13・14に位置する。主軸方位はN70°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は皿形である。確認面での幅1.19m、掘り込み面からの深さ0.16mを測る。覆土は単層で、IV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。遺物は出土していない。

SD154 (図版 10・21、写真図版 15)

8O-8C14・19に位置する。主軸方位はN54°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅0.63m、掘り込み面からの深さ0.35mを測る。覆土は3層に分けられ、III層由来の黒褐色土ブロックとIV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。特に2層は黒色土の割合が高い。遺物は出土していない。

SD158 (図版 10・21、写真図版 15)

8O-9D1・6に位置する。主軸方位はN70°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅1.22m、掘り込み面からの深さ0.58mを測る。覆土は5層に分けられ、III層由来の黒褐色土ブロックとIV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。特に5層は黒色土の割合が高い。遺物は出土していない。

SD162 (図版 10・21、写真図版 15)

8O-9D12・17に位置する。主軸方位はN65°Eで東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅1.00m、掘り込み面からの深さ0.57mを測る。覆土は5層に分けられ、III層由来の黒褐色土ブロックとIV層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。特に3・4層は黒色土の割合が高い。遺物は珠

洲焼甕、軽石製石器、焼磚、礫が出土している（図版 24）。

SD170（図版 10・18、写真図版 13・15）

8O-9D23、10D3・4 に位置する。西側を SK286 に切られる。主軸方位は N64° E で東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅 1.60m、掘り込み面からの深さ 0.64m を測る。覆土は 4 層に分けられ、Ⅲ層由来の黒褐色土ブロックとⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。特に 3 層は黒色土の割合が高い。擦石が出土している。

SD173（図版 10・21、写真図版 16）

8O-10D9 に位置する。西側で Pit172 を切る。主軸方位は N79° E で東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅 0.76m、掘り込み面からの深さ 0.51m を測る。覆土は 5 層に分けられ、2～4 層はⅢ層由来の黒褐色土ブロックとⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。特に 5 層は黒色土の割合が高い。須恵器小片が出土している。南側のテラスは掘り直しの可能性がある。

SD199（図版 12・21、写真図版 16）

9O-4G22・23、5G2・3 に位置する。東側を SK201 に切られる。主軸方位は N9° E で南北は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面での幅 0.89m、掘り込み面からの深さ 0.65m を測る。覆土は 4 層に分けられ、2～4 層はⅢ層由来の黒褐色土ブロックとⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土である。特に下層は粘性が高い。遺物は出土していない。

SD219（図版 12・13・22、写真図版 9・16）

9O-6H25、7H5、7I1 に位置する。Pit320 に切られる。主軸方位は N21° E で南北は調査区外へ延びる。断面形は皿形である。確認面での短軸 0.70m、掘り込み面からの深さ 0.10m を測る。覆土は単層であり、Ⅲ層由来の黒褐色土とⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土である。遺物は出土していない。

SD237（図版 8・13・19、写真図版 16）

8N-11I24、214 に位置する。主軸方位は N65° E で東西は調査区外へ延びる。断面形は皿形である。確認面での短軸 0.40m、掘り込み面からの深さ 0.06m を測る。覆土は 2 層に分けられ、1 层はⅢ層由来の黒褐色土ブロック、2 層はⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土である。遺物は出土していない。

SD239（図版 8・13・22、写真図版 9・16）

8N-3J2・3 に位置する。主軸方位は N76° E で東西は調査区外へ延びる。断面形は半円形である。確認面での幅 0.42m、掘り込み面からの深さ 0.14m を測る。覆土は 2 層に分けられ、1 层はⅡ層由来の灰褐色土ブロック、2 層はⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土である。1 层は水田耕作時に掘り返されて、混入したと考えられる。遺物は出土していない。SD240 とセットで第 26 次調査 2 区道路状遺構 2 の西側延長部と考えられる。

SD240（図版 8・13・22、写真図版 9・16）

8N-3J3・7・8 に位置する。主軸方位は N78° E で東西は調査区外へ延びる。断面形は半円形である。確認面での幅 0.40m、掘り込み面からの深さ 0.20m を測る。覆土は 2 層に分けられ、1 层はⅡ層由来の灰褐色土とⅣ層由来の黄褐色土ブロック、2 层はⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土である。1 层は水田耕作時に掘り返されて、混入したと考えられる。遺物は出土していない。SD239 とセットで第 26 次調査 2 区道路状遺構 2 の西側延長部と考えられる。

SD256（図版 9・22、写真図版 16）

8O-4A17・18・23 に位置する。溝に土坑状の落ち込みが伴う遺構である。主軸方位は N12° W で北は調査区外へ延びる。溝部分は断面半円形で、確認面での幅 0.26m、掘り込み面からの深さ 0.22m を測る。覆土は 5 層に分けられ、Ⅲ層由来の黒褐色土とⅣ層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土である。1・2 層は溝を造り替えている可能性が高い。遺物は出土していない。

SD272 (図版 10・21、写真図版 17)

8O-10D9・14 に位置する。主軸方位は N65° E で東西は調査区外へ延びる。断面形は皿形である。確認面での幅 0.62m、掘り込み面からの深さ 0.06m を測る。覆土は単層であり、IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。遺物は出土していない。

SD273 (図版 10・21、写真図版 17)

8O-10D14・15 に位置する。主軸方位は N63° E で東西は調査区外へ延びる。断面形は皿形である。確認面での幅 0.58m、掘り込み面からの深さ 0.09m を測る。覆土は単層であり、IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む人為的な埋め戻し土である。遺物は出土していない。

SD293 (図版 12・22)

9O-6H1・6・7 に位置する。主軸方位は N38° W で東側を SE208 に切られる。北西は調査区西壁外へ延びる。断面形は台形状である。確認面で現存幅 0.21m、掘り込み面からの深さ 0.11m を測る。遺物は出土していない。

SD309 (図版 12・22、写真図版 17)

9O-6H7・8・12・13 に位置する。主軸方位は N6° E で北側を SE208 に切れ、南側の Pit312 を切る。南北は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面で幅 0.70m、掘り込み面からの深さ 0.41m を測る。覆土は 3 層に分けられ、III 層由来の黒褐色土と IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土で、黒褐色土が主体である。珠洲焼片口鉢、珠洲焼甕が出土している（図版 24）。

SD316 (図版 9・22、写真図版 17)

8O-4A23, 5A3 に位置する。主軸方位は N70° E で南側の一部を Pit116 に切られる。東西は調査区外へ延びる。断面形は台形状である。確認面で幅 1.00m、掘り込み面からの深さ 0.55m を測る。覆土は 4 層に分けられ、IV 層由来の黄褐色土ブロックを含む堆積土である。覆土の堆積の様相から、掘り直しが行われた可能性が考えられる。遺物は出土していない。SD117 とセットで道路状遺構 3 を構成し、第 26 次調査 2 区 SD882 の西側延長部と考えられる。

d 小 土 坑 (Pit)

調査区の幅が狭小で南北に長いため、検出した小土坑は調査区に点在する状況であり、調査範囲内では建物としての配列は確認できなかった。しかし、掘立柱建物などの検討が必要と考えられるため、個別ではなく覆土の状況と性格で群として概要を述べる。

遺構覆土については、黒色土が中世遺物包含層（III 層）由来と考えられ、明確な黒色土が堆積しているもの、性格については堆積状況から柱穴と考えられるものを抽出した。本調査の遺構覆土の観察で明らかな黒色土の堆積が見られるものは、Pit106・184・301・303 で、覆土の状況・断面形態から、柱穴と考えられるものは Pit35・100・106・176・281・284・292・310・311・315・329・333 である。特に Pit100・106 は第 26 次調査 2 区の掘立柱建物 SB990 の延長と捉えられ、Pit100 は Pit656、Pit106 は Pit667 の西側延長部に位置すると考えられる。この他の柱穴は、Pit35・315・329・333 は第 26 次調査区隣接、Pit176・281・284 は道路状遺構 1 と本調査地南端との間、Pit292・310・311 は本調査地南端に位置し、大きく 3 群のまとまりを有する。これらの柱穴は、周囲に掘立柱建物が展開する可能性があるが、本調査の範囲内では建物あるいは柱列としての配置は認められなかった。しかし、これらの柱穴検出地点は、規模の差はあるものの柱穴以外に溝あるいは道路状遺構と井戸がまとまっており、遺構のセット関係からも居住域の一部である可能性が考えられる。

e 道路状遺構 (図版 5・8～10・13・17・19・20・22、写真図版 8・9・13・17)

道路状遺構 1

8O-6B7・12・13・18・19・23・24・7B4・5・9・10・15 に位置し、第 26 次調査 2 区で検出された道路状遺構 1 の南側延長にあたる。西側の側溝は SD137、東側の側溝は SD142 で構成される。前述のように

SD137 は少なくとも 3 時期、SD142 は 2 時期の掘り直しが認められ、継続的に維持管理されていたことが窺える。溝に挟まれた遺構密度の低い空間が路面として機能していたと推測されるが、路面に稀に見られる硬化面や波板状遺構は確認されなかった。検出範囲からの想定模式図（図版 20）によれば、側溝を含む幅は 5.44m（路面幅 1.84m）である。路面部分における主軸方向は N5° W ~ N3° E で、第 26 次調査道路状遺構 1 が主軸を N30° W にとるのに比し、上流（南側）に向けて西寄りに屈曲する。第 26 次調査 2 区 SD78・SD79 が SD137 に、SD768・SD767 が SD142 の延長にあたると考えられる。

道路状遺構 2

8N-3J2・3・7・8 に位置し、第 26 次調査 2 区道路状遺構 2 の西側延長にあたる。主軸方向は N80° E で SD239 を北側、SD240 を南側の側溝とし、側溝を含む幅は 1.20m、路面幅 0.40m で、西側は調査区外へと延びる。第 26 次調査 2 区 SD154 は調査範囲西壁まで延びてはいないが、位置関係・軸方向から SD239 が連続し、第 26 調査 2 区 SD155 は SD240 に連続すると想定される。第 26 次調査道路状遺構 1 と道路状遺構 2 はほぼ直交する。

道路状遺構 3

8O-4A23・5A3・4・8・9 に位置する。同じ軸方向で隣接する SD117 とともに道路状遺構 3 とした。側溝を含む幅は 3.30m、路面幅 1.60m で、東西は調査区外へと延びる。主軸方向は N74° E で、第 26 次調査 2 区 SD882 が SD316 の延長上にある。調査範囲外のため不明確であるが、第 26 次調査道路状遺構 1 とほぼ直角の位置関係にある。

第V章 遺物

第1節 概要

細池寺道上遺跡からは古代・中世の遺物が出土している。遺物出土総量は、コンテナ（内法 54.5×33.6×10.0cm）に 5 箱である。遺物の内容は、土器・陶磁器 3 箱、石製品・鉄製品・鍛冶関連遺物・礫 1 箱、木製品 1 箱である。

調査区を第 26 次調査 2 区隔接部より北側の 7N グリッド（以下、北部）、隣接する 8N・8O グリッド（以下、中央部）、南側の 9O グリッド（以下、南部）の 3 地区に分けて古代・中世の土器・陶磁器の出土状況を概観する。なお、調査区内は包含層（Ⅲ層）が部分的にしか残存せず、遺物の出土量も少なかったため、遺物点数については遺構の内外・出土層位を考慮していない。

古代の土器では、土師器が 41 点、須恵器が 10 点、合計 51 点出土している。中央部で 38 点、全体の 74.5% を占め、北部で 7 点、南部で 6 点、それぞれ 10% 強の出土である。小片が多いが、概ね 9 世紀代のものと推定され、中央部に集中する傾向である。中世の土器・陶磁器類は、白磁 1 点、青磁 5 点、中世土師器 11 点、瀬戸美濃焼 1 点、珠洲焼 42 点、合計 60 点が出土している。出土状況は北部で 4 点、6.9%、中央部で 25 点、43.1%、南部で 27 点、46.6%、一括としたものが 2 点、3.4% ある。中央部と南部での出土数が多い。このほか、鍛冶関連遺物として中央部で 7 点、108.5g、南部で 1 点、19g、合計 8 点、127.5g の鉄滓、中央部の Pit106 で発見された羽口 1 点が出土している。

出土遺物の記述については、土器・陶磁器、鍛冶関連遺物、石製品の順とし、さらに遺構内出土種別順（井戸 SE・土坑 SK・溝 SD・小土坑 Pit）、遺構外の順で行う。土器・陶磁器の分類・名称及び編年については、珠洲焼は吉岡康暢の研究（吉岡 1994）、白磁・青磁は山本信夫の研究（山本 2000）を参考とした。

第2節 遺構出土遺物（図版 23～25、別表 2～4）

SE46（図版 23・25、写真図版 18）

珠洲焼片口鉢（1）が出土している。口縁部の破片で口縁端部は方頭形を呈する。ロクロ成形と思われ、内面に卸目が 1 目残る。卸目が少ないと III～IV 期と考えられる。

凝灰岩製の砥石（39）が出土している。上端部を含め 6 面に砥面が残る、長さ 12.6cm の手持ち砥石である。

SE77（図版 23、写真図版 18）

珠洲焼甕（2）が出土している。胴部の破片である。外面にはタタキメが残る。

SE178（図版 23、写真図版 18）

青磁碗（3）の胴部片が出土している。内面に草花文が見られる。ほかに鉄滓片が出土している。

SE189（図版 23、写真図版 18）

白磁碗（4）が出土している。口縁部の破片である。V-4a 類または VII-1 類で D 期（XIV～XV 期、12 世紀中頃～後半）に相当する。

SE208（図版 23、写真図版 18）

珠洲焼片口鉢（5・6）が出土している。5 は口縁部の破片である。内面に卸目は見られないが、方頭形を呈することから IV-2・3 期に相当すると考えられる。6 は胴部の破片である。ロクロ成形と思われる。7 以上との卸目が施される。口縁部が欠損するが、卸目が充填されていないことから IV 期に相当すると考えられる。

SE263 (図版 23、写真図版 18)

珠洲焼片口鉢 (7)、珠洲焼甕 (8・9) が出土している。7 は胴部から底部の破片である。内面に 1 単位 9 目の卸目が施される。卸目がやや密に施されることからⅣ期に相当すると考えられる。8・9 はいずれも胴部の破片である。外面上にはタタキメが残る。ほかに鉄滓片 2 点が出土している。

SE300 (図版 23 ~ 25、写真図版 18)

青磁碗 (10)、珠洲焼片口鉢 (11 ~ 13)、珠洲焼甕 (14 ~ 17)、絆石製石製品 (40) が出土している。10 は青磁碗高台部の破片である。高台内面は釉を剥ぎ取っている。11 ~ 13 は珠洲焼片口鉢である。11 は口縁部から胴部の破片で、ロクロ成形と思われる。内面に卸目が 1 単位 6 目残る。口縁外端部が疊状にやや張り出すことからⅣ期と考えられる。12 は口縁部から胴部の破片である。被熱によるものか、内面がやや変色している。内面に 1 単位 10 目 ~ 11 目の卸目が施される。口縁端部が方頭形を呈することからⅣ期と考えられる。13 は底部の破片である。内・外面上に煤状の付着物が見られる。残存部内面は素文であるが、周辺状況からⅣ期と考えられる。14 ~ 17 は珠洲焼甕胴部の破片である。外面上にはタタキメが残る。40 は梢円形の絆石製石製品で、頗著な加工痕・使用痕は見られない。何らかの素材として持ち込まれた可能性がある。

SK268 (図版 24、写真図版 18)

18 は須恵器瓶類の底部と推定される。貼り付けの高台が残る。見込みに摩滅した使用痕が残ることから窯に転用した可能性もある。

SD117 (図版 24、写真図版 18)

珠洲焼片口鉢 (19) が出土している。底部の破片である。内面には 1 単位 11 目の卸目が放射状に施される。時期はⅣ期に相当すると考えられる。

SD137 (図版 24、写真図版 18)

中世土器皿 (20) の口縁部片が出土している。ロクロ成形で厚手の作りである。ほかに須恵器長頸壺頸部片が出土している。

SD162 (図版 24、写真図版 18)

珠洲焼甕 (21) が出土している。胴部の破片である。外面上にはタタキメが残る。

SD309 (図版 24、写真図版 18)

珠洲焼片口鉢 (22)、珠洲焼甕 (23・24) が出土している。22 は珠洲焼片口鉢胴部の破片である。現状で観察できる卸目は 3 目である。卸目が充填されていないことからⅣ期に相当すると考えられる。23・24 は胴部の破片である。外面上にはタタキメが残る。

P180 (図版 25、写真図版 18)

凝灰岩製の砥石 (41) が出土している。上端部を含め 5 面に砥面が残る長さ 4.4cm の手持ち砥石である。

P314 (図版 25、写真図版 18)

鶴の羽口 (44) が出土している。大部分を欠損しており、わずかに外面上の被熱部が残る。

第 3 節 遺構外出土遺物 (図版 24・25、別表 2・3)

珠洲焼甕 (25・26・28 ~ 30・32・33・35・36・38)、珠洲焼壺 R 種 (27)・T 種 (34)、珠洲焼片口鉢 (34・37)、石製品 (42・43) が出土している。25・26・28 ~ 30・32・33・35・36・38 は珠洲焼甕胴部片であり、外面上にはタタキメが残る。27 は壺の肩部で、外面上に波状文が施される。34 は壺の頸部で外面上に自然釉がみられる。34 は片口鉢の胴部片で、第 26 次調査 2 区で類似する破片 (報告 No.53) が出土している。37 は片口鉢の胴部から底部の破片である。断面の一部に煤状の付着物が見られる。内面上には卸目がなく、素文であるが、周辺状況からⅣ期と考えられる。42 は砥石である。端部を少し欠損するものの、4 面の砥面が見られる。43 は磨石である。大部分を欠損しており使用面は 1 面のみ確認できる。

第VI章 自然科学分析

第1節 細池寺道上遺跡の土層

細池寺道上遺跡では、溝状遺構の覆土を対象に、溝周辺の土地利用をはじめとする当時の人々の生活の様式や植生の復元を目的とする、微化石分析（植物珪酸体分析・花粉分析）が実施された。分析に先立つて試料採取を兼ねて行われた地質調査の結果、明らかになった分析対象溝状遺構覆土の土層層序は、次のとおりである。

1) SD40

中世の遺構と推定されているSD40の基底には、下位より黄色シルト層（層厚5cm以上、IV層）、灰褐色土（層厚12cm、III層）が認められる（第5図①）。

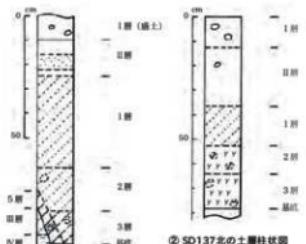
一方、SD40の覆土は、下位より黄色シルトブロック混じりでやや色調が明るい黒灰褐色土（層厚22cm、5層）、黄色シルトや黒色土をブロック状に含むやや褐色がかかった灰色土（層厚10cm、4層）、黄色シルトブロック混じり暗灰色土（層厚13cm、3層）、灰褐色土（層厚38cm、1層）、やや灰色がかかった褐色土（層厚2cm）、砂混じり灰色土（層厚6cm）、灰色土（層厚6cm、以上II層）、亜円礫混じりでやや黄色がかかった褐色盛土（層厚32cm、1層）からなる。

2) SD137 北地点

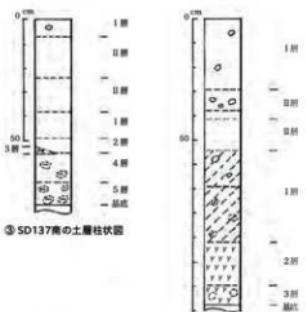
SD40より古い遺構と推定されているSD137の覆土は、SD137北地点において、下位より黄色シルトブロック混じり灰色土（層厚14cm、3層）、黒色土ブロック混じり灰色土（層厚12cm、2層）、やや暗い灰褐色土（層厚15cm、1層）、マンガンや鉄の粒子を多く含む灰色土（層厚23cm、II層）、亜円礫混じり灰色土（層厚12cm、1層）からなる（第5図②）。

3) SD137 南地点

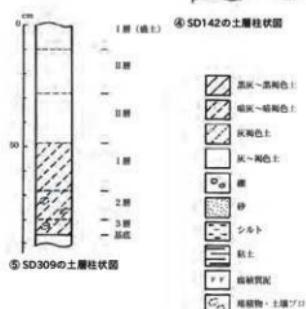
SD137南地点におけるSD137の覆土は、下位より灰色がかかった黄色シルトブロックに富む灰色土（層厚9cm、5層）、灰色がかかった黄色シルトブロックを少し含む灰色土（層厚12cm、4層）、灰色がかかった黄色シルトブロック層（層厚3cm、3層）、黄色シルトブロック混じり灰色土（層厚6cm、2層）、褐色がかかった灰色土（層厚12cm、1層）、やや暗い灰色土（層厚14cm）、灰色土（層厚17cm、以上II層）、亜円礫混じりで褐色がかかった灰色土（層厚7cm、礫の最大径29mm、1層）からなる。



① SD40の土層柱状図



② SD137北の土層柱状図



③ SD137南の土層柱状図

④ SD142の土層柱状図

■	黒灰～黒褐色土
▨	暗灰～暗褐色土
▨	灰褐色土
□	灰～褐色土
○	砂
▨	シルト
▨	粘土
▨	砂礫質土
▨	海綿物・土壤ブロック

⑤ SD309の土層柱状図

第5図 細池寺道上遺跡の土層柱状図

なる（第5図③）。

4) SD142

SD142の覆土は、下位より灰色がかった黄色シルトと黒色土のブロック層（層厚8cm、基底部）、灰色がかかった黄色シルトブロックを少し含む青灰色泥層（層厚9cm、3層）、やや暗い青灰色泥層（層厚18cm、2層）、やや明るい黒灰褐色土ブロックを少し含む暗灰褐色土（層厚23cm）、黄色がかった灰色シルトブロックを少し含む暗褐色土（層厚15cm、以上1層）、マンガン粒子を多く含むやや暗い灰色土（層厚13cm）、灰色土（層厚3cm）、亜円礫を含む青みがかった灰色土（層厚9cm、礫の最大径23mm、以上II層）、亜円礫混じりで灰色がかった褐色土（層厚29cm、礫の最大径28mm、I層）からなる（第5図④）。

5) SD309

SD309の覆土は、下位より黄色がかった灰色シルトブロック混じり暗灰色土（層厚6cm、3層）、黒灰色土ブロック混じり暗灰色土（層厚12cm、2層）、暗灰色土（層厚20cm、1層）、やや暗い灰色土（層厚21cm）、灰色土（層厚18cm、以上II層）、盛土（層厚45cm 1層）からなる（第5図⑤）。

第2節 細池寺道上遺跡における植物珪酸体（プラント・オパール）分析

A はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO_4) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている〔杉山2000〕。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である〔藤原・杉山1984〕。

B 試 料

分析試料は、SD40、SD137北、SD137南、SD142、SD309から採取された計7点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

C 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスピース法（藤原1976）を用いて次の手順で行った。

- 1) 試料を 105°C で24時間乾燥（絶乾）。
- 2) 試料約1gに対し直径約 $40\text{ }\mu\text{m}$ のガラスピースを約0.02g添加（0.1mgの精度で秤量）。
- 3) 電気炉灰化法（ $550^{\circ}\text{C} \cdot 6$ 時間）による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射（300W・42kHz・10分間）による分散。
- 5) 沈底法による $20\text{ }\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成。
- 7) 檢鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスピース個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピース個数に、計数された植物珪酸体とガラスピース個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁

茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山2000）。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

D 分析結果

1) 分類群

検出された植物珪酸体の分類群は次のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第3表および第6図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科]

イネ、イネ（穀の表皮細胞由来）、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）
[イネ科-タケ亜科]

チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節、チシマザサ節など）、ミヤコザサ節型（ササ属ミヤコザサ節など）、未分類等
[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

[樹木]

その他

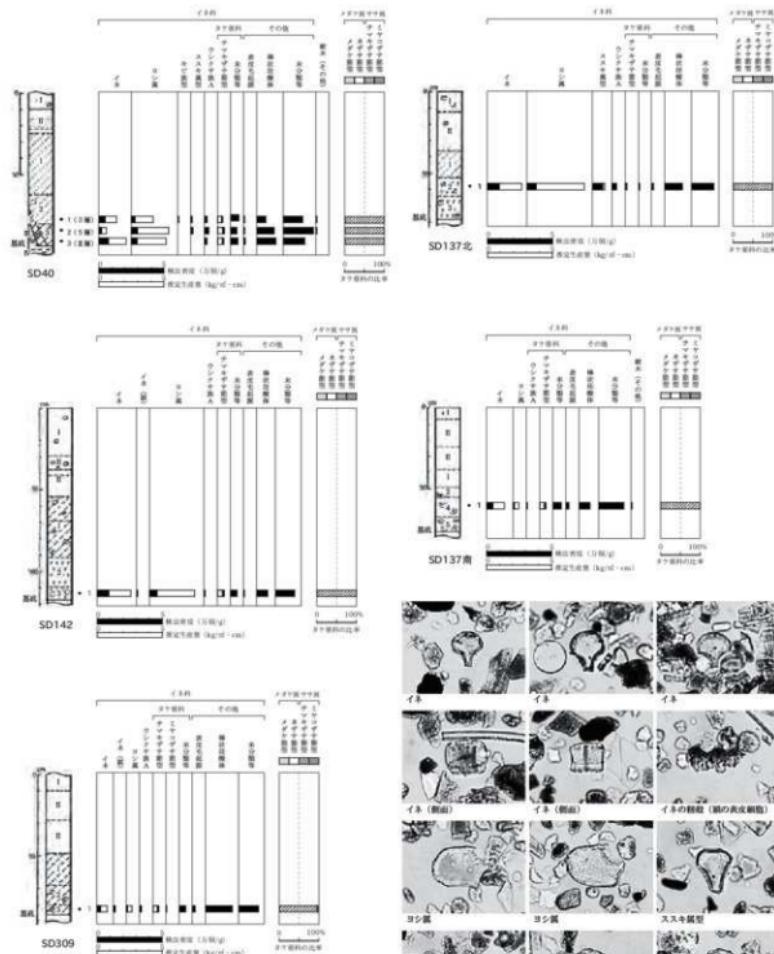
2) 植物珪酸体の検出状況

1) SD40

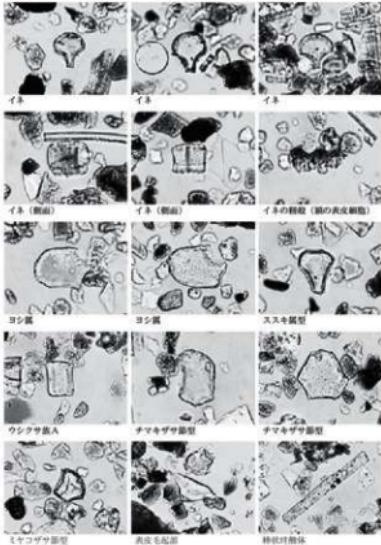
Ⅲ層（試料3）では、イネが多く検出され、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族A、チマキザサ節型なども認められた。イネの密度は7,300個/gと高い値で、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/g（状況により3,000個/gとする場合もある）を上回っている。溝内堆積物の3層（試料1）と5層（試料2）でも、おおむね同様の結果で、ススキ属型、樹木（その他）も認められた。イネの密度は、3層（試料1）で4,700個/gと

第3表 細池寺道上遺跡における植物珪酸体分析結果

分類群	学名	地点・試料	SD40		SD137北		SD137南		SD142		SD309	
			1	2	3	1	1	1	1	1	1	1
イネ科	Gramineae											
イネ	<i>Oryza sativa</i>		47	30	73	92	48	90	27			
イネ科群（穀の表皮細胞）	<i>Oryza sativa</i> (husk Phytolith)								7	14		
ヨシ属	<i>Poaceae</i>		27	46	43	71	7	56				
キビ族型	<i>Panicaceae</i> type		7									
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type		7	13		78						
ウシクサ族A	<i>Andropogoninae</i> A type		20	33	18	35	7	7	7	14		
タケ亜科	Bambusoideae											
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.		40	53	49	14	48	56	48			
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>									7		
未分類等	Others		60	46	55	7	62	49	48			
その他イネ科	Others											
表皮毛起源	Husk hair origin		7	7	12	14	21	7	20			
粒状日輪体	Rodshaped		67	132	146	134	82	83	204			
未分類等	Others		148	230	164	169	192	146	150			
樹木起源	Arboreal											
その他	Others		7	7			7					
植物珪酸体総数	Total		436	586	560	614	474	500	538			
おもな分類群の推定生産量（単位：kg/nl · cm）：試料の収比率を1.0と仮定して算出												
イネ	<i>Oryza sativa</i>		1.38	0.58	2.15	2.70	1.41	2.65	0.80			
ヨシ属	<i>Poaceae</i>		1.69	2.91	2.69	4.45	0.43	3.50	0.43			
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type		0.08	0.16		0.96						
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.		0.30	0.40	0.37	0.11	0.36	0.42	0.36			
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>								0.02			
タケ亜科の比率 (%)												
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.		100	100	100	100	100	100	100	95		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>									5		
メダケ率	Medakue ratio		0	0	0	0	0	0	0	0		



第6図 細池寺道上遺跡における
植物珪酸体組成ダイヤグラム



第7図 細池寺道上遺跡における植物珪酸体
(プラント・オパール) の顯微鏡写真

比較的高い値であり、5層（試料2）で2,000個/gと比較的低い値である。おもな分類群の推定生産量によると、おむねヨシ属が優勢で、Ⅲ層と3層ではイネも多くなっている。

2) SD137 北

溝内堆積物の2層（試料1）では、イネ、ヨシ属、ススキ属が多く検出され、ウシクサ族A、チマキザサ節型なども認められた。イネの密度は9,200個/gと高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、イネとヨシ属が優勢となっている。

3) SD137 南

溝内堆積物の4層（試料1）では、イネが多く検出され、ヨシ属、ウシクサ族A、チマキザサ節型、樹木（その他）なども認められた。イネの密度は4,800個/gと比較的高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、イネが優勢となっている。

4) SD142

溝内堆積物の3層（試料1）では、イネ、ヨシ属が多く検出され、イネの粉穀（穎の表皮細胞）、ウシクサ族A、チマキザサ節型なども認められた。イネの密度は9,000個/gと高い値である。おもな分類群の推定生産量によると、イネとヨシ属が優勢となっている。

5) SD309

溝内堆積物の3層（試料1）では、イネ、イネの粉穀（穎の表皮細胞）、ヨシ属、ウシクサ族A、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型などが検出された。イネの密度は2,700個/gと比較的低い値である。

E 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

SD40、SD137北、SD137南、SD142、SD309から採取された計7点について分析を行った結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、SD137北の2層とSD142の3層では密度が9,200個/gおよび9,000個/gと高い値で、SD40の3層とSD137南の4層でも4,700個/gおよび4,800個/gと比較的高い値である。これらの試料は溝内堆積物であることから、当時は周辺で稲作が行われており、そこから何らかの形で溝内にイネの植物珪酸体が混入したと推定される。また、SD40のⅢ層ではイネの密度が7,300個/gと高い値で、稲作が行われていた可能性が高いと判断される。

各層準の堆積当時は、ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはススキ属、ウシクサ族、ササ属（おもにチマキザサ節）などが生育していたと推定される。また、遺跡周辺には何らかの樹木が生育していたと考えられる。

文 献

- 杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケア科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－。考古学と自然科学, no.19, p.69-84.
- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）。辻 誠一郎編「考古学と植物学」。同成社, p.189-213.
- 藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法－。考古学と自然科学, no.9, p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査－。考古学と自然科学, no.17, p.73-85.

第3節 細池寺道上遺跡における花粉分析

A はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの有機質遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

B 試 料

分析試料は、植物珪酸体分析に用いられたものと同一の計7点である。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す。

C 方 法

花粉の分離抽出は、中村(1967)の方法をもとに次下の手順で行った。

- 1) 試料から1cm³を秤量。
- 2) 0.5% リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加えて15分間湯煎。
- 3) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去。
- 4) 25% フッ化水素酸溶液を加えて30分放置。
- 5) 水洗処理の後、水酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す。
- 6) 再び水酢酸を加えて水洗処理。
- 7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成。
- 8) 検鏡・計数。

検鏡は、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比を行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(ー)で結んで示した。イネ属については、中村(1974, 1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属とした。

D 結 果

1) 分 類 群

検出された分類群は、樹木花粉11、樹木花粉と草本花粉を含むもの1、草本花粉13、シダ植物胞子2形態の計27である。分析結果を第4表に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。次に出現した分類群を記載する。

[樹木花粉]

トウヒ属、マツ属複管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤナギ属、ハンノキ属、カバノキ属、クリ、コナラ属コナラ亜属、モチノキ属、トチノキ

[樹木花粉と草本花粉を含むもの]

クワ科-イラクサ科

[草本花粉]

ガマ属-ミクリ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ソバ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ

科、セリ亞科、オオバコ属、タンボボ亞科、キク亞科、ヨモギ属

(シダ植物胞子)

单条溝胞子、三条溝胞子

2) 花粉群集の特徴

1) SD40

3層(試料1)では、草本花粉の占める割合が65%と高い。草本花粉では、ヨモギ属、アブラナ科、イネ科(イネ属を含む)、アザガ科-ヒユ科が優勢で、カヤツリグサ科、タンボボ亞科などが伴われる。また、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科(ここではカラムシ、カナムグラと考えられる)も多い。樹木花粉では、クリやハンノキ属などが低密度に認められた。5層(試料2)と3層(試料3)では、花粉密度が低く、草本花粉のイネ科が増加し、樹木・草本花粉のクワ科-イラクサ科は減少している。樹木花粉では、ハンノキ属やスギなどが認められた。

2) SD137北

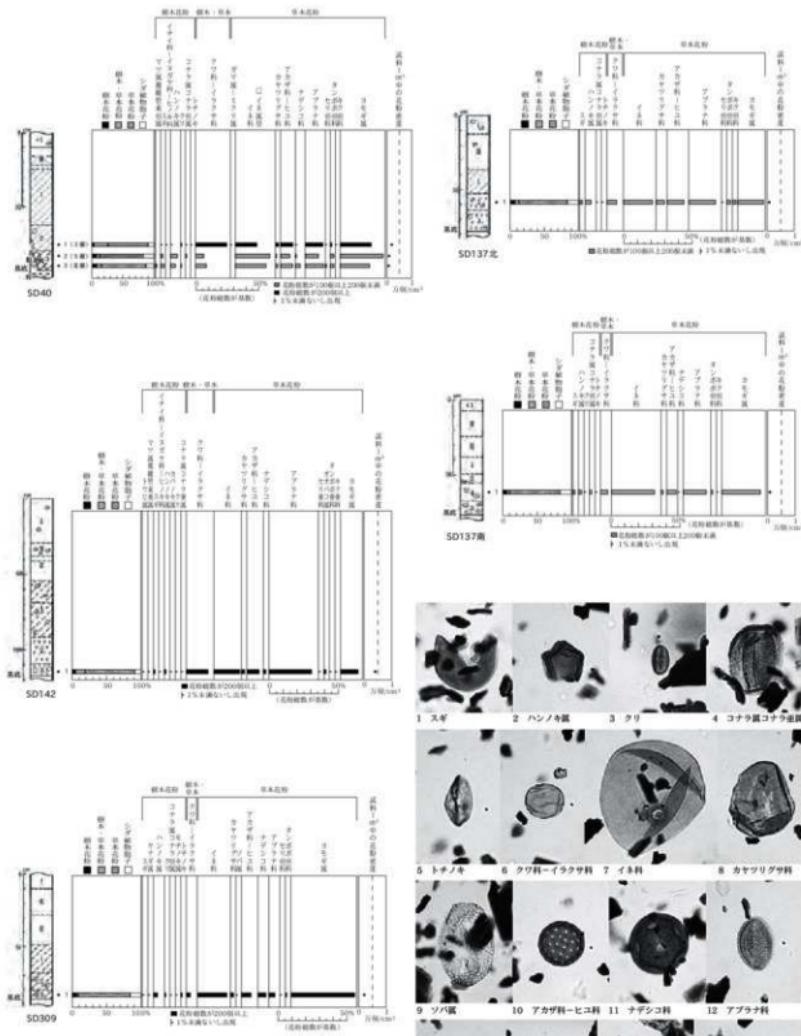
2層(試料1)では、花粉密度が低く、草本花粉の占める割合が70%以上と高い。草本花粉では、イネ科、アブラナ科、ヨモギ属、アザガ科-ヒユ科が優勢で、カヤツリグサ科、タンボボ亞科、キク亞科などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属やスギなどが認められた。

3) SD137南

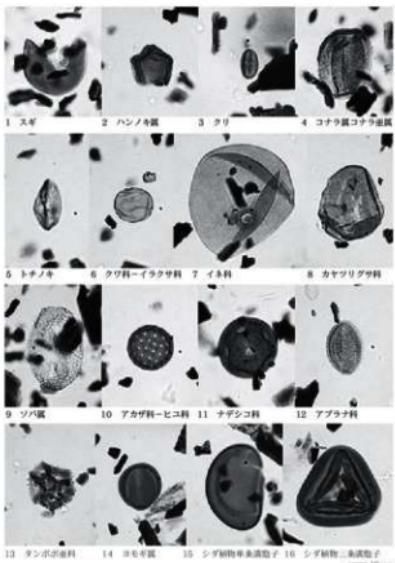
4層(試料1)では、花粉密度が低く、草本花粉の占める割合が70%以上と高い。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科、

第4表 細池寺道上遺跡における花粉分析結果

学名	分類群 和名	SD40			SD137北		SD137南		SD142		SD309	
		1	2	3	1	1	1	1	1	1	1	1
Arboreal pollen	樹木花粉											
Picea	トウヒ属											1
<i>Pinus</i> subgen. <i>Dipteron</i>	マツ属複数管胞属				1							1
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	2	2	3	2		2	4				1
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌヤ科-ヒノキ科	1						2				
<i>Salix</i>	サナギ属											1
<i>Aleuris</i>	ハンノキ属	2	6	4	5		3	4				6
<i>Betula</i>	カバノキ属											1
<i>Castanea crenata</i>	クリ	3		1			1	2				2
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ属	1	1			1	2	2				1
<i>Buxus</i>	モチノキ属											1
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ	1				1	1					2
Arboreal - Nonarboreal pollen	樹木・草木花粉											
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	78	7	9	8		7	53				6
Nonarboreal pollen	草木花粉											
<i>Typha-Spartina</i>	ガマ属-ミクリ属	1										
Gramineae	イネ科	52	29	25	24		41	63				43
Oxyspor type	イネ属型	2										
Cyperaceae	カヤツリグサ科	8	1	2	7		2	8				5
Fragopyrum	ソウ属											1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アザガ科-ヒユ科	31	8	10	14		9	30				14
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	1	4			1	6				12
Cruciferae	アブラナ科	44	11	15	22		22	104				9
Aipoideae	セリ科	1		1	1			2				1
Plantago	オオバコ属											5
Lactucoideae	タンボボ科	4	3	3	3		2	3				2
Asteroidae	キク科	2				3	1	2				
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	77	36	24	21		37	43				93
Fern spore	シダ植物胞子											
Monocolite type spore	单球溝胞子	18	17	11	16		21	21				31
Trilete type spore	三葉溝胞子	15	5	4	5		5	12				6
Arboreal pollen	樹木花粉	10	9	9	9		9	17				14
Arboreal - Nonarboreal pollen	樹木・草木花粉	78	7	9	8		7	53				6
Nonarboreal pollen	草木花粉	223	89	84	95	115	266	180				
Total pollen	花粉总数	311	105	102	112	131	336	200				
Pollen frequencies of 1cm ³	試料1cm ³ 中の花粉密度	0.2	0.7	0.8	0.8	0.8	0.4	0.2				
	×10 ³	×10 ³	×10 ³	×10 ³	×10 ³	×10 ³	×10 ³	×10 ³	×10 ³	×10 ³	×10 ³	
Unknown pollen	未同定花粉	7	1	9	3		3	8				6
Fern spore	シダ植物胞子	33	22	15	21		26	33				37
Helmint eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Stone cell	石细胞	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal - woods fragments	微細灰化物・微細木片	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)



第8図 細池寺道上遺跡における花粉組成ダイヤグラム



第9図 細池寺道上遺跡の花粉・胞子

アブラナ科が優勢で、アカザ科・ヒユ科などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、スギ、コナラ属・コナラ亜属などが低率に認められた。

4) SD142

3層（試料1）では、草本花粉の占める割合が70%以上と高い。草本花粉では、アブラナ科、イネ科、ヨモギ属が優勢で、アカザ科・ヒユ科などが伴われる。また、樹木・草本花粉のクワ科・イラクサ科も多い。樹木花粉では、スギ、ハンノキ属などが低率に認められた。

5) SD309

3層（試料1）では、草本花粉の占める割合が75%以上と高い。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科が優勢で、アカザ科・ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、カヤツリグサ科などが伴われる。樹木花粉では、ハンノキ属、クリ、トチノキなどが認められた。

D 花粉分析から推定される植生と環境

各層準の堆積当時は、溝内はイネ科（ヨシ属など）やカヤツリグサ科が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはヨモギ属やイネ科をはじめ、アブラナ科、アカザ科・ヒユ科、タンポポ亜科、クワ科・イラクサ科（カラムシ、カナムグラ）などの草本類が分布していたと推定される。また、部分的にイネ属型やソバ属の花粉が検出されることから、周辺でイネやソバなどの栽培が行われていた可能性が考えられ、アブラナ科が栽培されていた可能性も認められた。アブラナ科にはアブラナ（ナタネ）、ダイコン、ハクサイなど多くの栽培植物が含まれている。

遺跡周辺に森林は少なく、周辺地域にハンノキ属、スギ、ナラ類（コナラ属・コナラ亜属）、クリなどが分布していたと推定される。

文 献

- 金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原。本下正史編「新版古代の日本 第10巻 古代資料研究の方法」、角川書店、p.248-262。
 島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態。大阪市立自然科学博物館収蔵目録、第5集、60p.
 中村 純（1967）「花粉分析」、古今書院、p.82-110.
 中村 純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（*Oryza sativa*）を中心として、第四紀研究、13、p.187-193.
 中村 純（1977）稲作とイネ花粉、考古学と自然科学、第10号、p.21-30.
 中村 純（1980）日本産花粉の標識。大阪自然史博物館収蔵目録、第13集、91p.

第4節 細池寺道上遺跡出土種実同定

はじめに

今回の分析調査では、細池寺道上遺跡（新潟県新潟市秋葉区大安寺地内所在）の遺構覆土の篩水洗選別で検出された種実遺体の同定を実施し、当時の植物利用や植生に関する資料を作成する。

A 試 料

試料は、SE46の2層（種子①）、SD137の3層（種子②）、SE263の3層（種子③）、SE300の4層（種子④）より採取された土壤の篩水洗選別で検出された。種実遺体4遺構25点である。水洗選別は、新潟市文化財センターにより実施され、試料は湿った状態で篩の粒径別（2.0mm、1.4mm、1.0mm、0.85mm）にポリ袋に入っていた。各試料の詳細は、同定結果と共に第5表（1）～（3）に示す。

B 分析方法

試料を粒径別に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実遺体を抽出する。

種実遺体の同定は、現生標本および笠原（1982）、石川（1994）、中山ほか（2000）、谷城（2007）、小畠（2008；2011）、鈴木ほか（2012）等を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて、結果を一覧表と図で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフオンで結んで表示する。また、保存状態が良好で、栽培種などの主な種実遺体を対象として、デジタルノギスで長さ、幅、厚さを計測した結果を一覧表に併記する。分析後は、種実遺体を自然乾燥後、分類群毎に容器に収納する。

なお、SE46 より同定されたコムギの胚乳 10 個 0.043g（第 11 図-1, 2）、SD137 より同定されたイネの胚乳 7 個 0.054g（穎が残存するものを含む。第 11 図-3, 4）、SE263 より同定されたイネの胚乳 7 個 0.056g（第 11 図-5, 6）、SE300 より同定されたコムギの胚乳 10 個 0.052g（第 11 図-7, 8, 9）の中から、遺構ごとに各 1 個を放射性炭素年代測定対象試料とする。第 5・7 表に対象試料を記載している（測定結果の詳細については第 5 節年代測定報告参照）。

C 結 果

同定結果を第 5 表に、種実出土状況を第 6 表、第 10 図に示す。また、種実遺体各分類群の写真を第 11 図、主な種実遺体の計測値を第 5 表、特に栽培種の計測値を第 7 表に示して同定根拠とする。

全試料を通じて、被子植物 22 分類群（イネ、オオムギ、コムギ、アワ、アワキビ、ヒエ近似種、ミクリ属、スゲ属、コシソウ属、ウキヤガラ、ホタルイ属、アサ？、イヌタデ近似種、ヤナギタデ近似種、タデ属（ポンクトクタデ近似種）、ダイズ属、アズキ属、マメ科（ヤヅルアズキ？、野生種、他）、シソ属（エゴマ）、シソ属）の計 438 個の種実が同定された。なお、これらの他、59 個は炭化した種実と考えられるが、状態不良のため同定ができなかった。種実以外では、木材、炭化材、炭化茎（イネ科？）、炭化地下茎（スギナ？）、岩片、土粒、無機物などが、計 210 個確認された。以上の同定された種実遺体と不明、種実以外の合計個数は、707 個である。

種類が同定された種実遺体の出上個数は、SE263 が 293 個と最も多く（全体の 66.9%）、SE300 の 4 層が 59 個、SD137 の 3 層が 48 個、SE46 の 2 層が 38 個と次ぐ。栽培種は、イネが 218 個、オオムギが 17 個、オオムギーコムギが 3 個、コムギが 93 個、アワが 21 個、アワキビが 1 個と、栽培種の可能性が高いヒエ近似種が 32 個、アサ？が 2 個、ダイズ属が 2 個、アズキ属が 4 個、シソ属（エゴマ）が 1 個、シソ属が 2 個の、計 396 個が確認され、全体の 90.4% を占める。

栽培種とその可能性を含む分類群は、アサ？1 個以外は全て炭化している。また、イネの穎 1 個は灰化しており（第 11 図-11）、穎の一部を生物顕微鏡下で観察した結果、イネ属穎珪酸体が確認された。

炭化種実の保存状態は比較的良好で、イネ、オオムギ、コムギ、アワ、ヒエ近似種には、表面に穎（粉）が残る胚乳（第 11 図-10, 13 ~ 15, 17, 18）が、オオムギーコムギには穗軸（第 11 図-12）などが確認された。

栽培種とその可能性があるものを除いた分類群は、水湿地生草本のミクリ属が 1 個、コシソウ属が 8 個、ウキヤガラが 1 個、ホタルイ属が 6 個、タデ属（ポンクトクタデ？）が 1 個、ヤナギタデ近似種が 4 個と、中生草本のスゲ属が 1 個、イヌタデ近似種が 14 個、マメ科（ヤヅルアズキ？）が 1 個、マメ科が 1 個、マメ科（野生種）が 4 個の計 42 個が確認された。このうち、ミクリ属（SE263）、スゲ属（SE46）、ホタルイ属（SE46）、ポンクトクタデ？（SE46）、ヤヅルアズキ？（SE46）、マメ科（SE46）各 1 個の計 6 個が炭化していた。SD137、SE263、SE300 では、栽培種以外の種実はほぼ炭化していないのにに対して、SE46 は全ての種実が炭化している（第 10 図）。以下に、遺構別出土状況等を述べる。

・SE46 2 層（種子①）

栽培種のイネの胚乳が 6 個、オオムギの胚乳が 1 個、オオムギーコムギの穂軸が 1 個、コムギの胚乳が 17 個、

アワの頸・胚乳が1個、胚乳が7個と、抽水性草本のホタルイ属が1個、混生草本のタデ属(ポンクタデ?)が1個、中生草本のスゲ属が1個、マメ科(ヤツツルアズキ?)が1個、マメ科が1個の計38個が確認され、全て炭化している。なお、状態が良好なイネ胚乳(炭化米)の粒形(長さ/幅)、粒大(長さ×幅)[佐藤1988]は、短粒極小型が2個と、長粒極小型が2個確認された(第7表)。また、コムギ胚乳1個の¹⁴C年代は、 590 ± 20 BPであった。

・SD137 3層（種子②）

栽培種のイネの胚乳が20個、オオムギの胚乳が1個、コムギの頸・胚乳が1個、胚乳が8個、アワの胚乳が1個と、湿生草本のヤナギタデ近似種が4個、中生草本のイヌタデ近似種が12個の計48個が確認され、栽培種は全て炭化している。なお、イネ胚乳1個の¹⁴C年代は880±20BPであった。

・SE263 3層（種子③）

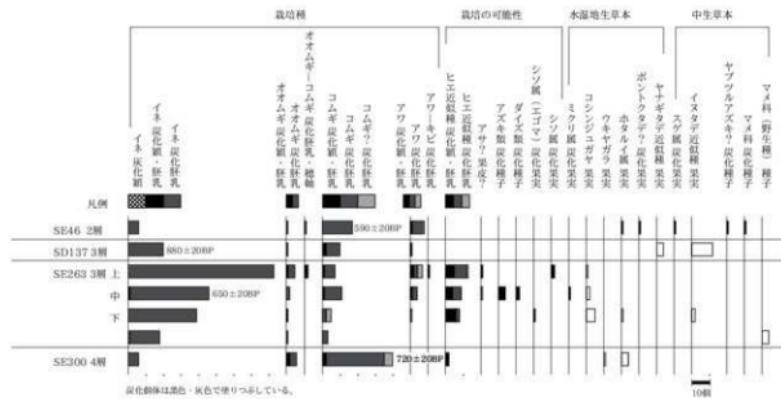
試料は、上位、中位、下位に細分された試料の他に、細分が未記載の試料がある。

上位試料からは、栽培種のイネの胚乳が 83 個（短粒極小型 6 個、小型 2 個、長粒極小型 1 個、極小型 4 個を含む）、オオムギの穎・胚乳が 1 個、胚乳が 4 個、オオムギ・コムギの胚乳が 2 個、コムギの穎・胚乳が 1 個、胚乳が 6 個、アワの穎・胚乳が 2 個、胚乳が 5 個、アワキビが 1 個、栽培種の可能性があるヒエ近似種の穎・胚乳が 5 個、胚乳が 8 個、アサ? が 1 個、シソ属が 2 個と、湿生草本のコシンジュガヤが 1 個の計 122 個が確認され、栽培種（その可能性があるものを含む）は全て炭化している。

中位試料からは、栽培種のイネの頸・胚乳が 1 個(短粒小型)、胚乳が 45 個(短粒極々小型 1 個、極小型 1 個、小型 3 個、長粒極々小型 1 個を含む)、オオムギの胚乳が 2 個、コムギの頸・胚乳が 1 個、胚乳が 10 個、アワの頸・胚乳が 1 個、胚乳が 3 個。栽培種の可能性があるヒエ近似種の頸・胚乳が 4 個、胚乳が 5 個、アサ?が 1 個、ダイズ類が 2 個、アズキ類が 4 個と、抽水性草本のミクリ属が 1 個、混生草本のコシンジュガヤが 2 個の計 82 個が確認され、アサ?とミクリ属以外の 81 個が炭化している。なお、イネの胚乳 1 個の ^{14}C 年代は、650 ± 20BP であった。

下位試料からは、栽培種のイネの胚乳が39個（長粒極小型1個を含む）、オオムギの穎・胚乳が1個、コムギの胚乳が5個、アワ？の胚乳が1個、栽培種の可能性があるヒエ近似種の穎・胚乳が6個、胚乳が2個、シソ属（エゴマ）が1個と、抽水性草本のホタルイ属が1個、湿生草本のコシンジュガヤが5個、中生草本のイヌタデ近似種が1個の計63個が確認され、栽培種（その可能性があるものを含む）は全て炭化している。

細分未記載試料からは、栽培種のイネの穎が1個、胚乳が17個（短粒極小型1個、小型1個を含む）、オオムギ



第10図 細池寺道上遺跡の種実出土状況

の胚乳が1個、コムギの胚乳が3個と、中生草本のマメ科が4個の計26個が確認された。栽培種は全て炭化しており、イネの穎は灰化している。

・SE300 4層（種子④）

栽培種のイネの胚乳が6個、オオムギの穎・胚乳が2個、胚乳が4個、コムギの穎・胚乳が2個、胚乳が38個、栽培種の可能性があるヒエ近似種の穎・胚乳が2個と、抽水性草本のウキヤガラが1個、ホタルイ属が4個の計59個が確認され、栽培種（その可能性があるものを含む）は全て炭化している。なお、コムギの胚乳1個の¹⁴C年代は、720±20BPであった。

D 考 察

SE46、SD137、SE263、SE300より得られた種実遺体群は、炭化した栽培種とその可能性が高い分類群が、全体の9割を占める組成を示した。

栽培種は、穀類のイネ（短粒極小～小型主体）やコムギをはじめ、オオムギ、アワ、アワーキビの他に、栽培種の可能性が高い穀類のヒエ（近似種）や、食用や油料、繊維等に利用されるアサ（？）、食用や油料等に利用されるエゴマ（シソ属）、アズキ類やダイズ類の特徴をもつ少なくとも2系統のマメ科が確認された。

また、SE263、SD137ではイネが多く、SE46、SE300ではコムギが多い傾向が認められた。このうち、各遺構から同定された炭化胚乳の¹⁴C年代に基づく較正年代は、SE46の2層のコムギは14世紀初頭～15世紀初頭頃、SD137の3層のイネは11世紀半ば～13世紀初頭頃、SE263の3層（中）のイネは、13世紀後葉～14世紀後葉頃、SE300の4層のコムギは13世紀後葉頃の値を示した。

これらの栽培種（その可能性があるものを含む）は、当時の細池寺道上遺跡周辺で栽培されていたか、近辺より持ち込まれたかは不明であるが、当時利用された植物質食料等であることが示唆され、遺構内への投棄などの生活行為に由来する可能性がある。また、ほぼ全ての種実が炭化しており、イネ、オオムギ、コムギ、アワ、ヒエ近似種には表面に穎（穎）が残る状態も確認されることから、穎がついた生の状態で食用されずに火を受けたと推定される。

栽培種とその可能性があるものを除いた分類群は、水湿地生草本のミクリ属、コシンジュガヤ、ウキヤガラ、ホタルイ属、タデ属（ポンクトクタデ？）、ヤナギタデ近似種や、やや乾いた場所にも生育可能な中生草本のスゲ属、イヌタデ近似種、マメ科（ヤブツルアズキ？やその他の野生種）などが確認された。木本類は確認されず、明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する分類群を主体とすることから、当時の調査区周辺は、開発が進んだ草地環境であったと考えられ、抽水植物のミクリ属やウキヤガラ、ホタルイ属が生育可能な水深1m以内の水湿地の存在も推定される。また、SE46は他の3遺構とは異なり、栽培種以外も全て炭化していることから、埋積過程の違い等を反映している可能性がある。

第5表 細池寺道上遺跡 SE46・263・300・SD137 の種実同定結果（1）

試料名	遺構	層の範囲	分類群	原位	状態	個数	枚番	長さ	幅	厚さ	備考	RFN 値
種子①	SE46	2層	1.4mm イネ	胚乳	炭化 完形	1	-	2.8	1.4	1.4	基準断面欠損	-
種子②	SE46	2層	1.4mm イネ	胚乳	炭化 破片	1	-	-	-	-	-	-
種子③	SE46	2層	1.4mm コムギ	胚乳	炭化 完形	2	1	3.1	1.6	1.2	-	-
種子④	SE46	2層	1.4mm コムギ	胚乳	炭化 完形	-	2	-	-	-	表面摩耗	-
種子⑤	SE46	2層	1.4mm アワ	穎・胚乳	炭化 完形	1	-	1.3	1.5	1.2	紙・粗面保存	-
種子⑥	SE46	2層	1.4mm アワ	穎・胚乳	炭化 完形	1	-	-	-	-	荷物表面欠損	-
種子⑦	SE46	2層	1.4mm アワ	穎・胚乳	炭化 完形	1	-	-	-	-	-	-
種子⑧	SE46	2層	1.4mm ダラ葉（ポンクトクタデ）	葉実	炭化 完形	1	-	-	-	-	一般状況下体	26
種子⑨	SE46	2層	1.00mm オオムギ・コムギ	穂軸	炭化 破片	1	-	2.3	*	-	表面摩耗体、表面研削痕様、現き出ている	12
種子⑩	SE46	2層	1.00mm アワ	穎乳	炭化 完形	2	1	1.4	1.4	1.1	-	-
種子⑪	SE46	2層	1.00mm アワ	穎乳	炭化 完形	-	2	1.4	1.5	1.1	-	-
種子⑫	SE46	2層	1.00mm スヤ葉	葉実	炭化 完形	1	-	-	-	-	-	20
種子⑬	SE46	2層	1.00mm ホタルイ属	葉実	炭化 完形	1	-	-	-	-	花被片欠損	-
種子⑭	SE46	2層	0.85mm アワ	穎乳	炭化 完形	4	1	1.3	1.2	1.0	-	-
種子⑮	SE46	2層	0.85mm アワ	穎乳	炭化 完形	-	2	1.2	1.2	1.3	-	-
種子⑯	SE46	2層	0.85mm アワ	穎乳	炭化 完形	-	3	1.5	1.3	1.1	背面摩耗	-
種子⑰	SE46	2層	0.85mm アワ	穎乳	炭化 完形	4	-	-	-	-	表面摩耗	-
種子⑱	SE46	2層	0.85mm 不明	穎乳	炭化 完形	1	-	1.6	1.4	1.4	直方体状偏体	-
種子⑲	SD137	(1) 2.00mm イネ	胚乳	炭化 完形	4	1	4.5	2.5	1.8	-	-	-
種子⑳	SE46	(2) 2.00mm イネ	胚乳	炭化 完形	-	2	4.3	2.7	2.4	-	-	-
種子㉑	SE46	(2) 2.00mm イネ	胚乳	炭化 完形	-	3	4.3	2.0	2.0	-	-	-

第5表 細池寺道上遺跡SE46・263・300・SD137の種実同定結果（2）

第5表 細池寺道上遺跡SE46・263・300・SD137の種実同定結果（3）

試料名	通番	部位	脂の軽取	分類群	部位	状態	個数	枚数	長さ	幅	厚さ	備考	回数 通番
梅子子②	SK262	3脚	上:2.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	-	7	4.8	2.6	1.9*	-
梅子子③	SK262	3脚	上:2.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	-	8	4.8	2.2	2.0	-
梅子子④	SK262	3脚	上:2.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	-	9	4.1	2.6	1.3	-
梅子子⑤	SK262	3脚	上:2.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	被片	5	-	-	-	-	
梅子子⑥	SK262	3脚	上:2.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	1	-	5.2	2.3	1.9	網:基部切除
梅子子⑦	SK262	3脚	上:2.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	2	1	4.8	2.5	2.3	-
梅子子⑧	SK262	3脚	上:2.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	2	3.9	2.2	1.8	-
梅子子⑨	SK262	3脚	上:2.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	3	4.3	2.6	2.2	-
梅子子⑩	SK262	3脚	上:2.00mm	オサムギ+コムギ	脚乳	硬化	完形	2	-	-	-	-	海綿欠損、筋膜不良
梅子子⑪	SK262	3脚	上:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	4	1	4.4	3.4	3.2	-
梅子子⑫	SK262	3脚	上:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	-	2	4.3	3.0	2.2	-
梅子子⑬	SK263	3脚	上:2.00mm	種皮ではない(炭化地帯 (スルガナ)	脚乳	硬化	完形	9	-	-	-	-	-
梅子子⑭	SK263	3脚	上:2.00mm	種皮ではない(炭化地帯 (スルガナ)	脚乳	硬化	完形	21	-	-	-	-	-
梅子子⑮	SK263	3脚	上:2.00mm	種皮ではない(炭化地帯 (スルガナ)	脚乳	硬化	完形	1	-	-	-	-	-
梅子子⑯	SK263	3脚	上:2.00mm	種皮ではない(上)	脚乳	硬化	完形	11	-	-	-	-	-
梅子子⑰	SK263	3脚	上:1.40mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	13	1	2.5	2.0	1.6*	-
梅子子⑱	SK263	3脚	上:1.40mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	-	2	4.4	2.2	1.9*	-
梅子子⑲	SK263	3脚	上:1.40mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	-	3	4.0	2.1	1.8	-
梅子子⑳	SK263	3脚	上:1.40mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	-	4	4.6	2.1	1.4*	-
梅子子㉑	SK263	3脚	上:1.40mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	-	5	3.9	2.0	1.5	-
梅子子㉒	SK263	3脚	上:1.40mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	-	6	4.4	1.7	1.8	-
梅子子㉓	SK263	3脚	上:1.40mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	-	7	4.2	2.0	1.7*	-
梅子子㉔	SK263	3脚	上:1.40mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	-	8	3.1	1.7	1.5*	-
梅子子㉕	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	被片	26	-	-	-	-	-
梅子子㉖	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	被片	1	-	-	-	-	頭部切除
梅子子㉗	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	1	-	3.1	2.1	1.8	-
梅子子㉘	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	被片	2	-	-	-	-	-
梅子子㉙	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	2	1	1.8	1.5	1.1	脚趾3mm
梅子子㉚	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	2	2.0	1.0	1.2	脚趾3mm
梅子子㉛	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	1	-	1.6	1.7	1.3	脚趾4mm
梅子子㉜	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	2	1	1.9	1.6	1.0	脚趾4mm
梅子子㉝	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	2	1.9	1.6	1.1	脚趾3mm
梅子子㉞	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	1	-	-	-	-	-
梅子子㉟	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	被片	5	-	-	-	-	-
梅子子㉠	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	6	-	-	-	-	-
梅子子㉡	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	7	-	-	-	-	-
梅子子㉢	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	8	-	-	-	-	-
梅子子㉔	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	9	-	-	-	-	-
梅子子㉕	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	10	-	-	-	-	-
梅子子㉖	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	11	-	-	-	-	-
梅子子㉗	SK263	3脚	上:1.40mm	オサムギ	脚乳	硬化	被片	1	-	-	-	-	側面-基部欠損
梅子子㉘	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	1	-	-	-	-	-
梅子子㉙	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	被片	3	-	-	-	-	-
梅子子㉚	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	2	1	1.2	1.1	1.1	-
梅子子㉛	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	-	2	1.9	1.1	1.1	-
梅子子㉜	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	2	1	2.0	1.5	1.1	-
梅子子㉝	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	-	3	2.0	1.3	0.9	-
梅子子㉞	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	1	-	1.6	1.2	0.7	-
梅子子㉠	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	1	-	1.1	1.2	0.6	-
梅子子㉡	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	被片	1	-	1.7	-	-	-
梅子子㉢	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	被片	2	-	-	-	-	-
梅子子㉔	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	被片	3	-	-	-	-	-
梅子子㉕	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	被片	4	-	-	-	-	-
梅子子㉖	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	被片	5	-	-	-	-	-
梅子子㉗	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	被片	6	-	-	-	-	-
梅子子㉘	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	被片	7	-	-	-	-	-
梅子子㉙	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	被片	8	-	-	-	-	-
梅子子㉚	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	被片	9	-	-	-	-	-
梅子子㉛	SK263	3脚	上:1.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	被片	10	-	-	-	-	-
梅子子㉜	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	1	-	-	-	-	-
梅子子㉝	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	2	1.2	1.3	1.3	-
梅子子㉞	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	3	1.2	1.3	1.3	-
梅子子㉠	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	4	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉡	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	5	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉢	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	6	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉔	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	7	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉕	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	8	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉖	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	9	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉗	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	10	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉘	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	11	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉙	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	12	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉚	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	13	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉛	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	14	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉜	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	15	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉝	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	16	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉞	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	17	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉠	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	18	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉡	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	19	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉢	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	20	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉔	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	21	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉕	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	22	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉖	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	23	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉗	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	24	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉘	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	25	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉙	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	26	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉚	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	27	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉛	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	28	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉜	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	29	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉝	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	30	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉞	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	31	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉠	SK263	3脚	上:1.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	32	1.2	1.2	0.8	-
梅子子㉡	SK263	3脚	中:2.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	完形	11	-	-	-	-	-
梅子子㉢	SK263	3脚	中:2.00mm	イチゴ	脚乳	硬化	被片	4	-	-	-	-	-
梅子子㉔	SK263	3脚	中:2.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	2	1	4.2	2.2	1.8	-
梅子子㉕	SK263	3脚	中:2.00mm	オサムギ	脚乳	硬化	完形	-	2	3.8	2.0	1.9	脚部欠損
梅子子㉖	SK263	3脚	中:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	1	-	4.4	2.4	2.1	-
梅子子㉗	SK263	3脚	中:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	3	1	3.5	2.7	2.3	-
梅子子㉘	SK263	3脚	中:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	-	2	4.2	2.1	1.9	-
梅子子㉙	SK263	3脚	中:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	-	3	3.6	2.6	2.5	-
梅子子㉚	SK263	3脚	中:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	被片	1	-	-	-	-	-
梅子子㉛	SK263	3脚	中:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	-	4	4.2	2.1	1.9	-
梅子子㉜	SK263	3脚	中:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	-	5	4.2	2.1	1.9	-
梅子子㉝	SK263	3脚	中:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	-	6	3.2	2.4	1.6	基部欠損、年代鑑定料「梅子子」(I)(2)
梅子子㉞	SK263	3脚	中:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	-	7	4.7	2.7	2.0	年代鑑定料「梅子子」(II)(2)
梅子子㉠	SK263	3脚	中:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	-	8	4.8	2.8	2.3	年代鑑定料「梅子子」(II)(2)
梅子子㉡	SK263	3脚	中:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	-	9	4.1	2.2	2.0	年代鑑定料「梅子子」(II)(2)
梅子子㉢	SK263	3脚	中:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	-	10	4.8	2.8	2.3	年代鑑定料「梅子子」(II)(2)
梅子子㉔	SK263	3脚	中:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	-	11	4.8	2.8	2.3	年代鑑定料「梅子子」(II)(2)
梅子子㉕	SK263	3脚	中:2.00mm	コムギ	脚乳	硬化	完形	-	12</				

第5表 細池寺道上遺跡SE46・263・300・SD137の種実同定結果(4)

第5表 細池寺道上遺跡SE46・263・300・SD137の種実同定結果（5）

(3) 残高額（mon）はデジタルノギスによる、欠損部は残存値に「*」で示す。

答) 年代識定試料は、種子(1)～(4)に属する複数の種実(参考に記載)の中から各1個を選んだ。

第6表 細池寺道上遺跡における種実出土状況

第7表 細池寺道上遺跡における主な炭化種実の計測値(1)

試料名	通用	部位	器の経年	分類群	部位	長さ	幅	厚さ	長さ×幅	長さ×幅	粒大	粒形	開閉	番号	備考
種子①	SD46	2番	(1)	2.00mm	イホ	籽乳	4.3	2.7	2.4	11.6	1.6	極小	知能	-	
種子②	SD46	2番	(1)	2.00mm	イホ	籽乳	4.2	2.2	2.0	9.5	1.0	極小	知能	-	
種子③	SD46	2番	(1)	2.00mm	イホ	籽乳	4.5	2.3	1.8	10.3	2.0	極小	長軸	-	
種子④	SD46	2番	(1)	2.00mm	イホ	籽乳	4.3	2.0	2.0	8.6	2.2	極小	長軸	-	
種子⑤	SD137	3番		2.00mm	イホ	籽乳	5.0	2.9	2.3	14.5	1.7	小型	知能	3 年代測定試料「種子⑤」(1)(2)	参考
種子⑥	SD137	3番		2.00mm	イホ	籽乳	4.4	2.5	2.7	10.9	1.7	極小	知能	3 倍量測定している。年代測定試料「種子⑥」(1)(2)	
種子⑦	SD137	3番		1.4mm	イホ	籽乳	3.8	2.1	1.5	7.7	1.8	極小	知能	4 田部久樹、年代測定試料「種子⑦」(1)(2)	
種子⑧	SD253	3番	上	2.00mm	イホ	籽乳	3.8	2.6	1.8	9.7	1.5	極小	知能	-	
種子⑨	SD253	3番	上	2.00mm	イホ	籽乳	4.1	2.6	1.3	10.6	1.6	極小	知能	-	
種子⑩	SD253	3番	上	2.00mm	イホ	籽乳	4.4	2.6	2.0	11.4	1.7	極小	知能	-	
種子⑪	SD253	3番	上	2.00mm	イホ	籽乳	5.0	2.7	2.0	13.4	1.8	極小	知能	-	
種子⑫	SD253	3番	上	2.00mm	イホ	籽乳	4.8	2.6	1.9	12.3	1.9	極小	知能	-	
種子⑬	SD253	3番	上	2.00mm	イホ	籽乳	4.4	2.3	1.7	10.1	1.9	極小	知能	-	
種子⑭	SD253	3番	上	2.00mm	イホ	籽乳	4.1	2.3	2.0	8.7	1.9	極小	知能	-	
種子⑮	SD253	3番	上	2.00mm	イホ	籽乳	4.8	2.2	2.0	10.7	2.1	極小	長軸	-	
種子⑯	SD253	3番	上	1.4mm	イホ	籽乳	4.0	2.1	1.8	8.5	1.9	極小	知能	-	
種子⑰	SD253	3番	上	1.4mm	イホ	籽乳	4.4	2.2	1.9	9.6	2.0	極小	長軸	-	
種子⑱	SD253	3番	上	1.4mm	イホ	籽乳	4.2	2.0	1.7	8.4	2.0	極小	長軸	-	
種子⑲	SD253	3番	上	1.4mm	イホ	籽乳	4.6	2.1	1.4	9.7	2.2	極小	長軸	-	
種子⑳	SD253	3番	上	1.4mm	イホ	籽乳	4.4	1.7	1.8	7.5	2.6	極小	長軸	-	
種子㉑	SD253	3番	上	2.00mm	イホ	穀・胚乳	4.7	2.7	2.0	12.7	1.7	極小	知能	6-10 年代測定試料「種子㉑」(1)(2)	
種子㉒	SD253	3番	上	2.00mm	イホ	籽乳	5.1	2.9	2.4	14.5	1.8	極小	知能	5 年代測定試料「種子㉒」(1)(2)	
種子㉓	SD253	3番	上	2.00mm	イホ	籽乳	5.2	2.8	2.1	14.6	1.8	極小	知能	5 年代測定試料「種子㉓」(1)(2)	
種子㉔	SD253	3番	上	2.00mm	イホ	籽乳	4.8	2.5	2.0	12.2	1.9	極小	知能	5 年代測定試料「種子㉔」(1)(2)	
種子㉕	SD253	3番	上	1.4mm	イホ	籽乳	4.1	1.9	1.5	7.9	2.1	極小	長軸	-	
種子㉖	SD253	3番	上	1.00mm	イホ	籽乳	3.6	2.0	1.3	7.0	1.8	極小	長軸	-	
種子㉗	SD253	3番	上	1.00mm	イホ	籽乳	3.9	2.1	1.5	8.1	1.9	極小	長軸	-	
種子㉘	SD253	3番	下	1.00mm	イホ	籽乳	4.3	1.9	1.2	8.1	2.3	極小	長軸	-	
種子㉙	SD253	3番	下	2.00mm	イホ	籽乳	4.2	3.1	2.4	13.0	1.4	小型	知能	-	
種子㉚	SD253	3番	下	2.00mm	イホ	籽乳	4.1	2.5	1.9	10.3	1.6	極小	知能	-	
種子㉛	SD300	4番		1.4mm	イホ	籽乳	4.4	2.6	1.9	11.2	1.7	極小	知能	-	
種子㉜	SD300	4番		1.00mm	イホ	籽乳	2.6	1.3	0.8	3.4	2.0	極小	長軸	- 不熟	
標本数		30	32	26											
最小		2.6	1.3	0.8											
最大		5.2	3.1	2.4											
標準偏差		0.5	0.4	0.4											
平均		4.3	2.3	1.8											
種子㉖	SD46	2番	(1)	2.00mm	コムギ	籽乳	3.9	2.9	2.5	11.4	1.4	-	-	1 年代測定試料「種子㉖」(1)(2)	
種子㉗	SD46	2番	(1)	2.00mm	コムギ	籽乳	3.5	2.4	2.1	8.5	1.4	-	-	1 年代測定試料「種子㉗」(1)(2)	
種子㉘	SD46	2番	(1)	2.00mm	コムギ	籽乳	2.9	2.5	2.1	7.3	1.1	-	-	1 年代測定試料「種子㉘」(1)(2)	
種子㉙	SD46	2番	(1)	2.00mm	コムギ	籽乳	3.4	2.1	2.0	7.0	1.6	-	-	1 年代測定試料「種子㉙」(1)(2)	
種子㉚	SD46	2番	(1)	2.00mm	コムギ	籽乳	2.6	2.1	2.1	5.4	1.2	-	-	2 年代測定試料「種子㉚」(1)(2)	
種子㉛	SD46	2番	(1)	2.00mm	コムギ	籽乳	3.9	2.1	2.0	7.9	1.9	-	-	2 年代測定試料「種子㉛」(1)(2)	
種子㉕	SD46	2番	(1)	2.00mm	コムギ	籽乳	3.2	2.4	2.0	7.7	1.3	-	-	2 年代測定試料「種子㉕」(1)(2)	
種子㉖	SD46	2番	(1)	2.00mm	コムギ	籽乳	2.7	2.3	1.6	6.2	1.2	-	-	2 年代測定試料「種子㉖」(1)(2)	
種子㉗	SD46	2番	(2)	2.00mm	コムギ	籽乳	3.1	2.3	1.7	7.0	1.4	-	-		
種子㉘	SD46	2番	(1)	1.4mm	コムギ	籽乳	3.1	1.6	1.2	4.8	1.9	-	-		
種子㉙	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	4.4	3.4	3.2	14.7	1.3	-	-		
種子㉚	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	4.5	3.0	2.2	13.0	1.4	-	-		
種子㉛	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	穀・胚乳	4.4	2.4	2.1	10.3	1.8	-	-	13	
種子㉕	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.5	2.7	2.3	9.6	1.3	-	-		
種子㉖	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	4.2	2.1	1.9	8.9	2.0	-	-		
種子㉗	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.6	2.2	2.1	7.8	1.6	-	-		
種子㉘	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.1	2.0	2.5	6.1	1.6	-	-		
種子㉙	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	4.4	3.4	3.2	14.7	1.3	-	-		
種子㉚	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	4.5	3.0	2.2	13.0	1.4	-	-		
種子㉛	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	穀・胚乳	4.4	2.4	2.1	10.3	1.8	-	-		
種子㉕	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.5	2.7	2.3	9.6	1.3	-	-		
種子㉖	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	4.2	2.1	1.9	8.9	2.0	-	-		
種子㉗	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.6	2.2	2.1	7.8	1.6	-	-		
種子㉘	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.1	2.0	2.5	6.1	1.6	-	-		
種子㉙	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	4.4	3.4	2.9	12.7	1.5	-	-	9 年代測定試料「種子㉙」(1)(2)	
種子㉚	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.6	2.4	2.1	8.7	1.5	-	-	9 年代測定試料「種子㉚」(1)(2)	
種子㉛	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.5	2.5	2.2	8.2	1.3	-	-	7 年代測定試料「種子㉛」(1)(2)	
種子㉕	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.4	2.2	2.3	7.6	1.5	-	-	7 年代測定試料「種子㉕」(1)(2)	
種子㉖	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.2	2.0	1.8	6.5	1.6	-	-	7 年代測定試料「種子㉖」(1)(2)	
種子㉗	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	2.5	1.9	1.7	4.6	1.3	-	-	7 年代測定試料「種子㉗」(1)(2)	
種子㉘	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.5	2.0	1.6	6.4	1.7	-	-	8 年代測定試料「種子㉘」(1)(2)	
種子㉙	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.2	2.0	2.1	6.5	1.6	-	-	8 年代測定試料「種子㉙」(1)(2)	
種子㉚	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	2.9	2.0	1.8	5.7	1.5	-	-		
種子㉛	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.3	1.7	1.8	5.7	1.9	-	-		
種子㉕	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.4	2.1	1.7	7.2	1.6	-	-		
種子㉖	SD253	3番	上	2.00mm	コムギ	籽乳	3.6	2.5	2.0	8.8	1.5	-	-		
種子㉗	SD253	3番	上	1.4mm	コムギ	籽乳	3.5	2.2	1.7	7.5	1.6	-	-	顧: 開出荷	
種子㉘	SD300	4番		2.00mm	コムギ	籽乳	3.3	2.0	2.4	6.7	1.6	-	-		
種子㉙	SD300	4番		2.00mm	コムギ	籽乳	2.8	2.0	1.6	7.7	1.8	-	-		
種子㉚	SD300	4番		1.4mm	コムギ	籽乳	3.2	2.1	1.9	6.6	1.6	-	-		
種子㉛	SD300	4番		1.4mm	コムギ	籽乳	3.2	2.1	2.0	6.7	1.5	-	-		
種子㉕	SD300	4番		1.4mm	コムギ	籽乳	2.8	2.0	1.8	5.6	1.4	-	-		
種子㉖	SD300	4番		1.4mm	コムギ	籽乳	3.4	2.4	1.8	8.2	1.4	-	-		
種子㉗	SD300	4番		1.4mm	コムギ	籽乳	3.2	1.8	1.6	5.7	1.7	-	-		
種子㉘	SD300	4番		1.4mm	コムギ	籽乳	4.5	2.2	1.9	9.7	1.9	-	-		
標本数		36	26	27											
最小		2.5	1.6	1.2											
最大		4.4	3.4	3.2											
標準偏差		0.5	0.4	0.4											
平均		3.4	2.2	2.0											

第7表 細池寺道上遺跡における主な炭化種実の計測値(2)

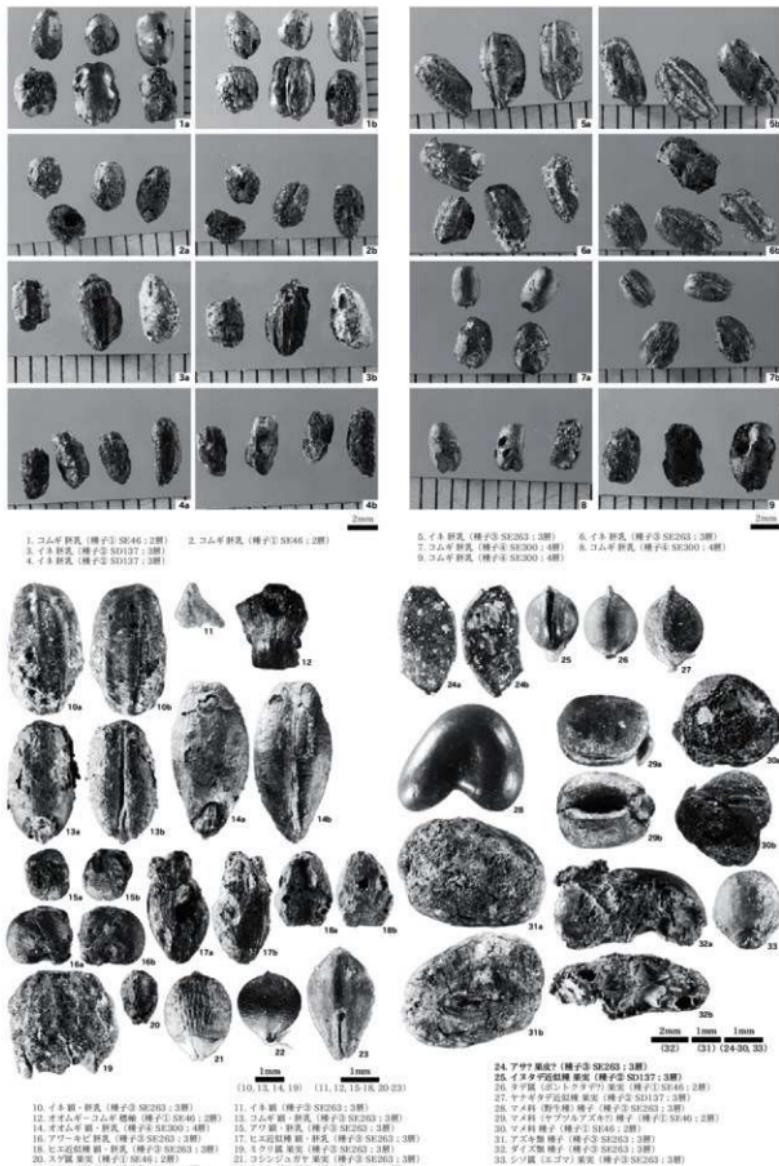
試料名	通総	部位	器の種類	分類群	基部	長さ	幅	厚さ	長さ×幅	長さ/幅	粒大	粒形	開発番号	備考
種子③	SZ46	2脚	(1)	2.00mm	オオムギ	胚乳	6.2	3.5	2.7	21.4	1.8	-	-	状態良好
種子③	SZ263	2脚	上	2.00mm	オオムギ	胚・胚乳	5.2	2.3	1.9	11.6	2.3	-	-	前：胚後：胚
種子③	SZ263	3脚	上	2.00mm	オオムギ	胚乳	4.6	2.5	2.3	12.1	1.9	-	-	
種子③	SZ263	2脚	中	2.00mm	オオムギ	胚乳	4.2	2.2	1.8	9.0	1.9	-	-	
種子④	SZ300	4脚	上	2.00mm	オオムギ	胚乳	7.0	3.1	2.3	21.5	2.3	-	-	状態良好
種子④	SZ300	4脚	中	1.4mm	オオムギ	胚・胚乳	5.8	2.8	2.3	16.2	2.1	-	-	14
種子④	SZ300	4脚	中	1.4mm	オオムギ	胚・胚乳	4.9	1.8	1.2	8.8	2.7	-	-	
種子④	SZ300	4脚	下	1.4mm	オオムギ	胚乳	5.0	2.7	2.1	13.6	1.8	-	-	
種子④	SZ300	4脚	下	1.4mm	オオムギ	胚乳	5.5	2.7	1.9	14.2	2.0	-	-	
種子④	SZ46	2脚	中	1.4mm	アワ	胚・胚乳	1.3	1.5	1.2	1.9	0.9	-	-	前：胚後：胚
種子④	SZ46	2脚	中	1.00mm	アワ	胚乳	1.4	1.4	1.1	1.9	1.0	-	-	
種子④	SZ46	2脚	中	1.00mm	アワ	胚乳	1.4	1.5	1.1	2.1	0.9	-	-	
種子④	SZ46	2脚	中	0.85mm	アワ	胚乳	1.1	1.2	1.0	1.2	0.9	-	-	
種子④	SZ46	2脚	中	0.85mm	アワ	胚乳	1.2	1.2	1.1	1.4	1.0	-	-	
種子④	SZ46	2脚	中	0.85mm	アワ	胚乳	1.5	1.2	1.1	1.8	1.2	-	-	背面単純
種子④	SZ137	3脚	上	1.00mm	アワ	胚乳	1.4	1.0	1.2	1.4	1.3	-	-	
種子④	SZ137	3脚	上	1.00mm	アワ	胚乳	1.2	1.1	1.1	1.3	1.1	-	-	
種子④	SZ137	3脚	上	0.85mm	アワ	胚・胚乳	1.3	1.3	1.1	1.6	0.9	-	-	
種子④	SZ137	3脚	上	0.85mm	アワ	胚・胚乳	1.2	1.3	1.1	1.5	0.9	-	-	
種子④	SZ137	3脚	中	1.00mm	アワ	胚・胚乳	1.4	1.2	1.1	1.6	1.2	-	-	15 前：胚後：胚
種子④	SZ263	3脚	中	1.4mm	アワ	胚乳	1.8	1.5	1.1	2.7	1.2	-	-	胚前1.3mm
種子④	SZ263	3脚	中	1.4mm	アワ	胚乳	2.0	1.6	1.2	3.1	1.2	-	-	胚長1.3mm
種子④	SZ263	3脚	下	1.00mm	アワ	胚乳	1.8	1.8	1.1	2.7	0.9	-	-	
種子④	SZ263	3脚	下	1.4mm	アワ	胚乳	1.6	1.7	1.3	2.7	0.8	-	-	16 胚長0.4mm
種子④	SZ263	3脚	下	1.4mm	アワ	胚乳	1.9	1.5	1.0	2.8	1.3	-	-	胚長0.6mm
種子④	SZ263	3脚	下	0.85mm	アワ	胚・胚乳	1.7	1.3	0.9	2.2	1.3	-	-	
種子④	SZ263	3脚	下	0.85mm	アワ	胚・胚乳	2.0	1.5	1.1	2.9	1.3	-	-	18
種子④	SZ263	3脚	下	1.00mm	アワ	胚・胚乳	2.0	1.3	0.9	2.5	1.5	-	-	
種子④	SZ263	2脚	上	1.00mm	ヒユウガノキ	胚乳	1.6	1.2	0.7	1.9	1.3	-	-	
種子④	SZ263	2脚	中	1.4mm	ヒユウガノキ	胚乳	2.0	1.4	0.9	2.8	1.4	-	-	
種子④	SZ263	2脚	中	1.4mm	ヒユウガノキ	胚乳	1.8	1.4	1.2	2.4	1.3	-	-	
種子④	SZ263	2脚	中	1.4mm	ヒユウガノキ	胚乳	1.7	1.1	1.2	2.0	1.5	-	-	
種子④	SZ263	2脚	中	1.00mm	ヒユウガノキ	胚・胚乳	1.9	1.2	0.8	2.3	1.5	-	-	
種子④	SZ263	2脚	下	1.00mm	ヒユウガノキ	胚・胚乳	3.0	1.6	1.1	4.7	1.9	-	-	17 前：背面・油胞残存
種子④	SZ300	4脚	上	0.85mm	ヒユウガノキ	胚・胚乳	1.7	1.3	0.6	2.2	1.4	-	-	
種子④	SZ300	4脚	上	0.85mm	ヒユウガノキ	胚・胚乳	1.9	1.1	0.8	2.1	1.6	-	-	
種子④	SZ263	2脚	中	2.00mm	ダイズ類	種子	8.2	4.5	3.6	37.4	1.9	-	-	32 糊化前
種子④	SZ263	2脚	中	2.00mm	ダイズ類	種子	5.3	3.7	3.7	19.8	1.4	-	-	31 前：長2.2mm、幅0.9mm
種子④	SZ46	2脚	(2)	2.00mm	ダイズ類	種子	2.6	1.8	2.0	4.4	1.4	-	-	29 直方体状粒内体、糊文網
種子④	SZ263	2脚	下	1.00mm	シラカシ(エゴマ)	果実	2.1	1.8	1.5	3.8	1.1	-	-	33 糊化前
種子④	SZ263	2脚	下	1.00mm	シラカシ(エゴマ)	果実	2.0	1.8	1.5	3.6	1.1	-	-	背面不規則

(注)計測値(mm)はデジタルノボス式。炭化米の粒大(1粒×1粒)、粒形(1粒×1粒)は、佐藤(1988)の定義に従う。

(注2)年代測定試料は、種子(主)に属する複数の種子(備考に記載)。ただし表3に記載されてない個体があり、直方形。

文 献

- 石川茂雄。1994。原色日本植物種子写真図鑑。石川茂雄図鑑刊行委員会。328p.
- 笠原安夫。1982。鳥浜貝塚の植物種実の検出とエゴマ・シソ種実タール状況について。鳥浜貝塚1980年度発掘調査概報・研究の成果—縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査2—。福井県教育委員会。65-87.
- 小畠弘巳。2008。マメ科種子同定法。「極東先史古代の穀穀3」。日本学術振興会平成16~19年度科学研究費補助金(基盤B-2)(課題番号16320110)「穀穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究成果報告書。小畠弘巳編。熊本大学理学文化財調査室。225-252.
- 小畠弘巳。2011。東北アジア古民族植物学と縄文農耕。同成社。309p.
- 佐藤敏也。1988。弥生のイネ、弥生文化の研究2生業、金閃・忍・佐藤・真編。雄山閣。97-111.
- 鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文。2012。ネイチャーウォッチャンガイドブック 草木の種子と果実—形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実632種—。誠文堂新光社。272p.
- 谷城勝弘。2007。カヤツリグサ科入門図鑑。全国農村教育協会。247p.
- 中山至大・井口希秀・南谷忠志。2000。日本植物種子図鑑。東北大出版社。642p.
- 吉崎昌一。1992。古代穀穀の検出。月刊考古学ジャーナル。No.355。2-14.



第11図 細池寺道上遺跡の種実遺体写真

第5節 細池寺道上遺跡出土試料(種実)のAMS法による放射性炭素年代測定

A 測定対象試料

細池寺道上遺跡は、新潟県新潟市秋葉区大安寺地内に所在し、沖積地の自然堤防上に立地する。測定対象試料は、井戸跡から出土した植物の種実4点である(第8表)。これらの試料は、遺構埋土を水洗選別して検出された種実の一部で、種子①、④はコムギ胚乳、種子②、③はイネ胚乳に同定されている(第4節種実同定報告参照)。各々複数あるコムギ、イネ胚乳の中から各1点を使用した。

試料が出土した遺構の時期は中世と推定されている。

B 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を特定する。

C 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- 2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- 3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO_2)を発生させる。
- 4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

D 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS専用装置(NEC社製)を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とパックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

E 算出方法

- 1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(%)で表した値である(第8表)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- 2) ^{14}C 年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第8表に、補正していない値を参考値として第9表に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- 3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが

小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を第8表に、補正していない値を参考値として第9表に示した。

- 4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の曆年代範囲であり、1 標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が历年較正年代を表す。历年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確

第8表 細池寺道上遺跡における放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

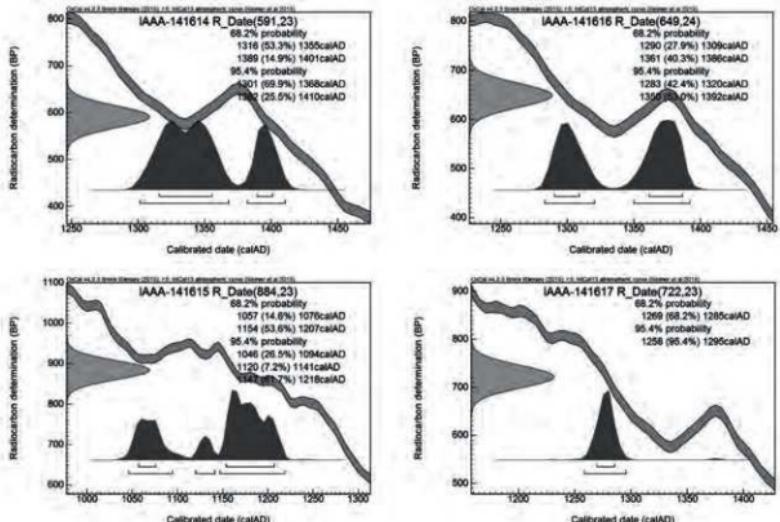
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (%) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-141614	種子①	SE46 2層	種実 (コムギ胚乳)	AaA	-21.19 ± 0.36	590 ± 20	92.90 ± 0.27
IAAA-141615	種子②	SD137 3層	種実 (イネ胚乳)	AaA	-25.59 ± 0.40	880 ± 20	89.58 ± 0.26
IAAA-141616	種子③	SE263 3層	種実 (コムギ胚乳)	AaA	-22.73 ± 0.44	650 ± 20	92.24 ± 0.28
IAAA-141617	種子④	SE300 4層	種実 (コムギ胚乳)	AaA	-22.69 ± 0.39	720 ± 20	91.40 ± 0.27

(#6895)

第9表 細池寺道上遺跡における放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、历年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		历年較正用 (yrBP)	1σ 曆年代範囲		2σ 曆年代範囲	
	Age (yrBP)	pMC (%)		1σ 曆年代範囲	2σ 曆年代範囲	1σ 曆年代範囲	2σ 曆年代範囲
IAAA-141614	530 ± 20	93.63 ± 0.26	591 ± 23	1316calAD - 1355calAD (53.3%) 1389calAD - 1401calAD (14.9%)	1301calAD - 1388calAD (69.9%) 1382calAD - 1410calAD (25.5%)		
IAAA-141615	890 ± 20	89.47 ± 0.25	884 ± 23	1057calAD - 1076calAD (14.6%) 1154calAD - 1207calAD (53.6%)	1046calAD - 1094calAD (26.5%) 1149calAD - 1191calAD (7.8%) 1147calAD - 1218calAD (61.7%)		
IAAA-141616	610 ± 20	92.67 ± 0.27	649 ± 24	1290calAD - 1309calAD (27.9%) 1361calAD - 1386calAD (40.3%)	1283calAD - 1320calAD (42.4%) 1350calAD - 1392calAD (53.0%)		
IAAA-141617	680 ± 20	91.83 ± 0.26	722 ± 23	1269calAD - 1285calAD (68.2%)	1258calAD - 1295calAD (95.4%)		

〔参考値〕



第12図 細池寺道上遺跡の历年較正年代グラフ（参考）

認する必要がある。ここでは、曆年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。曆年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。曆年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

F 測定結果

測定結果を第 8・9 表に示す。

試料の ^{14}C 年代は、種子①が $590 \pm 20\text{yrBP}$ 、種子②が $880 \pm 20\text{yrBP}$ 、種子③が $650 \pm 20\text{yrBP}$ 、種子④が $720 \pm 20\text{yrBP}$ である。曆年較正年代 (1σ) は、種子①が $1316 \sim 1401\text{cal AD}$ の間に 2 つの範囲、種子②が $1057 \sim 1207\text{cal AD}$ の間に 2 つの範囲、種子③が $1290 \sim 1386\text{cal AD}$ の間に 2 つの範囲、種子④が $1269 \sim 1285\text{cal AD}$ の範囲で示される。試料が出土した遺構の推定年代に対していずれも整合するが、種子②については若干古い可能性もある。

試料の炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51 (1), 337-360
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP.
 Radiocarbon 55 (4), 1869-1887
 Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion : Reporting of ^{14}C data. Radiocarbon 19 (3), 355-363

第VII章 総括

第1節 細池寺道上遺跡の出土遺物について

本調査では、水田造成や耕作の影響を受けて包含層が削平・消失したことにより遺物の全体出土量は少ない。ここでは中世遺物の大半を占める珠洲焼の片口鉢・壺について特徴を概観し、遺物の年代観を把握していきたい。珠洲焼の年代観は〔吉岡 1994〕にもとづく。細分は参考にとどめ、年代観の表記には「珠洲Ⅰ」などの表現を用いている。

出土した壺の脚部片のうち、幅3cm以内の叩打痕の打圧密度が観察できたものは以下のようになっている。

打圧密度は、7目(25)、8目(9, 14, 15, 17, 21, 26, 32, 33, 38)、9目(16)、10目(8)、11目(24, 30)、12目(28, 29)、14目(2, 23)となっており、粗目な8目が主体を占めるが、やや細密な14目も見られる。叩打痕に綾杉文は認められず、外面に刻印も認められない。叩打痕の打圧密度の特徴からは、14目(2, 23)に珠洲Ⅲ～IV期の要素が見られるが、この他は珠洲Ⅳ期と捉えることができる。

片口鉢のうち、鉢の条数が観察できたものは以下の通りである。6目(11)、7目(6)、9目(7)、11目(12, 19)となっており、細目ないし中太の櫛歯原体を用いて直線的に施している。破片資料のため全体の条数は不明だが、12は鉢目間隔が7cmを測り8条から12条、19は鉢目が放射状に8条から12条、7は密に鉢目に入る個体と捉えられる。口縁形態が確認できる個体は1、5、11、12である。11のみ口縁外側端部が嘴状に摘み出されているほかは、いずれも方頭である。片口鉢の口縁形態と鉢目の特徴からは、珠洲Ⅳ期が主体と捉えられ、鉢目の密に入る7は珠洲Ⅳ～V期の年代を推定することが可能である。なお、7はSE263出土であり、SE263が道路状遺構のSD142を切って掘り込まれていることとも矛盾しない。また、SE77の2とSD309の23をⅢ～IV期とした場合にも掘立柱建物の消長と符合し、遺構の年代観を補完することができる。

以上の様相から、本調査における出土遺物の主体は、珠洲Ⅳ期13世紀後葉～14世紀後葉の年代と捉えることができる。

第2節 細池寺道上遺跡の遺構について

A 小土坑(Pit)について

建物跡としての遺構の配置は確認していないが、柱穴を検出している。P100・P106は第26次調査2区の掘立柱建物SB990の延長であり、P100はP656、P106はP667の西側に位置する。この他の柱穴は、第43次調査地では建物としての配列などは認められないが、周囲に掘立柱建物が展開する可能性が高い。これら柱穴の検出地点は、規模の差はあるものの溝や道路状遺構、井戸が集中しており、遺構のセット関係から集落域の一部と考えられる。

B 道路状遺構について

本調査地では、第26次調査で検出された道路状遺構の南東側延長を含めて3条の道路状遺構を検出している。SD137とSD142を側溝とする道路状遺構1は、第26次調査時には4時期が確認され、今回はSD137で3期、SD142で2期を確認している。現状での規模は、側溝合幅5.6m(路面幅1.8m)である。西側に位置するSD137は、側溝が2条になっていることから造り替えたものと推測でき、これは第26次調査2区道路状遺構1の北側に

おいても同じ状況を見る事ができる。対して、SD142は、掘り直しの状況のみであり、これも第26次調査2区道路状遺構1と同じ状況である。しかし、道路状遺構1は直接的に連続していないため、具体的な状況については明らかではない。また、路面は上面が削平されているためか、硬化面や使用面などは確認しえなかった。

なお、植物珪酸体（プランツ・オバール）の分析結果によれば、道路状遺構1の西側側溝であるSD137北の2層と東側側溝SD142で密度が9,200個/gおよび9,000個/gと高い値のイネのプランツオバールを検出している。周辺で稲作が行われていたと推定され、これが流れ込んだものと仮定すれば、これらの溝が道路側溝としてだけでなく用排水路として機能していた可能性が高い。

C 自然科学分析結果について

本調査において各遺構を対象とした自然科学分析の結果についてまとめておく。

植物珪酸体（プランツ・オバール）の分析結果では、SD40、SD137北、SD137南、SD142、SD309のすべての試料からイネが検出された。中でもSD137北とSD142で密度が高く、SD40、SD137南でも比較的高い密度を示しており、周辺で稲作が行われていたと推定される。また、ヨシ属、ススキ属、ウシクサ属、ササ属なども検出されており、調査地周辺の環境は、湿潤な環境と比較的乾燥した土地が混在していたと考えられる。

花粉分析結果からは、イネ、ソバなどの栽培種、栽培種に近いアブラナ科（ダイコン・ハクサイなど）が検出されている。また、ハンノキ属、スギ、ナラ属、クリなどの花粉も検出されていることから、調査地周辺では稲作・耕作が行われ、周辺地域には樹木も分布していたと推定される。

SE46、SD137、SE263、SE300より得られた種実の同定結果では、イネ、オオムギ、コムギ、アワ、ヒエなどの栽培種の他に、アサ、エゴマ、アズキ類、ダイズ類も確認されている。特にSE263、SD137ではイネが多く、SE46、SE300ではコムギが多い傾向が認められた。

炭化胚乳からは¹⁴C年代に基づき較正年代が得られており、珠洲焼の年代と照合すると以下のようになる。

SE46 コムギ：14世紀初頭～15世紀初頭頃（珠洲IV～V期）

SD137 イネ：11世紀半ば～13世紀初頭頃（珠洲I～II期）

SE263 イネ：13世紀後葉～14世紀後葉頃（珠洲III～IV、V期）

SE300 コムギ：13世紀後葉頃（珠洲III期）

科学分析を実施した遺構数は少ないが、いずれの結果からも本調査地周辺での稲作を裏付ける資料が得られた。また、¹⁴C年代と珠洲焼の年代からは、SD137・SD142の道路状遺構がSE263に切られる状況を補完する年代観を示す結果が得られている。

D 調査地および周辺部の様相について

ここでは、本調査地を含む周辺遺構の基盤層・IV層上面の標高などを概観し、遺構の分布状況を把握する。本調査地では、南から南端部の遺構密集地の標高8.05m～8.1m、第26次調査2区に隣接する遺構密集地は7.85～8.0m、III層の残るSD40付近で7.85m、遺構は少ないとIV層面を確認した北端部では7.7mとなっている。遺構確認面とした基盤層・IV層上面が、南東から北西に向かって緩やかに傾斜している傾向がうかがえ、その標高は7.85～8.1mと比高差は0.25mを測る。遺構の密度も標高8m前後を中心位置しており、これより高い地点は既に削平された可能性が高く、逆に標高の低い地点は元から遺構が存在していなかったものと考えられる。

本調査地の東側一帯では、2007年度は塙整備事業に伴う発掘調査（潮田2014）（以下、第25次調査）および第26次調査が行われ、報告を完了している（図版3）。これらの調査成果をもとに本調査地周辺の様相を概観する。

南から大まかに基盤層・IV層上面の標高を抜き出すと第25次調査2区・5区・7区で8.5～9.0m、1区・4区・6区で8.1～8.4m（河川跡含む）、3区・8区で7.8～8.1m（河川跡含む）、第26次調査2区（本調査隣接部）

で7.8～8.0m、1区で7.85～8.1m、3区で7.2～7.95m、4区で7.35～7.6mとなっており、最高所は対象範囲最南端の第25次調査7区で9.0mを測り、最も低い第26次調査4区北端部7.6mとの比高差は1.4mである。全ての標高値が基盤層・IV層上面の高さを維持しているとは考え難いが、概ね南東から北西にかけての傾斜と考えられる。

このうち、集落域と想定されるのは、第25次調査5区・7区の9m前後と第26次調査1区・2区・3区の一部の8m前後の地点と捉えられる。このほかの地点は、概ね7.5～8.0mの標高で推移し、南北および東西方に向かって主軸をもつ溝が検出され、水田などの生産域としての利用が推定される。時期としては第25次調査7区で比較的まとまって9世紀末～10世紀初頭の遺構・遺物が出土しているほかは、12世紀後半～15世紀前半のものと考えられる。

E 細池寺道上遺跡の時期変遷について

これまで述べてきた、遺構の状況、遺物の年代、分析の結果と、過年度の調査結果を元にまとめてA群、B群、C群を設定し、第13図に図示した。A群、B群は第26次調査報告書の2区建物跡の分類を踏襲し、C群はB群に続く時期として再設定した。各群の概略は次の通りである。

A群：第26次調査の掘立柱建物跡を中心とした、12世紀後半～13世紀前半の時期である。珠洲焼の編年ではI～II期に該当する。SD137イネの¹⁴C測定結果から得られた11世紀中葉～13世紀初頭（珠洲I～II期）の年代観は覆土中からのサンプリングであることを考慮すれば、A群の掘立柱建物跡廃絶時に混入したとしても矛盾しない。ただし、本調査出土遺物には当該期の資料は確認できていない。

B群：掘立柱建物跡が減少し、南北に走る道路状遺構と東西に走る溝が構築される。13世紀末葉～14世紀中葉の時期である。珠洲焼の編年ではIV～V期に該当し、IV期は本調査出土遺物の主体をなしている。

第26次調査で確認された道路状遺構1は、出土遺物の年代から13世紀末葉から14世紀初頭の可能性が述べられているが、柱穴との切り合いから14世紀末葉と設定されている。本調査の道路状遺構1は西側側溝（SD137）の分析結果の年代観と、東側側溝（SD142）の井戸（SE263）との切り合い関係から、13世紀後葉～14世紀後葉の年代と考えられる。本調査地の南端をはじめとする集落範囲は、遺物の様相、分析結果からB群に該当すると考えられる。

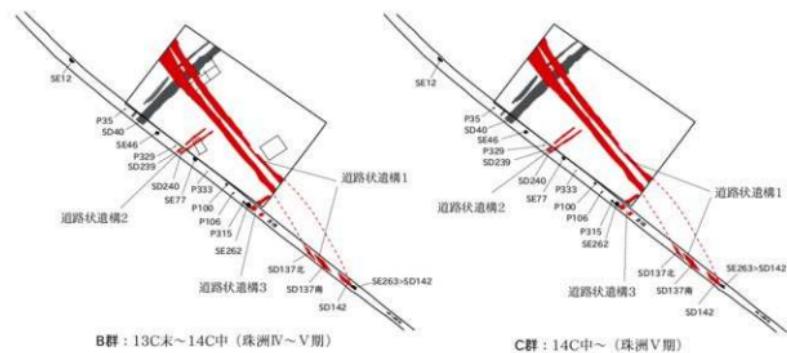
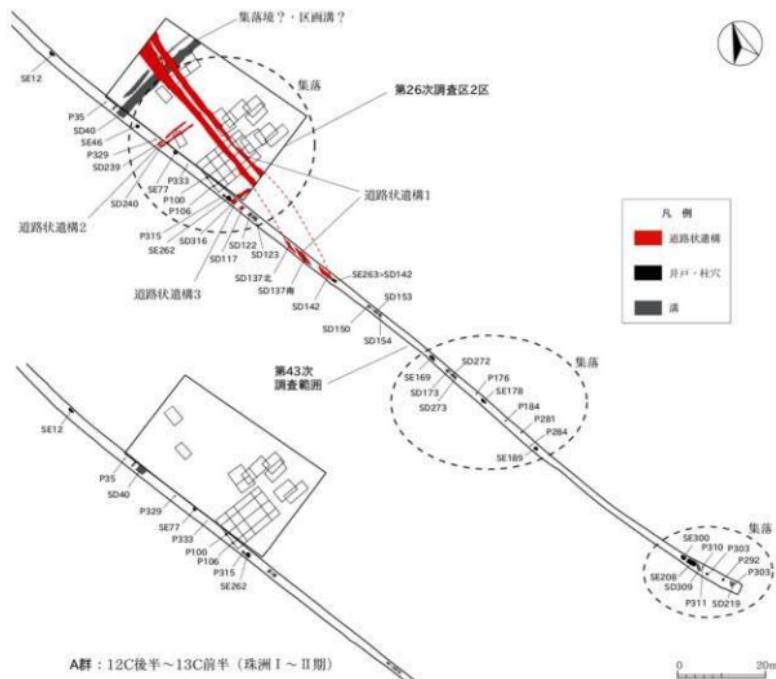
C群：道路状遺構と溝は残るが、A群・B群の主体であった掘立柱建物跡はほとんど見られなくなる。道路状遺構はSE263（IV～V期）に切られることから、この時期に縮小・移設・廃絶した可能性がある。C群以後、SE263のような井戸を作り稻作などの田園風景が広がるものと思われる。14世紀中葉以後の時期であり、珠洲焼の編年ではV期に該当する。本調査出土遺物には明確な当該期の資料は確認できていないが、6（SE263）のような遺物がわずかに混入する。

基本的な変遷はA群→B群→C群の順となるが、道路状遺構に時期差があるように、各群の遺構が重複する時期があったことは想像に難くない。この結果、本調査地を中心とした地域は、掘立柱建物→道路状遺構→稻作・耕作地への緩やかな変遷と推定することができる。

第3節 まとめ

本調査地では遺構・遺物・分析の状況から主たる漸期が珠洲IV期（13世紀後葉～14世紀後葉）に限定されるが、一部に珠洲III期・V期の存在と小規模集落の点在の可能性がみられた。また、周辺の過年度調査地の遺構との連続性は、第26次調査2区に限定されることと、調査地が小規模に点在していることから、道路状遺構と溝の平面的な変遷や掘立建物跡をはじめとする周辺集落の消長にまでは踏み込めなかった。

ここで13世紀～14世紀の中世における城館・集落の役割、社会情勢、周辺遺跡の様相について触れておきたい。



第13図 総括地図

中世城館の役割の一つとしては交易拠点が挙げられる。日本海・北陸地城は潟湖を交易拠点として機能していたと考えられ、中世の日本海交易については〔吉岡 1994〕に詳しい。珠洲焼を代表とする指標遺物の存在から、主に13世紀～14世紀に北日本・北海道まで分布・交易圏が見られる。当該期は鎌倉時代から室町時代にあたり、北日本では擦文土器文化が終焉を迎える。蝦夷からアイヌ、擦文土器から内耳土鍋・鉄鍋へ移行する時期である〔網野ほか 1989・財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 2001〕。内耳土鍋・鉄鍋の使用は、カマドから炉へ煮炊き施設の変容であり、そこに珠洲焼などの新たな調理具・保存具の流入が見られるようになる。これらの遺構・遺物は、北は青森の十三塗〔青森県立郷土館 1998〕、北海道の勝山館・大川遺跡〔乾ほか 2001〕といった中世交易拠点からの出土を見ることができる。

一方細池寺道上遺跡周辺においては、こうした交易拠点の存在は明らかでないが、阿賀野川流域では、山木戸遺跡〔諫山 2004〕・下前川原遺跡〔遠藤 2004〕・内野遺跡〔立木・高野ほか 2002〕といった鎌倉・室町時代の集落が知られる。いずれも珠洲焼だけでなく青磁・白磁などの貿易陶磁や瀬戸美濃焼など多彩な遺物が多量に出土しており、山木戸遺跡・下前川原遺跡については内水面交通や交易にかかわりのあった可能性が指摘されている。こうした遺跡と今回の細池寺道上遺跡を比較すると、遺物の種類・量ともに少なく交易との直接的な関わりは希薄であったと考えられる。

また、井戸などの覆土からはイネ、オオムギ、コムギ、アワ、ヒエなどの栽培種の他に、アサ、エゴマ、アズキ類、ダイズ類が確認され、自然科学分析の結果とあわせ、集落周辺の田・畑などでは稻作を中心とする多様な栽培植物が栽培されていたことがうかがえる。水田跡や畝跡といった遺構や農具などの直接的な遺物の出土はない。しかし、本調査および第26次調査では掘立柱建物跡→道路状遺構の変遷が確認され、道路については公的な性格を有していたと推定されることから、街道沿いの小規模な農村集落としての役割が想定される。

本調査地周辺において新田開発が盛んに行われ、村落が成立した記録が残るのは、17世紀前半以降である〔斎藤 1986〕。15世紀以降の状況は遺構・遺物とともに確認されていないため明らかではないが、図版1(明治44年)にも見えるような道路に対して集落が点在して水田の広がる散村的農村の起源は、本調査において主体となる13～14世紀代に遡る可能性がある。

引用・参考文献

- ア 相田泰臣・前山精明 2003 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳－2002年度確認調査の概要－』 卷町教育委員会
相田泰臣・前山精明 2005 『菖蒲塚古墳・隼人塚古墳II－2003年度確認調査の概要－』 卷町教育委員会
アイヌ文化振興・研究推進機構 2001 『よみがえる北の中・近世－彌り出されたアイヌ文化－』 北海道ウタリ協会
青森県教育委員会 1998 『青森県文化観光立県宣言記念特別展 中世国際港湾都市 十三湊と安藤氏』
朝岡政康・諫山えりか 2003 『東固遺跡 郡壳市場建設に伴う市道東8-273建設事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
朝岡政康 2010 『平成21年度新潟市遺跡発掘調査速報』 新潟市埋蔵文化財センター
甘船 健・小野 昭 1993 『越後山谷古墳』 卷町教育委員会・新潟大学考古学研究会
甘船 健・村川浩司 1992 『古津八幡山古墳I』 1991年測量調査報告書』 新潟市教育委員会
甘船 健・古川知明 1981 『大沢遺跡B・B地区の調査概報』 卷町・鶴東村教育委員会
網野善彦 1989 『よみがえる中世4 北の中世 津軽・北海道』 平凡社
- イ 家田順一郎 1987 『小丸山遺跡（小丸山遺跡緊急発掘調査報告書）』 横越村教育委員会
諫山えりか 2004 『新潟市山木戸遺跡 マンション等建設予定地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
石川智哲 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書』 第58集 爽越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡Ⅰ（A地区）』
新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
稻場 明・木村 広・二宮俊策・稻場裕一 1976 『津川・野沢間の阿賀野川沿岸の第四系について』 研究報告』 第9号 新潟県立教育センター
乾 芳宏 2001 『大川遺跡における考古学的調査IV 余市川改修事業に伴う 1989～1994年度大川遺跡発掘調査報告書（總括編）』 余市町教育委員会
- ウ 上原甲子郎 1971 『上ノ原遺跡緊急調査事業報告書』 卷町
潮田憲幸 2008 『調畠遺跡 第3次調査－老人健康保険施設「秋葉の郷」建設にともなう発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
潮田憲幸 2014 『細池寺道上遺跡II 第25次調査－県営は場整備事業（担い手育成型）岡新地区に伴う第11次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
- エ 速藤恭雄 2004 『下前川原遺跡 新潟県農業市下前川原遺跡発掘調査報告書』 豊栄市教育委員会
速藤恭雄 2011 『平成22年度 新潟市遺跡発掘調査速報』 新潟市埋蔵文化財センター
速藤恭雄・澤野慶子 2014 『沖ノ羽遺跡V 第18・19次調査－県営は場整備事業（担い手育成型）満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第11・12・13次発掘調査報告書－』 新潟市教育委員会
- オ 大矢雅彦・加藤泰彦 1984 『阿賀野川水害地形分類図』 建設省北陸地方建設局阿賀野川工事事務所
小野 昭 1994a 「ケカチ堂遺跡」『卷町史』資料編1 考古 卷町
小野 昭 1994b 「新谷遺跡」『卷町史』資料編1 考古 卷町
小野 昭 1982 『大沢遺跡II 第3次調査概報－』 新潟大学考古学研究室
小野 昭・小熊博史 1987 『巻町布目遺跡の調査』『巻町史研究』 III 卷町
小野 昭・前山精明 1988 『巻町豊原遺跡の調査』 卷町
- カ 春日真実 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書』 第76集 爽越自動車道関係発掘調査報告書 江内遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
春日真実 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書』 第123集 爽越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡III（C地区）』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤 学・荒川隆史 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書』 第93集 上信越自動車道関係発掘調査報告書V 和泉A遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
金子拓男 1987 『古代における信濃川・阿賀野川の河口と渡路について』『研究集録』第15号 新潟県立新潟江南高等学校
金子拓男 1983 『絆立遺跡発掘調査報告書』 黒崎町教育委員会
鶴井幸彦・田中里志・安井 賢 2006 『新潟平野における砂丘列の形成年代と発達史』『第四紀研究』第45巻 第2号 日本第四紀学会
川上貞雄・速藤孝司 1983 『平遺跡緊急発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
川上貞雄 1993 『横越村文化財調査報告書2 山ノ家遺跡緊急発掘調査報告書』 横越村教育委員会

- 川上貞雄 1994 『八幡山遺跡Ⅰ 遺構編』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1995 『舟戸遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1996 『金津丘陵製鉄遺跡群 居村B・D地区』 新津市教育委員会
- 川上貞雄 1997 『上浦A遺跡 新津市工業団地第2期工事地内発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 川上貞雄・木村宗文・鈴木郁夫 1989 『新津市史』資料編 第1巻 原始・古代・中世 新津市
- キ 北村 淳・菊池康一郎ほか 2004 『中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 木村宗文 1989 『資料解説 古代越後国と蒲原郡』『新津市史』資料編 第1巻 原始・古代・中世 新津市
- 木村宗文 1993 『初期莊園の成立』『新津市史』通史編 上巻 新津市
- コ 小池義人ほか 1994 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第59集 献越自動車道関係発掘調査報告書 細池遺跡 寺道上遺跡』新潟県教育委員会・財团法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 小林 存 1952 『新津市誌』 新津市
- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版 標準土色帖』 農林水産省農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所監修
- サ 斎藤義信 1986 『新津市』『日本歴史地名大系 15 新潟県の地名』 平凡社
- 酒井和男 2000a 『小丸山遺跡』『横越町史』資料編 横越町
- 酒井和男 2000b 『山家遺跡』『横越町史』資料編 横越町
- 酒井和男・廣野耕造 2002 『新潟砂丘における居住の初原』『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 坂井秀弥 1994 『庄と館、集落と屋敷—東国古代遺跡における館の形成』『城と館を掘る、読む—古代から中世へ』 山川出版社
- 坂井秀弥 1996 『水辺の古代官衙遺跡 越後平野の内水面・舟運・漁業』『越と古代の北陸』 名著出版
- 坂上有紀 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第118集 献越自動車道関係発掘調査報告書 上浦遺跡』 新潟県教育委員会・財团法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 佐藤友子ほか 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第187集 一般国道7号万代橋下流橋関係発掘調査報告書 近世 新潟町跡(広小路端点)』 新潟県教育委員会・財团法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- セ 関 雅之ほか 1980 『鳥居遺跡I』 豊栄市教育委員会
- タ 高浜信行・ト卜厚志・寺崎裕助 2000 『排水機場遺跡』『味方村史』 味方村
- 田中一廣・丹下昌之ほか 2004 『結七島遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 新津市教育委員会
- チ 地学団体研究会・新版地学事典編集委員会 1996 『新版 地学事典』 平凡社
- ツ 立木宏明・渡邊朋和ほか 1998 『細池遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明ほか 1999 『中谷内遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・高野裕子ほか 2002 『内野遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2004a 『愛宕澤遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2004b 『山王浦遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2005 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 新津市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子・八藤後智人ほか 2008 『沖ノ羽遺跡Ⅳ 第15次調査—県営は場整備事業(担い手育成型)満日地区に伴う沖ノ羽遺跡第8次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・細野高伯ほか 2013 『日本遺跡Ⅱ 第6次調査—市道龟田300号線道路改良工事に伴う日本遺跡第2次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 立木宏明・相澤(高野)裕子ほか 2014 『細池寺道上遺跡Ⅲ 第26次調査—県営は場整備事業(担い手育成型)両新地区に伴う第12次発掘調査報告書ー』 新潟市教育委員会
- 立木宏明 2014 『平成25年度 新潟市遺跡発掘調査速報会』 新潟市文化財センター
- 立木宏明 2015 『平成26年度 新潟市遺跡発掘調査速報会』 新潟市文化財センター
- テ 寺村光晴 1960 『越後六地山遺跡』『上代文化』30 國學院大學考古學会
- ト 土橋由理子 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第166集 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XIII 馬見坂遺跡 正尺A遺跡 正尺C遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 土橋由理子 2009 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第200集 一般国道49号亀田バイパス関係発掘調査報告書II 西郷遺跡 大蔵遺跡』 新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ナ 中川成夫・倉田芳郎 1956 『新津田家七本松須器窯跡発掘調査報告書』 北方文化博物館
- 長澤展生ほか 2002 『無頭遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
- 中野三義 1976 『中蒲原郡の花園・保』『かみくひむし』第21号 かみくひむしの会
- 中村孝三郎 1960 『西蒲原郡中野小屋村曾和弌生式六地山遺跡』『NKH』Vo.3 長岡市立科学博物館友の会
- ニ 新潟県 1983 『新潟県史 資料編4』中世二 文書編II

- 新潟県 1984 『新潟県史 資料編5』中世三 文書編III
 新潟市国際文化部歴史文化課 2007 『新・新潟市歴史双書2 新潟市の遺跡』新潟市
 新潟市史編さん原始古代中世史会 1994 『新潟市史』資料編1 原始 古代 中世 新潟市
- 八 橋本博文 2015 『新潟市東区牡丹山諏訪神社古墳をめぐって』『平成26年度 新潟市遺跡発掘調査速報会資料集』
 新潟市文化財センター
- ヒ 広野耕造 1996 『石動遺跡 平成7年度発掘調査概報』新潟市教育委員会
 フ 文化庁文化財部記念物課監修 2010 『発掘調査のてびき』文化庁文化財部記念物課
 ホ 星野信明ほか 1996 『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第80集 猪越自動車道関係発掘調査報告書 沖ノ羽遺跡II(B地区)』
 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 細野高伯ほか 2002 『沖ノ羽遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
 細野高伯・伊比博和ほか 2012 『大沢谷内遺跡II 第7・9・11・12・14次調査—一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書—』新潟市教育委員会
- 本田祐二 2008 『越後・佐渡(新潟県)の様相』『北陸中世のみち』第21回北陸中世考古学研究会資料集 北陸中世考古学研究会
- マ 前山精明 1990 『大沢遺跡—縄文時代中期前葉を主とする集落跡の調査概要—』巻町教育委員会
 前山精明 1994a 『新谷遺跡』『巻町史』資料編1 考古 巷町
 前山精明 1994b 『重稲場遺跡群』『巻町史』資料編1 考古 巷町
 前山精明 1994c 『御井戸遺跡』『巻町史』資料編1 考古 巷町
 前山精明・相田泰臣 2002 『南赤坂遺跡—縄文時代前期～中期・古墳時代前期を主とする集落跡の調査—』巻町教育委員会
 前山精明・相田泰臣 2004 『御井戸遺跡II－2003年度確認調査の概要—』巻町教育委員会
 前山精明・相田泰臣 2005 『御井戸遺跡III－2004年度確認調査の概要—』巻町教育委員会
 前山精明・伊比博和ほか 2010 『大沢谷内北遺跡 第3次調査—(仮称)国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内北遺跡第3次発掘調査報告書—』新潟市教育委員会
 前山精明 2013 『平成24年度 新潟市遺跡発掘調査速報会』新潟市文化財センター
- ヤ 山崎 天・遠藤 佐 1999 『小尖山遺跡』五泉市教育委員会
 山元孝広 2003 『東北日本・沿岸火山の形成史：噴出物層序、噴出年代及びマグマ噴出量の再検討』『地質調査研究報告』第54巻 第9/10号
 山本信夫 2000 『大宰府市の文化財 第49集 大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』太宰府市教育委員会
- ミ 横山勝栄・竹田和夫ほか 1987 『新潟県中世城跡等分布調査報告書』新潟県教育委員会
 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉岡弘文館
 米沢 康 1965 『文化前代における越の史的位置』『信濃』17-1 信濃史学会
 米沢 康 1980 『大宝二年の越中国四郡分割をめぐって』『信濃』32-6 信濃史学会
- ワ 渡邊朋和 1991 『長沼遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
 渡邊朋和 1994 『八幡山遺跡発掘調査報告書－平成5年度範囲確認調査－』新津市教育委員会
 渡邊朋和・山口 1997 『金津丘陵製鉄道跡群発掘調査報告書II 因村遺跡 E・A・C地点、大入遺跡 A地点』新津市教育委員会
 渡邊朋和ほか 2001 『寺道上遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
 渡邊朋和ほか 2002 『中谷内遺跡発掘調査報告書II』新津市教育委員会
 渡邊朋和・立木宏明ほか 2001 『八幡山遺跡発掘調査報告書』新津市教育委員会
 渡邊朋和・立木宏明ほか 2004 『八幡山遺跡発掘調査報告書－第11・12・13・14次調査－』新津市教育委員会
 渡辺ますみ 1994 『諸立C遺跡発掘調査報告書』黒埼町教育委員会

別表1 細池寺道上跡遺構計測表

調査No.	写真 図版 No.	遺構名	グリッド	時代・確認面	主軸方位	規模 (m)			前面 寸標	距離 寸標	上面 寸標	裏面 寸標	遺物 有無	遺物 図版 No.	備考	
						上端	下端	深度								
8-13-14	9-10	SK12	7N-1010-10, 14, 15	中世	N-23°W	1.43	(0.59)	0.44	0.08	0.76	7.21	長方形	4	SE12-P6324		
8-14	10	SK46	8N-3211, 16	中世	N-75°W	0.96	0.75	0.25	0.24	0.85	7.12	長方形	5	○ 23-25		
8-13-14-22	10	SK77	8N-3214	中世	N-10°W	0.69	(0.49)	0.60	(0.39)	0.51	7.52	短円柱形	6	○ 23		
8-14	10	SK169	80-6023	中世	N-20°W	1.75	(0.68)	1.20	(0.41)	1.12	7.33	短円柱形	5	○	SE169-S8286	
11-14	10	SK178	90-183, 2, 6, 7	中世	N-15°E	(1.20)	(0.96)	0.55	0.39	1.05	7.06	短円柱形	5	○ 23	SE178-P6180	
11-16	11	SK189	90-2315, 20	中世	N-50°W	(0.96)	(0.75)	0.71	0.70	0.90	7.25	短円柱形	-	○ 23		
12-15	11	SK208	90-692, 7, 8, 12	中世	N-35°W	2.33	(1.20)	0.60	0.60	1.04	7.02	短円柱形	6	○ 23	SE208-S0293 + 309	
9-16	11	SK262	80-4422, 23	中世	N-36°W	1.25	(0.89)	0.89	(0.70)	0.85	7.11	短円柱形	2	○	SE262-S0256	
10-16-20	11	SK263	80-7015	中世	N-45°W	1.11	(1.02)	0.69	(0.58)	1.41	6.68	短円柱形	3	○ 23	SE263-S0142	
12-15	11	SK300	90-691, 2	中世	N-40°W	1.22	(0.83)	0.65	0.60	1.06	7.05	円形	4	○ 23-25	SE300-S0293, P6205-209	
8-16	11	SK20	7N-1010-20, 25	中世	N-24°W	1.58	(0.51)	1.30	(0.30)	1.51	7.68	短円柱形	1			
8-16	SK33	8N-1213, 24	中世	N-60°E	(0.85)	0.74	(0.68)	0.45	0.20	7.71	短円柱形	1	○	SK38-P6249		
8-17	12	SK49	8N-2212, 22	中世	N-29°W	1.56	(0.34)	1.40	(0.24)	0.50	7.60	短円柱形	2	○	SK49-P648 + 58	
9-13-17	9-12	SK127	80-5A15	中世	N-28°W	(1.02)	(0.41)	(0.65)	(0.54)	0.51	7.54	長方形	7	SK127-SK128		
9-17	9-12	SK128	80-5A14, 15	中世	N-16°W	(0.73)	(0.50)	0.60	0.32	0.45	7.68	短円柱形	2	○	SK128-SK127, P6125	
9-17	12	SK130	80-5A20	中世	N-64°W	0.64	(0.38)	0.45	0.38	0.19	7.91	短円柱形	1	○	SK130-P6129	
10-18	12	SK174	80-1020	中世	N-30°W	0.45	(0.40)	0.40	(0.35)	0.13	7.95	円形	1	○	SK174-SK365	
11-18	12	SK186	80-234, 2	中世	N-25°W	0.80	(0.36)	0.60	(0.22)	0.11	8.03	短円柱形	-	○	SK186-SK270	
12-18	12	SK200	80-5G3, 8	中世	N-33°W	1.02	(0.56)	0.92	(0.50)	0.10	8.05	短円柱形	2	○	SK200-SK301	
12-18-21	21	SK201	80-5G3, 8	中世	N-36°W	0.96	(0.19)	0.77	(0.15)	0.08	8.04	短円柱形	-	○	SK201-SK300, SD199	
10-18	12	SK265	80-10030	中世	N-44°E	(0.60)	(0.65)	(0.52)	(0.55)	0.06	8.00	短円柱形	-	○	SK265-SK174	
11-18	13	SK268	90-1812, 13, 17, 18, 19	中世	N-28°W	1.89	(0.56)	1.32	(0.25)	0.36	7.84	短円柱形	3	○ 24		
11-18	12	SK270	90-284	中世	N-52°W	0.26	(0.26)	0.67	0.06	1.06	8.00	短円柱形	-	○	SK270-SK186	
10-18	15	SK286	80-9929	中世	N-69°E	0.70	(0.66)	0.93	0.20	0.42	7.70	短円柱形	1	○	SK169-S8286+SD170	
12-19-22	13	SK294	90-6H13, 14, 18, 19	中世	N-40°W	(1.93)	(0.68)	0.78	(0.20)	0.53	7.68	短円柱形	4	○	SK294-P6304 + 305 - 311	
12-19-13	10-13	SK334	90-7H5, 10, 90-71, 16	中世	N-50°E	(1.10)	(0.69)	0.78	(0.65)	0.38	7.72	短円柱形	3	○	SD117-P6118	
7-19	13	SD3	7N-6G17, 22, 23	中世	N-38°W	1.90	(0.75)	1.80	(0.70)	0.15	7.75	-	組形	2	○	
8-13-19	9-13	SD40	8N-234, 5, 8, 10	中世	N-56°E	(1.08)	(1.08)	(1.09)	(1.00)	0.58	7.39	短円柱形	5	○	SD40-P641	
9-13-17	13	SD117	80-5A3, 4, 8, 9	中世	N-61°E	(1.12)	(0.70)	(1.12)	(0.35)	0.37	7.70	-	組形	3	○ 24	SD117-P6118
9-13-17	14	SD122	80-BAA-14	中世	N-72°E	(1.00)	(0.68)	(1.00)	(0.32)	0.34	7.84	-	組形	3	○	SD122-SD123
9-13-17	14	SD123	80-5A14, 15	中世	N-72°E	(0.98)	(0.92)	(0.98)	(0.29)	0.22	7.92	-	組形	2	○	SD123-SD122
9-20	8-14	SD137	90-6H7, 12, 13, 18,	中世	N-3°W	(1.70)	(0.96)	(2.03)	(0.24)	0.49	7.50	-	円形	3	○ 24	SD137-P6276 - 290
9-10-20	8-14	SD142	80-7H4, 5, 9, 10, 15	中世	N-11°W	(1.90)	(0.85)	(1.00)	0.11	0.67	7.34	-	円形	3	○	SD142-S263
10-21	15	SD144	80-TC16	中世	N-82°E	(0.88)	(0.48)	(0.88)	0.14	0.27	7.81	-	円形	2	○	
10-21	15	SD148	80-TG22	中世	N-8-E	(1.00)	(0.68)	(1.00)	0.14	0.14	7.98	-	組形	2	○	SD148-P6145
10-21	15	SD150	80-BC8	中世	N-59°E	(0.52)	(0.88)	(0.52)	(0.30)	0.41	7.70	-	短円柱形	1	○	SD150-SD151
10-21	15	SD151	80-BC8	中世	N-73-E	(0.57)	(0.58)	(0.57)	0.19	0.32	7.84	-	短円柱形	1	○	SD151-SD150
10-21	16	SD153	80-BCD, 13, 14	中世	N-70-E	(0.62)	(1.19)	(0.62)	(0.64)	0.16	7.96	-	組形	1	○	
10-21	15	SD154	80-SC14, 19	中世	N-54-E	(0.56)	(0.63)	(0.58)	0.43	0.35	7.80	-	短円柱形	3	○	
10-21	15	SD156	80-6H1, 6	中世	N-70-E	(0.68)	(1.22)	(0.68)	0.45	0.58	7.59	-	短円柱形	5	○	
10-21	16	SD162	80-SD12, 17	中世	N-65-E	(0.70)	(1.00)	(0.70)	0.36	0.57	7.54	-	短円柱形	5	○ 24	
10-18	15	SD170	80-9923, 80-1003, 4	中世	N-64-E	(0.38)	(1.60)	(0.30)	(0.19)	0.64	7.54	-	短円柱形	4	○	SD170-SK286
10-21	16	SD173	80-1009	中世	N-79-W	(0.80)	(0.76)	(0.80)	0.34	0.51	7.72	-	短円柱形	5	○	SD173-P6172
12-21	16	SD199	90-G22, 23	中世	N-99-E	(1.10)	(0.89)	(1.10)	-	0.65	7.54	-	組形	4	○	SD199-SK201
9-13-19	9-16	SD219	90-9H5	中世	N-21-E	(1.20)	0.70	(1.20)	0.60	0.10	8.04	-	組形	1	○	SD219-P6320
8-13-19	16	SD237	8N-1124	中世	N-65-E	(1.19)	0.40	(1.19)	0.30	0.06	7.86	-	組形	2	○	
8-13-22	9-16	SD228	8N-3J2, 3	中世	N-76-E	(1.18)	0.42	(1.18)	0.27	0.14	7.92	-	円形	2	○	SD173-P6286
8-13-12	9-16	SD240	8N-3J3, 5, 8	中世	N-78-E	(1.19)	0.40	(1.19)	0.25	0.20	7.88	-	円形	2	○	SD173-P6286
9-22	16	SD256	80-4A17, 18, 23	中世	N-12-E	(1.22)	0.26	(1.22)	0.11	0.22	7.71	-	短円柱形	5	○	
10-21	17	SD272	80-1008, 14	中世	N-65-E	0.70	(0.62)	(0.70)	0.60	0.06	8.07	-	組形	1	○	
10-21	17	SD273	80-1001, 4, 15	中世	N-63-E	(0.78)	0.56	(0.78)	0.45	0.09	8.02	-	組形	1	○	
12-22	17	SD290	80-6H1, 6, 7	中世	N-38-W	(1.26)	(0.21)	(1.10)	(0.11)	0.11	8.02	-	短円柱形	-	○	SD293-SK208
12-22	17	SD309	80-6H7, 8, 12, 13	中世	N-6-E	(1.29)	0.70	(1.29)	0.37	0.41	7.71	-	短円柱形	3	○ 24	SD312-S0-503 + SK208
9-22	17	SD318	80-5A3	中世	N-70-E	(1.00)	(1.00)	(0.31)	0.18	0.55	7.47	-	短円柱形	4	○	SD316-P6116
9-22	17	P0106	80-4A11-12	中世	N-81-W	0.48	0.46	0.28	0.24	0.54	7.47	円形	2	○ 25	P0106 < Pn104 補の範囲	
9	P0129	80-S620	中世	N-70-W	0.56	0.55	0.40	0.46	7.62	円形	2	○	張北頭骨の複数個			
11	P0180	90-1E7	中世	N-48-W	0.30	0.28	0.24	0.23	0.13	7.95	円形	1	○ 25	P0180 > SE178 碓石		
12	P0214	90-6H25	平安	N-3-E	(0.63)	0.26	(0.57)	0.16	0.17	7.99	円形	2	○	P0214 > P6131 張北頭骨片		
9	P0261	90-8A17	平安	N-45-E	(0.26)	0.25	0.29	0.17	0.34	7.90	円形	1	○	張北頭骨片		
11	P0269	90-1E17-18	中世	N-52-W	0.30	0.28	0.16	0.19	0.28	7.74	円形	3	○	P0292 > P6131 中世土器頭部		
12	P0292	90-6H25	中世	N-47-W	0.52	0.48	0.39	0.30	0.56	7.54	円形	1	○	P0292 > P6131 中世土器頭部		

別表2 細池寺道上遺跡土器・陶磁器観察表

- | | | |
|-----|--|---|
| 凡 例 | 1 次上部層、 <u>ダブル名</u> を記した。
2 第 例
3 法 量 口径・直径、管路を示す。管轄の数値は進手方の長いものである。
4 管 頭上部に記載された、管路等について記した。「T」は右端頭、「L」は右端頭、「R」は左端頭。「P」は左端頭。「U」はチャート、「W」は白色底黒波線、「W」は白間断波線、「W」は海面波線。 | 5 色 「新標準色」(赤)と「山川」(紫青)1967年の別記を記した。
6 例 既往色成因、成因別色の区分記した。
7 予 特別の子項目なしとし、範囲的な記述は行っていない。他の「テラマリ」は初回を記すものである。
8 連 連 対象を記す。
9 例 「古川1994、山川2000」を著者による別冊の本を記した。 |
|-----|--|---|

品種 名 称 No.	出土位置 No.	樹種 No.	樹高 m	胸緒 cm	法蘭 径(cm)	樹形 状態	樹冠 形状	樹木		色調		手法		遺存率 %	特徴
								径 底径	底径 高さ	樹皮 色	樹皮 質	表面	内面	底径	底径 高さ
23-16 8 SE406 8K-2116 2群 薩摩楓 月口跡 (28.4)						普通	圓錐	G-白	黒(10W6/1)	黒元	クロナダ	クロナダ	ノリテ	2/36	古楓形
23-18 2 SE777 8N-3214 1群 府城楓 傷						普通	石-白	(7.5W5/1)		黒元	タダキ				古楓形
23-18 3 SE178 9O-1K7 3群 香椎 楓						細	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV2/3)	浅黄	(5YV2/3)		タダキ		古楓形
23-18 4 SE189 9O-JE15 白楓 楓 (16.0)						細	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	(5YV1)	ノリテ	タダキ		D-1(楓葉V-4 丸太直付棒上)
23-18 5 SE208 9O-GH7 2群 薩摩楓 月口跡						普通	圓錐	G-白	浅黄(5YV3/3)	浅黄					古楓形
23-18 6 SE208 9O-GH7 2群 薩摩楓 月口跡						普通	圓錐	G-白	浅黄(5YV2/2)	浅黄	クロナダ	クロナダ	ノリテ	2/36	古楓形
23-18 7 SE263 9O-TC1 1群 薩摩楓 月口跡 (11.6)						細	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	クロナダ	クロナダ	ノリテ	静止系切り	古楓形
23-18 8 SE263 9O-TC1 3群 薩摩楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
23-18 9 SE263 9O-TC1 3群 府城楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
23-18 10 SE300 9O-GH2 2群 香椎 楓 (4.7)						細	圓錐	G-C(11.7/4)	紫(5W1/2)	紫	タダキ				古楓形
23-18 11 SE300 9O-GH2 2群 薩摩楓 月口跡 (24.8)						細	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	クロナダ	クロナダ	ノリテ	6/36	古楓形/古形
23-18 12 SE300 9O-GH2 2群 薩摩楓 月口跡 (32.2)						細	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	クロナダ	クロナダ	ノリテ	14/36	古楓形
23-18 13 SE300 9O-GH2 3群 薩摩楓 月口跡 10.0						細	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄					古楓形
23-18 14 SE300 9O-GH2 2群 薩摩楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				古楓形
23-18 15 SE300 9O-GH2 2群 薩摩楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				古楓形
23-18 16 SE300 9O-GH2 2群 薩摩楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				古楓形
23-18 17 SE300 9O-GH2 2群 薩摩楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				古楓形
23-18 18 SE288 9O-1K13 2群 鹿児島楓 風化 (13.3)						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				古楓形
23-18 19 SD117 8O-SA4 2群 薩摩楓 月口跡 (11.4)						細	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	クロナダ	クロナダ	ノリテ	6/36	古楓形
24-18 20 SD137 8O-B13 2群 中世土 重 (14.0)						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV6/4)	浅黄	クロナダ	クロナダ	ノリテ	4/36	
24-18 21 SD162 8O-9D17 3群 府城楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
24-18 22 SD609 9O-H113 2群 薩摩楓 月口跡						細	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	クロナダ	クロナダ	ノリテ	13/36	N楓
24-18 23 SD309 9O-H113 2群 薩摩楓 月口跡						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
24-18 24 SD309 9O-H113 2群 薩摩楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
24-18 25 TN-2F16 1群 薩摩楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
24-18 26 TN-2F16 1群 薩摩楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
24-18 27 BN-2110 3群 薩摩楓 重砂隕						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	波状皮	クロナダ			N楓
24-18 28 BN-2110 3群 薩摩楓 重砂隕						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
24-18 29 BN-2110 3群 薩摩楓 重砂隕						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
24-18 30 BN-2112 3群 薩摩楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
25-18 31 BN-TB5 3群 薩摩楓 月口跡						細	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV4/4)	浅黄	クロナダ	クロナダ	ノリテ		粗
25-18 32 BN-2114 3群 薩摩楓 重砂隕						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
25-18 33 BN-2114 3群 薩摩楓 重砂隕						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
25-18 34 BN-2119 1群 薩摩楓 重砂隕						細	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄					N楓
25-18 35 BN-6H12 3群 薩摩楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
25-18 36 BN-7I 1群 薩摩楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
25-18 37 BN-7I 1群 薩摩楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV2/2)	浅黄	クロナダ	クロナダ	ノリテ	ヘラ切り	N楓
25-18 38 BN-7I 1群 薩摩楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓
25-18 39 BN-7I 1群 薩摩楓 傷						普通	圓錐	G-白(1)	浅黄(5YV1)	浅黄	タダキ				N楓

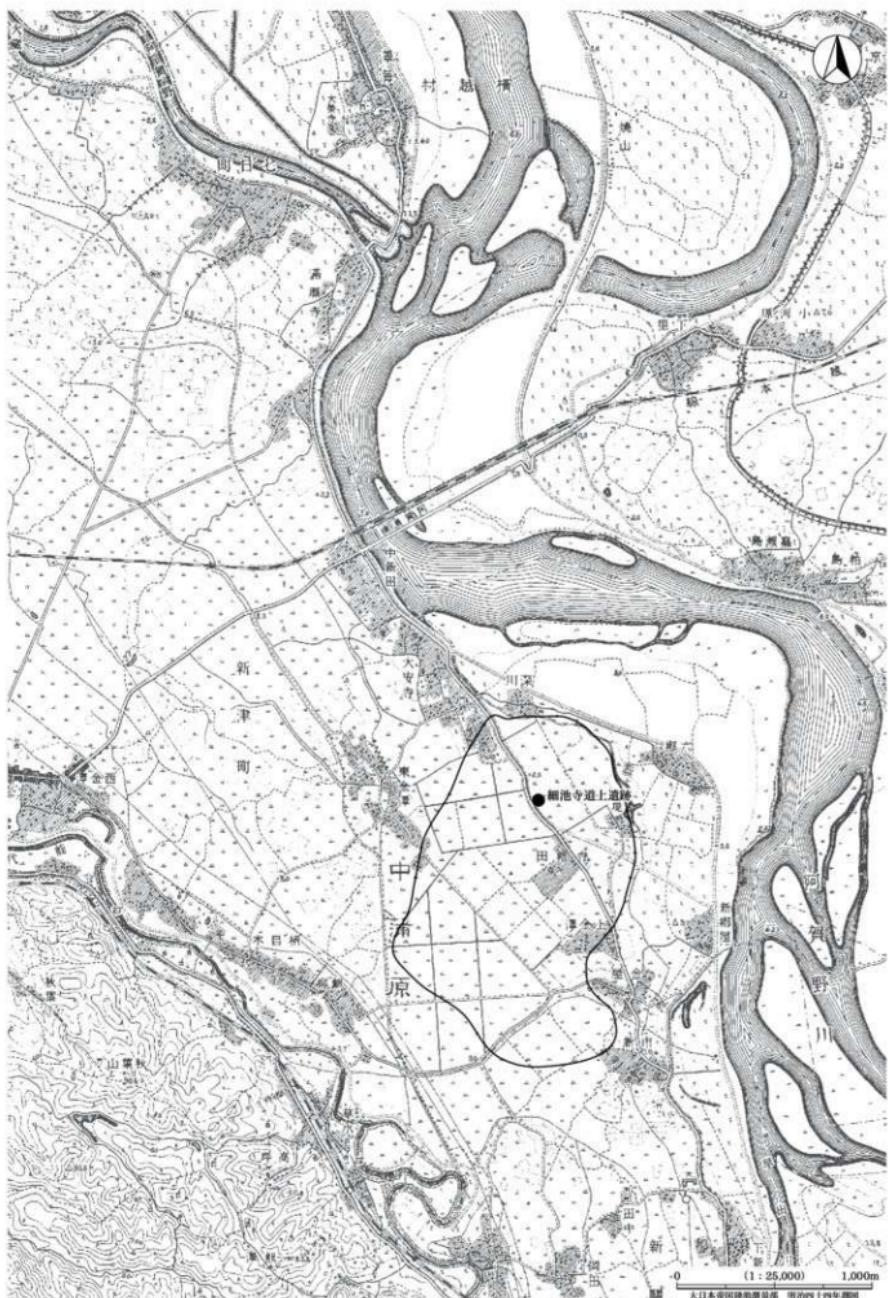
別表3 細胞表面抗原製品調査表

測定 実験番 号 No.	出土位置 No. of Locality	埋蔵 状態 Condition	種類 Type	分類 Category	L.G. 地層 Stratum	法面 (mm. x) Face (mm. x)		時代 Period	考 察 Remarks
						長さ Length	幅 Width		
25. 18 16	SE-86 SE-86	85.5cm 85.5cm	柱 Pillar	柱 Pillar	灰岩 Limestone	69.00	69.00	22.75	中生代 Middle Cenozoic
25. 18 40	SE-300 90-04H1	46.0cm 46.0cm	柱 Pillar	柱 Pillar	灰岩 Limestone	46.00	46.00	29.69	中生代 Middle Cenozoic
25. 18 41	PUB-190 190-137	1.8m 1.8m	板 Plank	板 Plank	灰岩 Limestone	14.40	30.00	14.40	中生代 Middle Cenozoic
25. 18 42	778-0192 778-0192	1.8m 1.8m	板 Plank	板 Plank	灰岩 Limestone	37.00	(33.00) (14.00)	20.77	中生代 Middle Cenozoic
25. 18 43	605-2110 605-2110	1.8m 1.8m	板 Plank	板 Plank	灰岩 Limestone	76.00	(45.01) (14.00)	156.16	中生代 Middle Cenozoic

別表4 船舶赤道上遭賊船沈没遭難者調査表

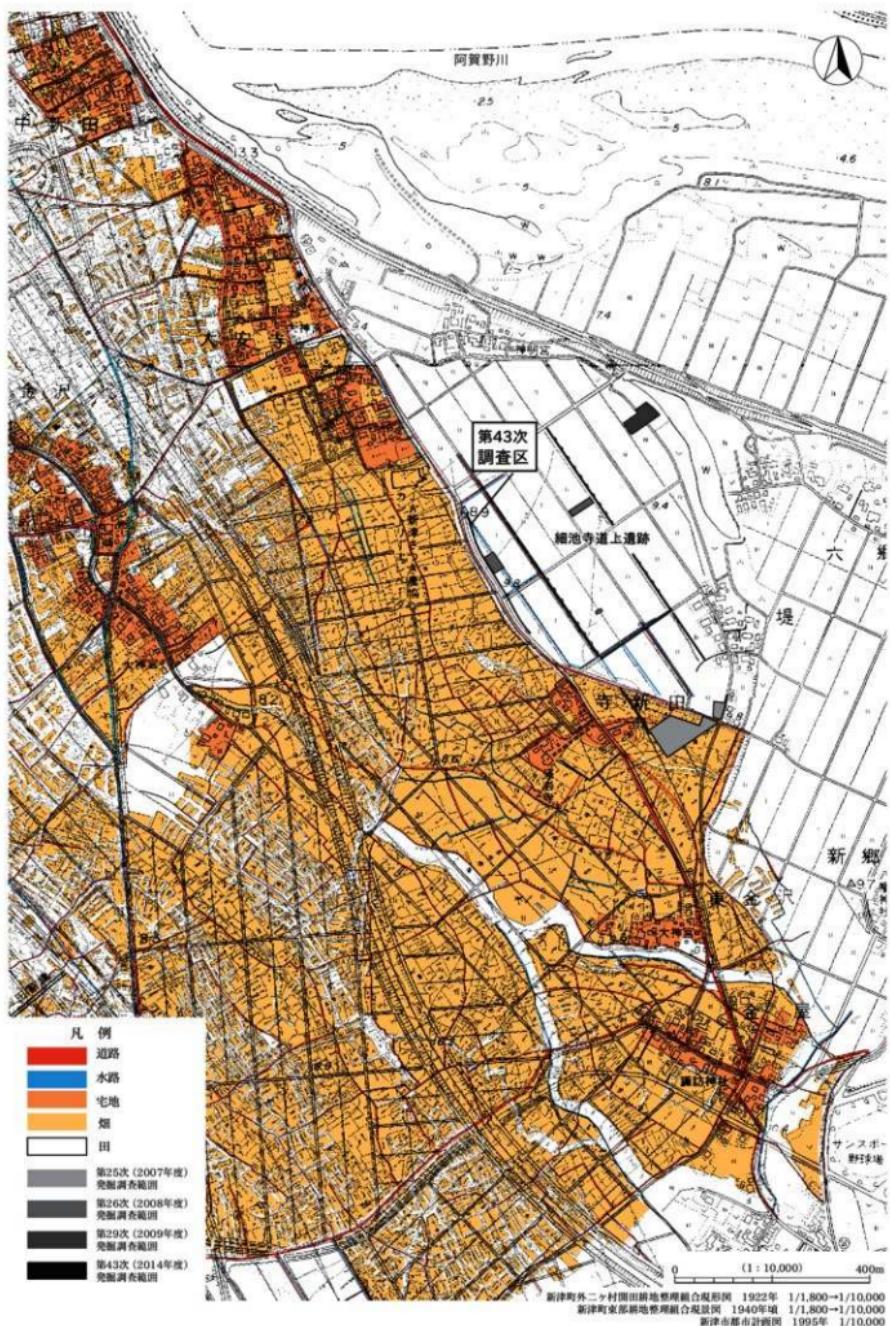
掲示 No.	写真 医師 No.	解剖 番号	出生位置 名	部位	胎種	法量(cm)			重 量 (g)	備 考
						長さ	幅	厚さ		
25	18	44	P314	BO-4A11	1頭	48.0 (3.5)	(1.9)	(2.2)	10.1	種の頭部

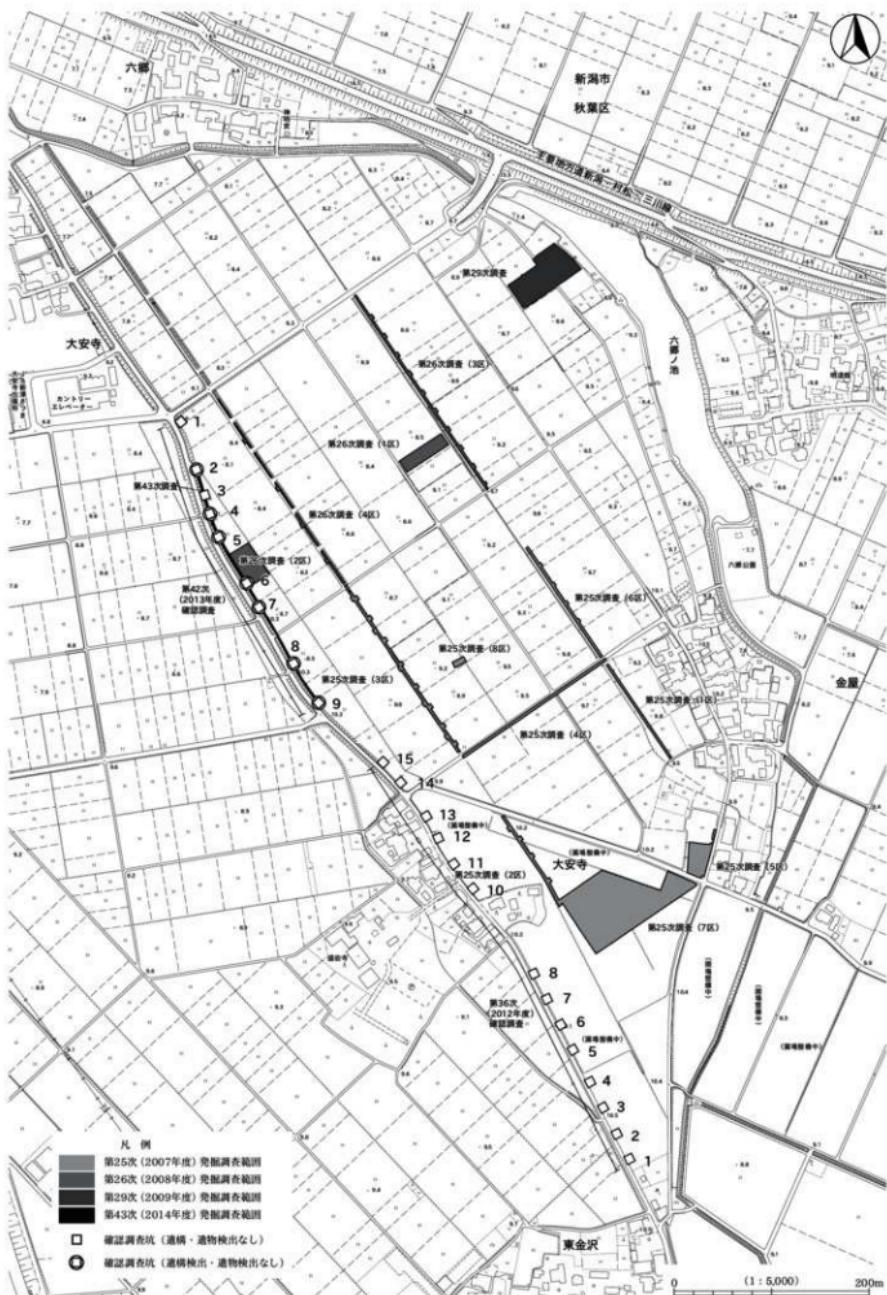
図 版



圖版 2

周辺の旧地割図（1/10,000）

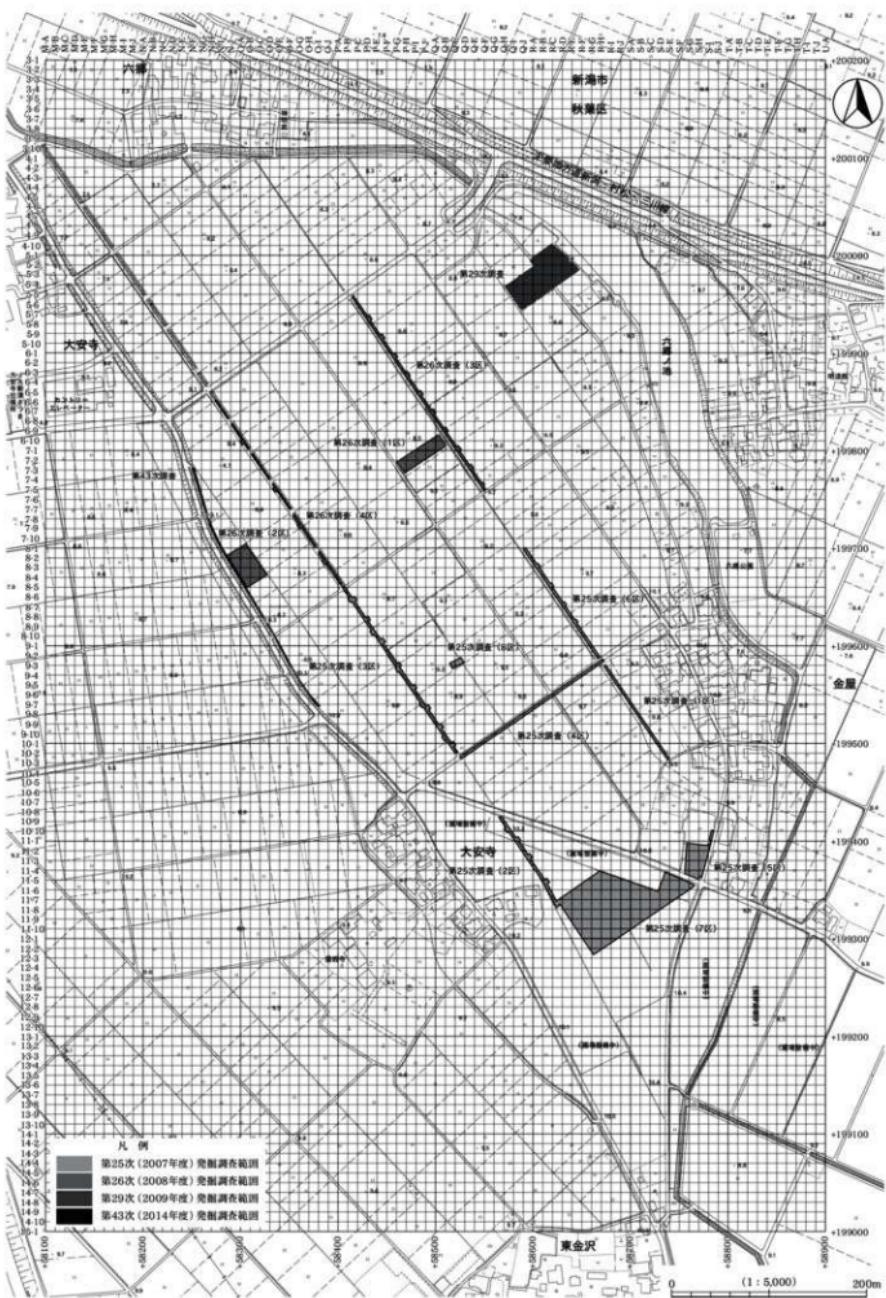




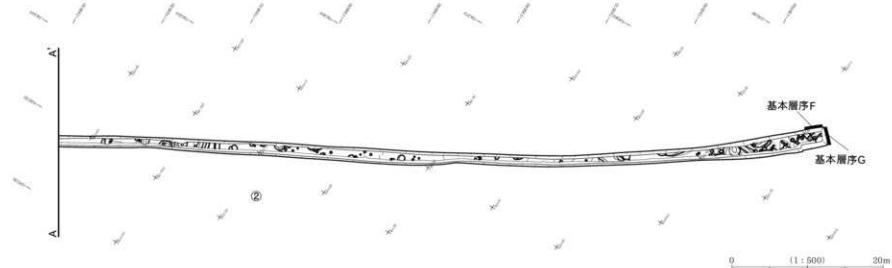
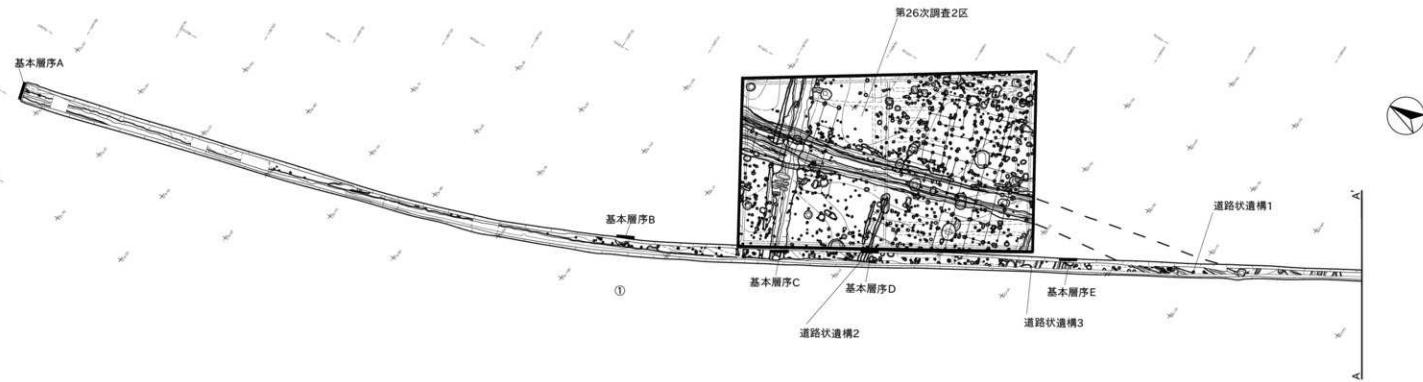
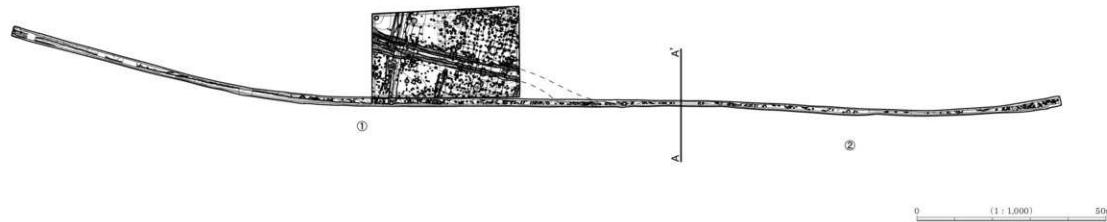
『平面直角座標値は世界地図系による。』
2005年発行「新潟市地形図 1:2,500」を加筆修正→1:5,000

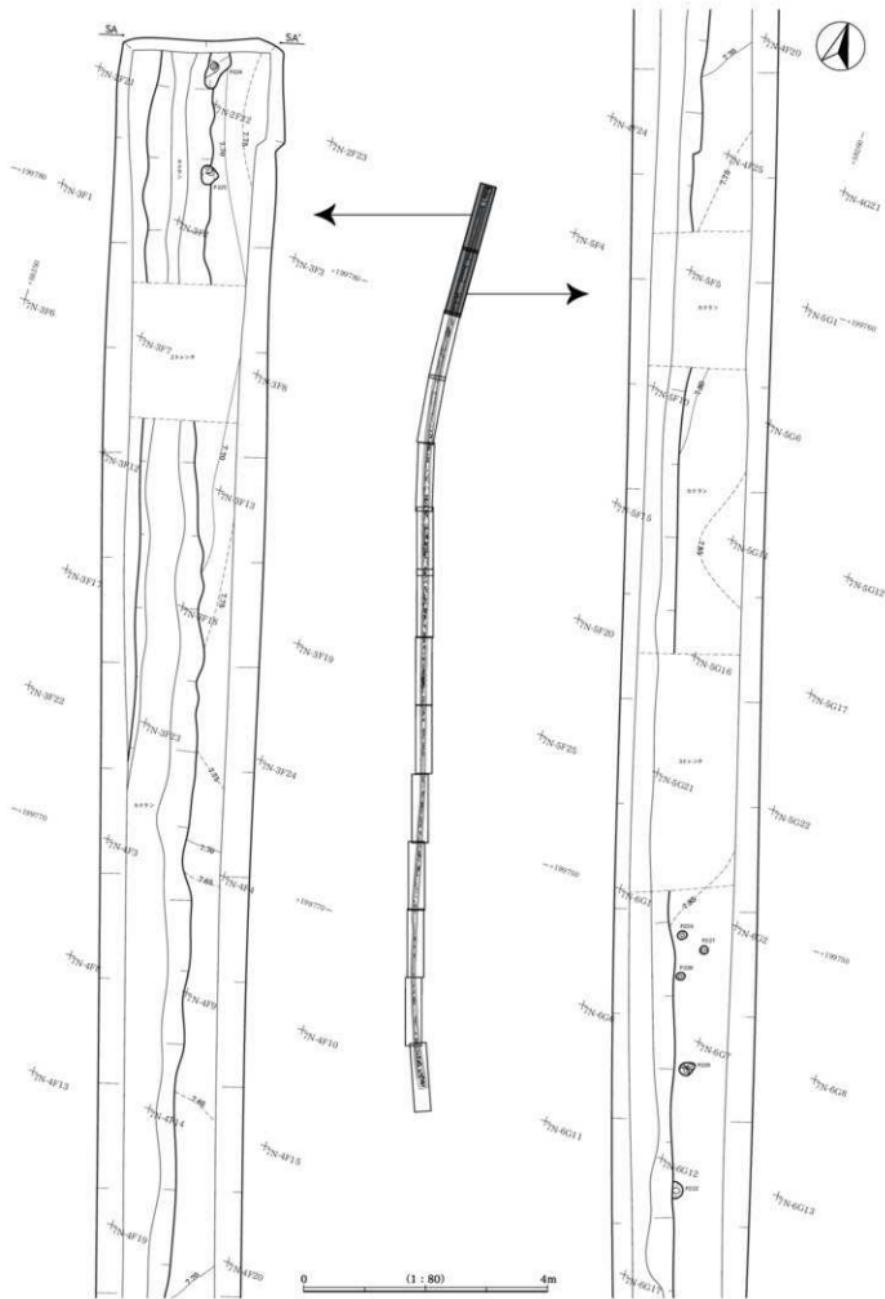
図版 4

細池寺道上遺跡第 25・26・29・43 次調査位置図 (1/5,000)



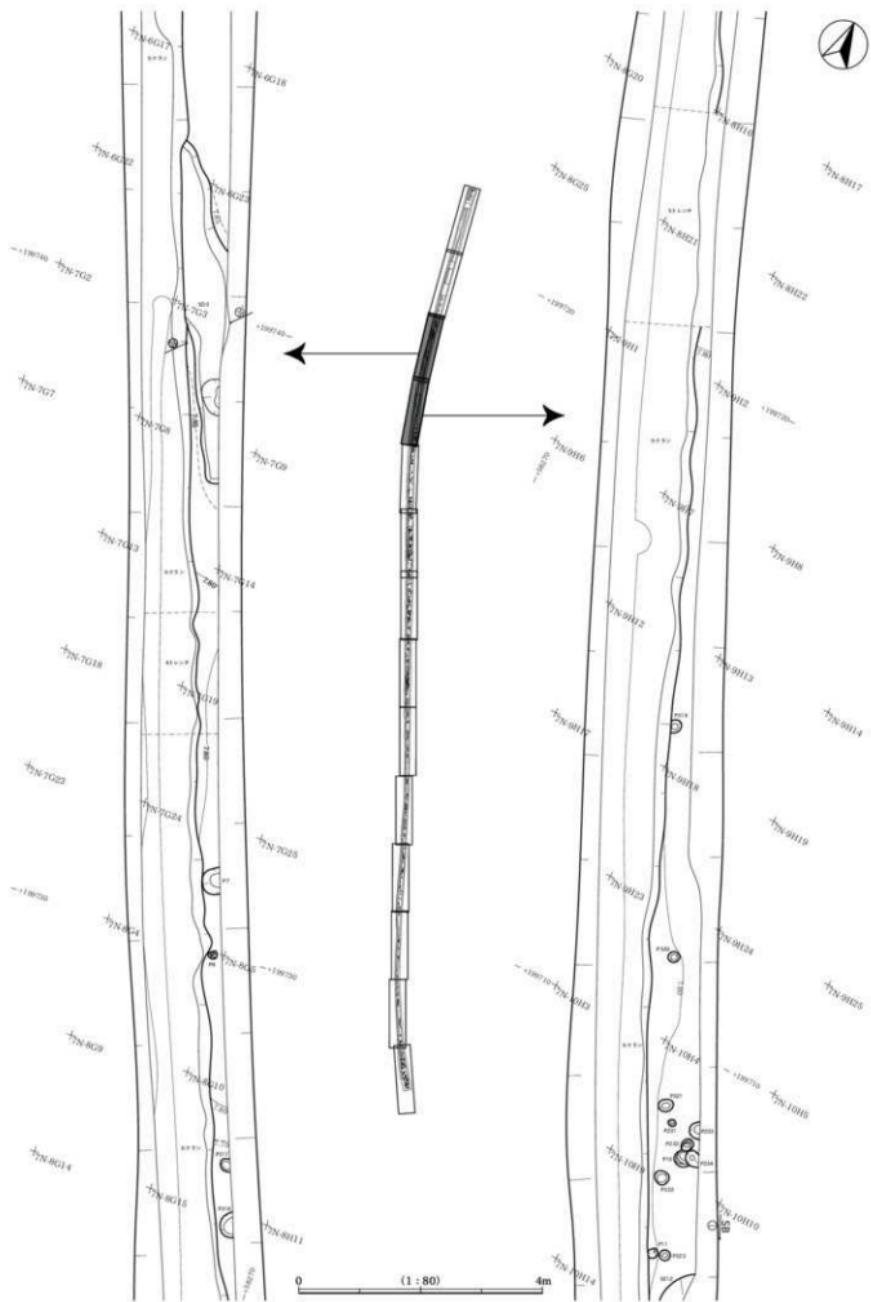
「平面直角座標値は世界地図系による。
2005年発行「新潟市地形図 1:2,500」を加算修正→1:5,000」

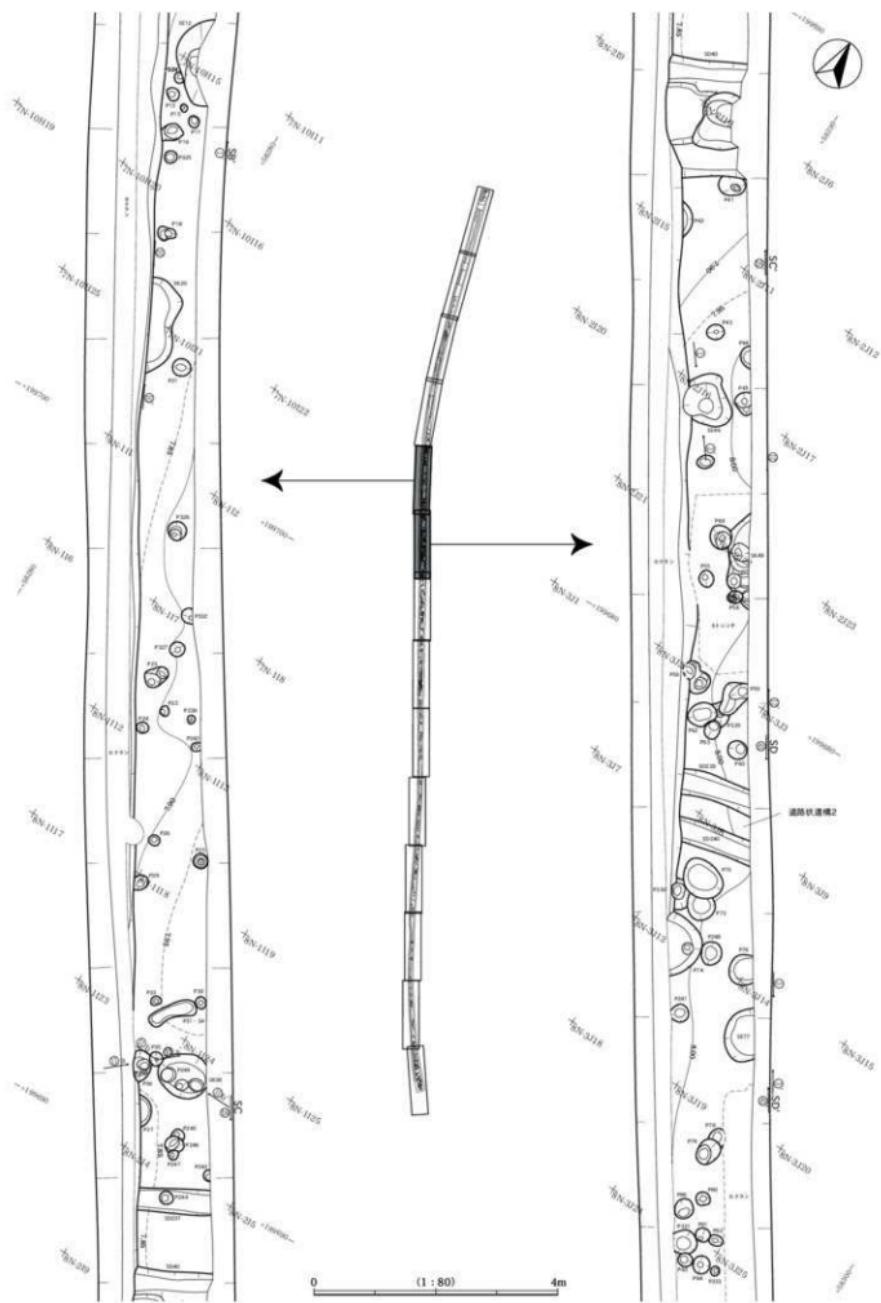




圖版 7

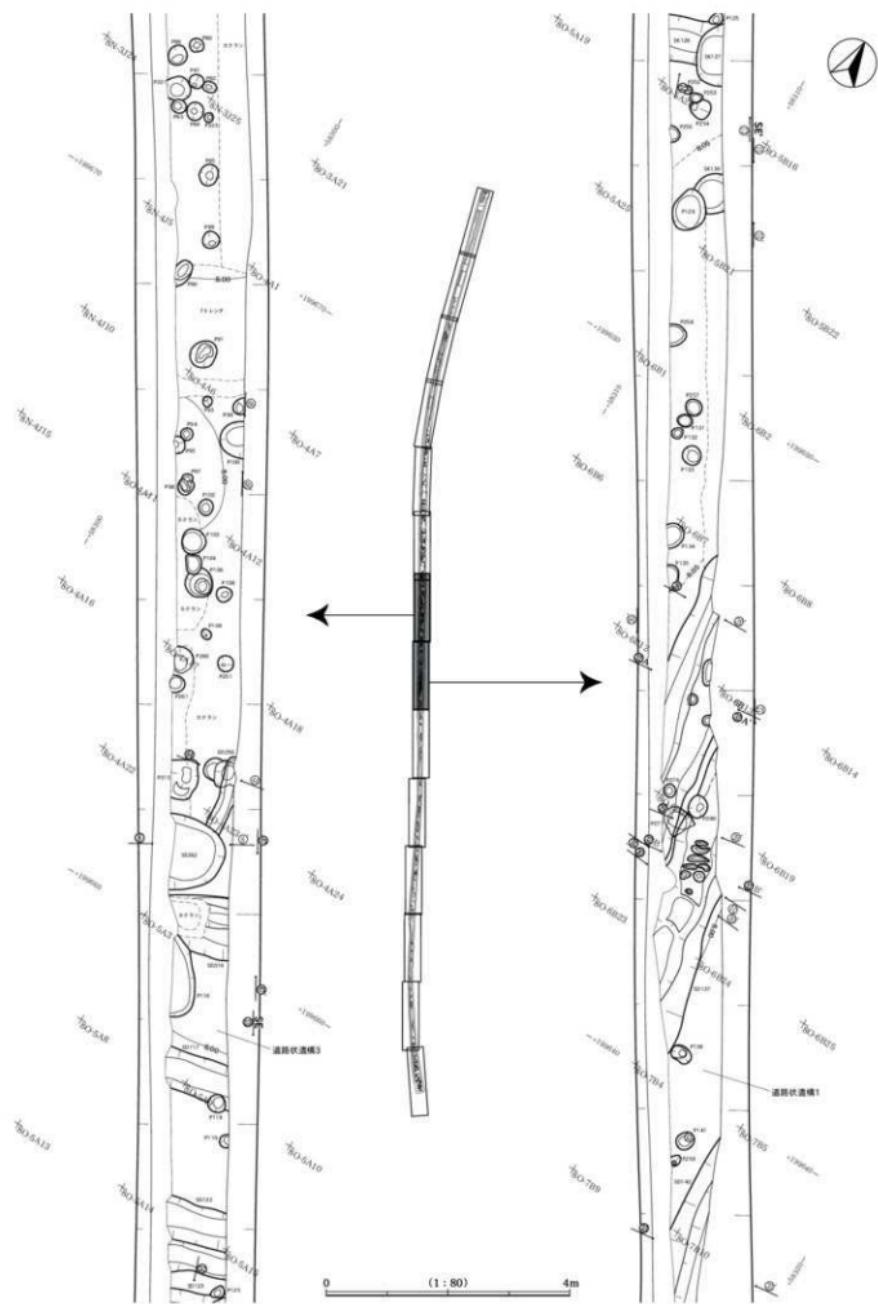
遺構部分図 2 (1/80)

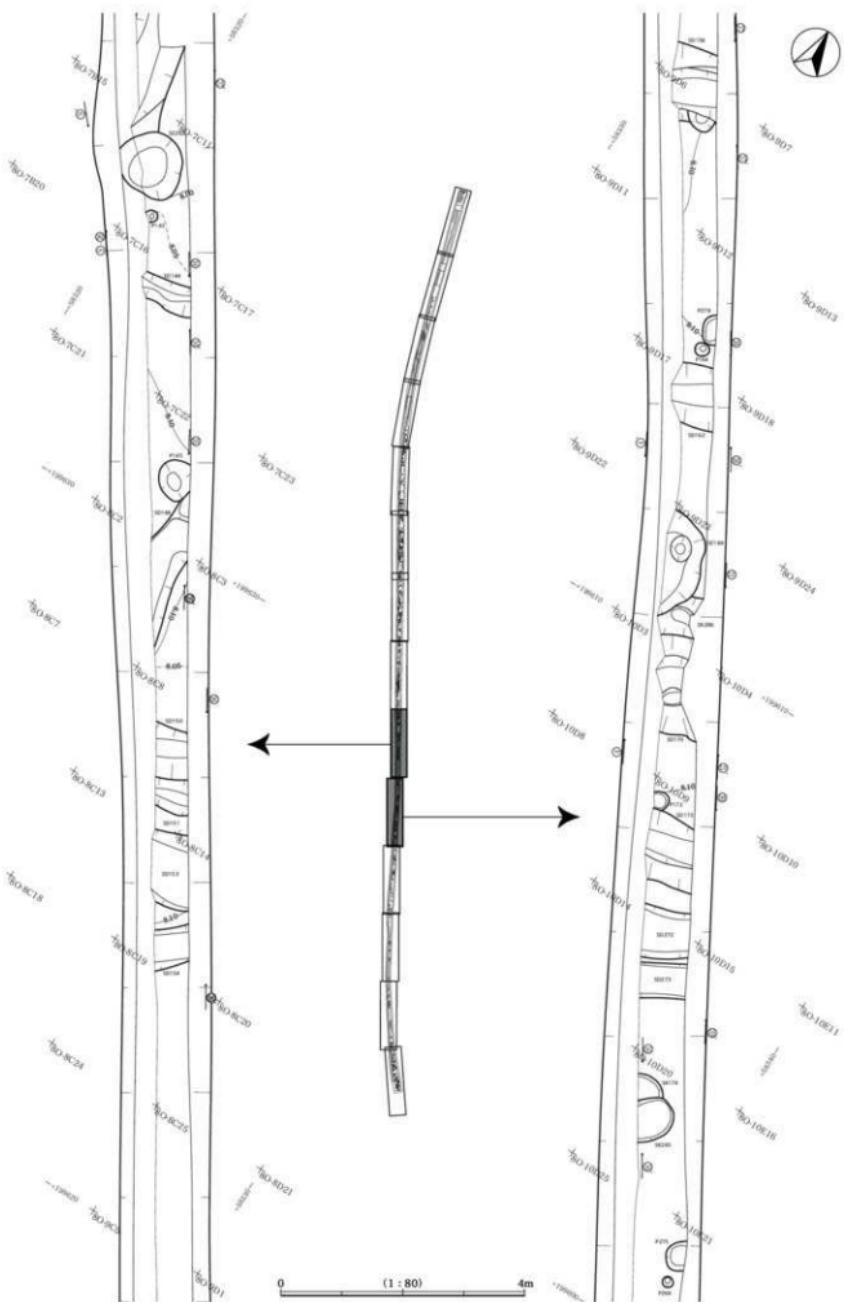


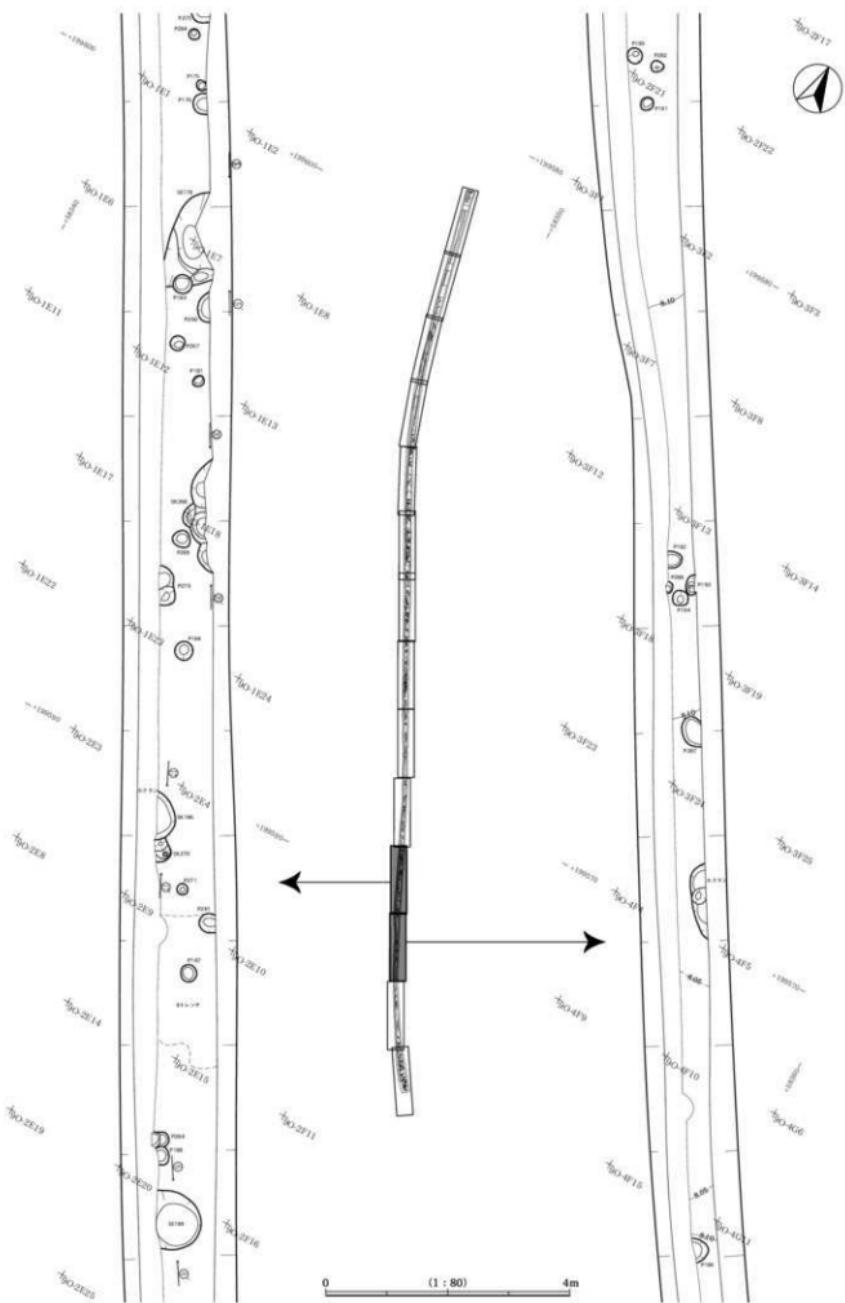


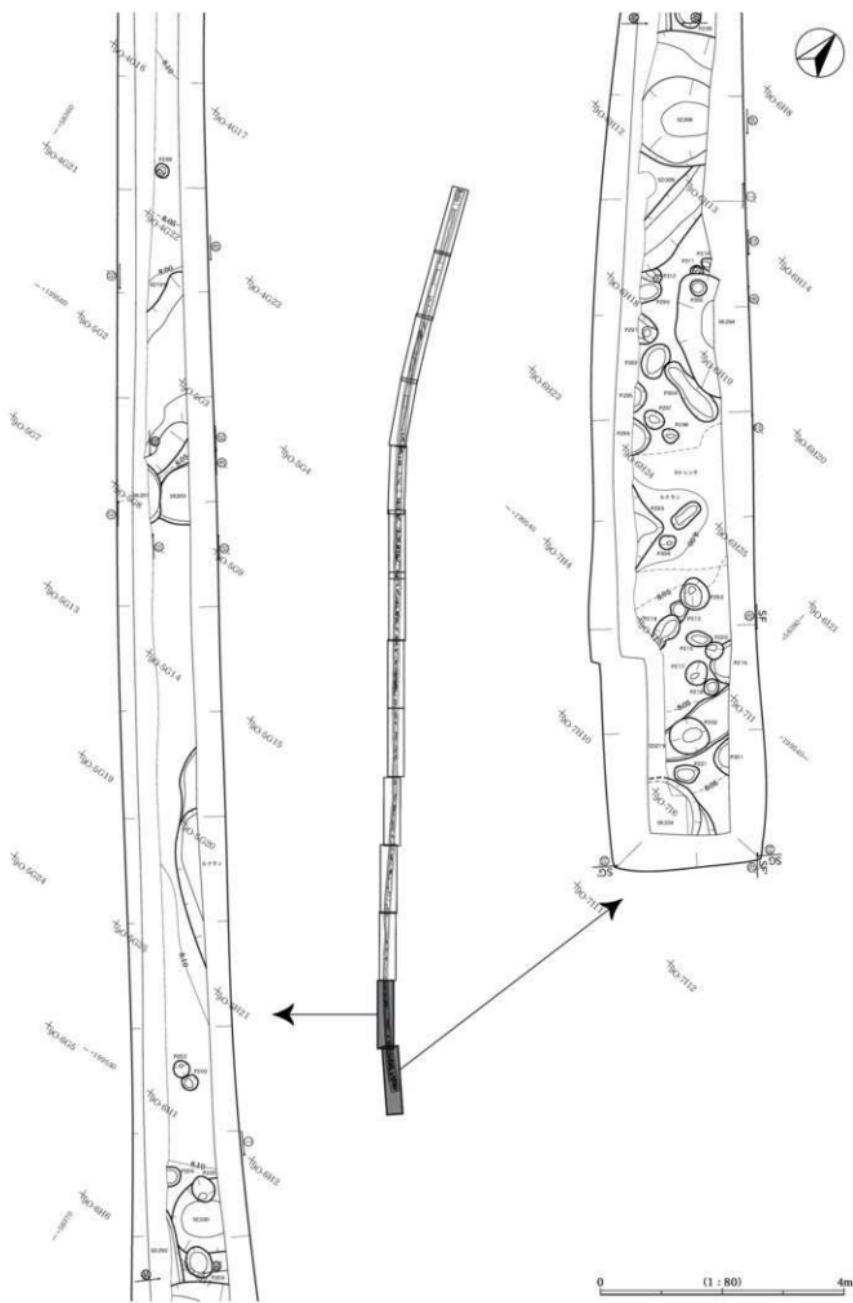
図版 9

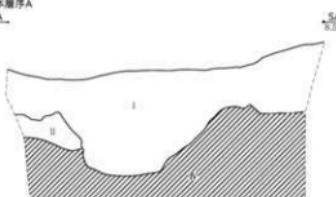
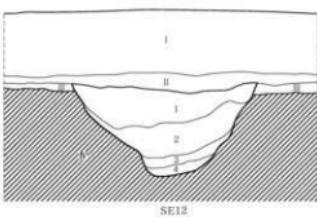
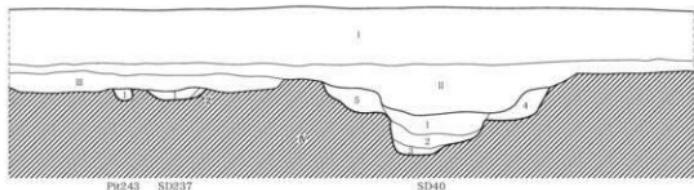
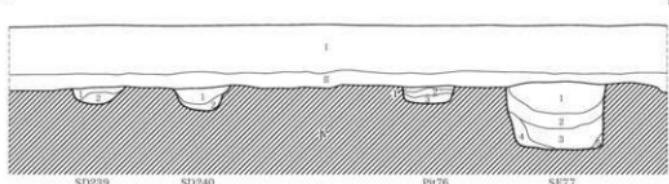
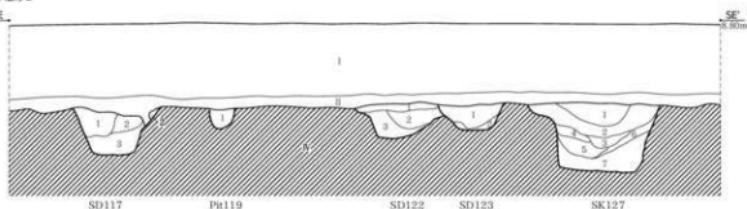
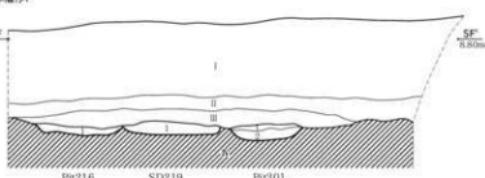
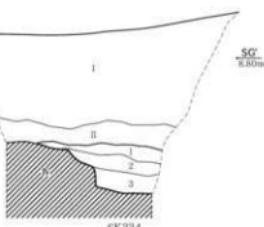
遺構部分図 4 (1/80)







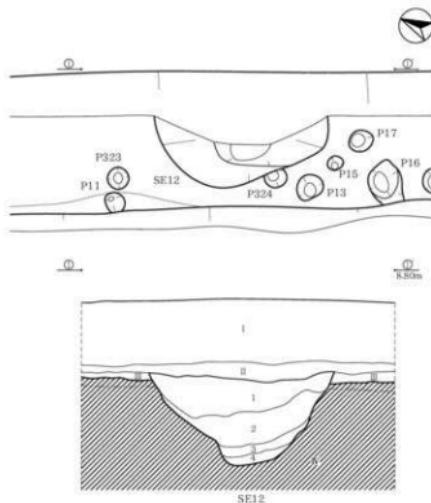


基本層序A
SA基本層序B
SB基本層序C
SC基本層序D
SD基本層序E
SE基本層序F
SF基本層序G
SG

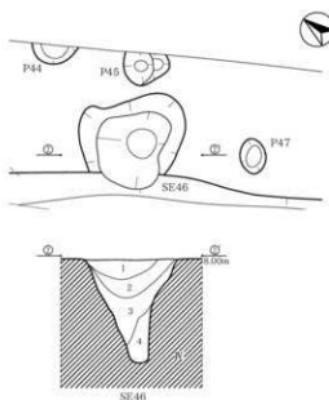
基層序

- I 黄褐色砂岩 (10YR4/2) しまり・軽粒砂、黄土層。
- II 淡い黄褐色シルト (10YR6/3) しまり・軽粒泥、微化粧を多見に含む、多孔隙作土。
- III 褐灰黒シルト (10YR6/1) 風白色粘土層、透視解説。
- IV 細灰黒シルト (10YR6/1) しまり・軽粒セラリ。一部にグリナイトを含む。

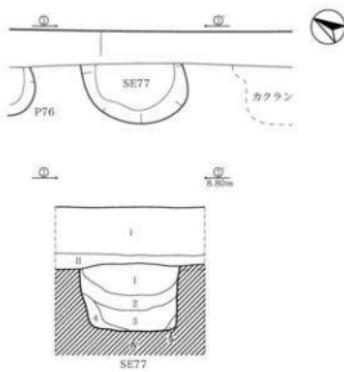
0 (1 : 40) 2m



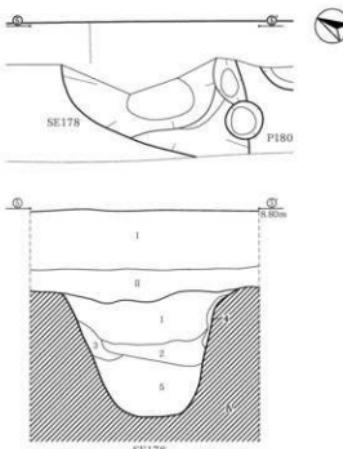
SE12
 1 黄褐色シート (10YR2/1) しまり・粘性面あり。径3cm以内の黄褐色土ブロック・黄褐色土ブロック混在む。
 2 黄褐色シート (10YR2/2) しまり・粘性面あり。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。
 3 黄褐色シート (10YR2/3) しまり・粘性面あり。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。
 4 黄褐色シート (10YR2/1) しまり・粘性面や含む。土壤サンプル採取。



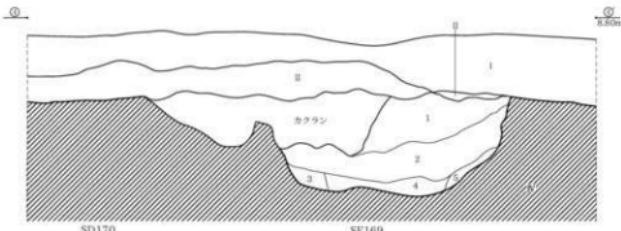
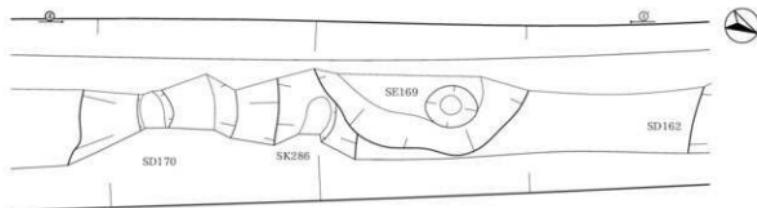
SE46
 1 黄褐色シート (10YR2/1) しまり・軟性あり。泥化物・褐褐色土含む。
 2 黄褐色シート (2.5YV6/2) しまり・軟性やや硬い。泥化物・褐褐色土ブロック含む。
 3 黄褐色シート (2.5YV6/2) しまり・軟性やや硬い。泥化物・褐褐色土ブロック・泥化物含む。
 4 黄褐色シート (2.5YV6/1) しまり・軟性あり。褐褐色土ブロック・泥化物ブロック含む。母子。



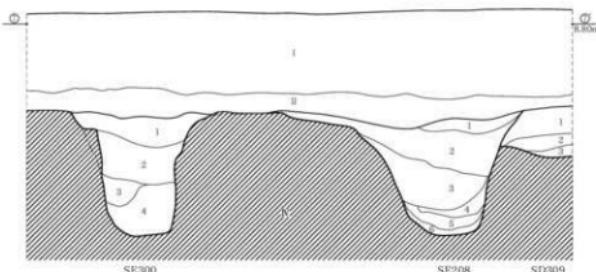
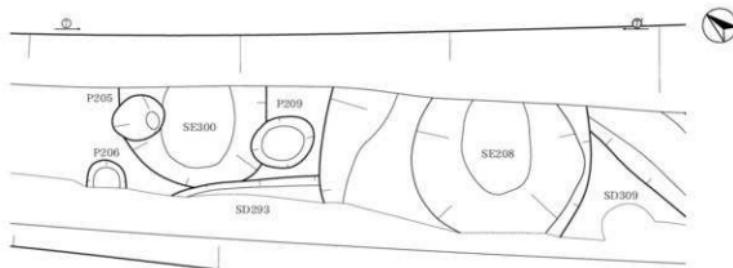
SE77
 1 黄褐色シート (10YR4/2) しまりやや含む。粘性面あり。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。
 2 黄褐色シート (10YR2/1) しまりやや含む。粘性面やや含む。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。
 3 黄褐色シート (10YR2/2) しまりやや含む。粘性面やや含む。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。
 4 黄褐色シート (10YR3/1) しまりやや含む。粘性面含む。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。
 5 黄褐色シート (10YR2/1) しまりやや含む。粘性面あり。



SE178
 1 黄褐色シート (10YR4/3) しまりやや含む。粘性面含む。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。
 2 黄褐色シート (10YR2/1) しまり・粘性面含む。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。
 3 黄褐色シート (10YR3/1) しまり・粘性面やや含む。径3cm以内の黄褐色土ブロック含む。
 4 黄褐色シート (10YR2/1) しまり・粘性面含む。
 5 黄褐色シート (10YR2/1) しまりやや含む。粘性面含む。

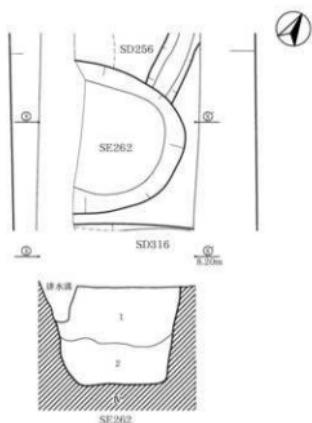
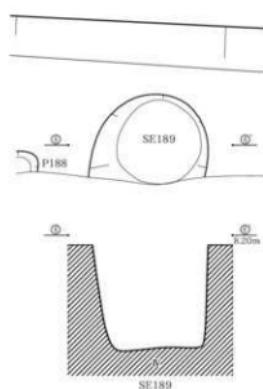


SE169
 1 黒褐色シート (10YR2/3) しまりややあり、堅性弱い、径3cm以内の黄褐色をブロックかむ。1層・2層はは疊層組。
 2 黒褐色シート (10YR2/2) しまりややあり、堅性弱い、径3cm以内の黄褐色をブロックかむ。
 3 黑褐色シート (10YR3/1) しまりややあり、堅性弱い。
 4 黑色シート (10YR2/1) しまりややあり、堅性弱い。
 5 黑色シート (10YR2/1) しまり・堅性あり。

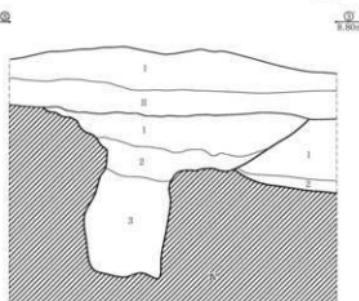
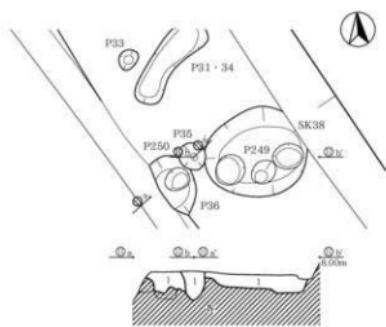
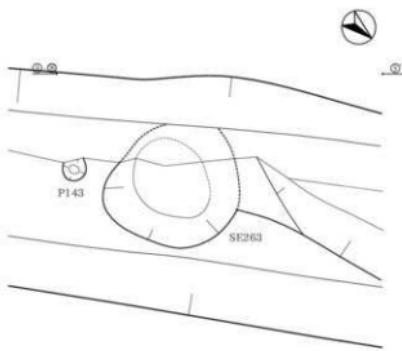
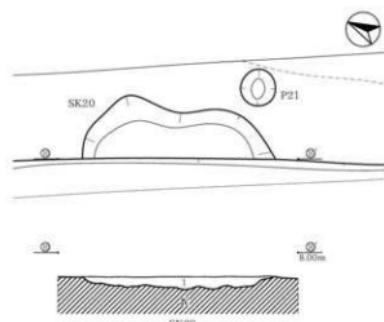


SE300
 1 黑褐色シート (10YR4/1) しまりややあり、堅性やや弱い。
 2 黑褐色シート (10YR4/1) しまりやや弱い、堅性やや弱い。
 3 黑褐色シート (10YR4/1) しまりやや弱い、堅性弱い。
 4 黑色シート (10YR2/1) しまりやや弱い、堅性弱い。

SE208
 1 黒褐色シート (10YR4/3) しまりややあり、堅性弱い、径3cm以内の黄褐色をブロックかむ。
 2 黑褐色シート (10YR2/1) しまりやや中弱い、堅性弱い、径3cm以内の黄褐色をブロックかむ。
 3 黑褐色シート (10YR2/2) しまりやや中弱い、堅性弱い、径3cm以内の黄褐色をブロックかむ。
 4 黑褐色シート (10YR5/1) しまりやや中弱い、堅性やや弱い。
 5 黑褐色シート (10YR3/1) しまりやや中弱い、堅性やや弱い。
 6 黑色シート (10YR4/3) しまりやや弱い、堅性あり。

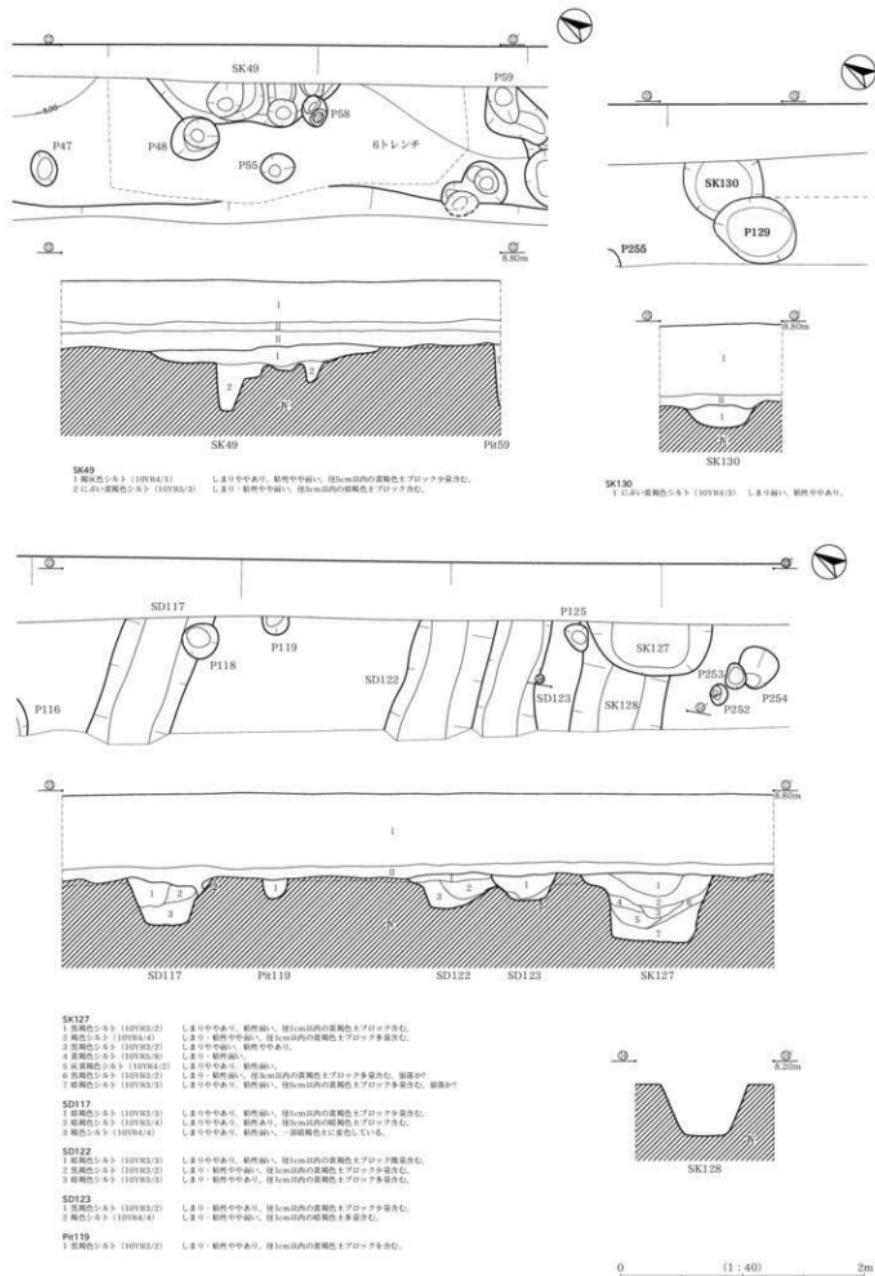


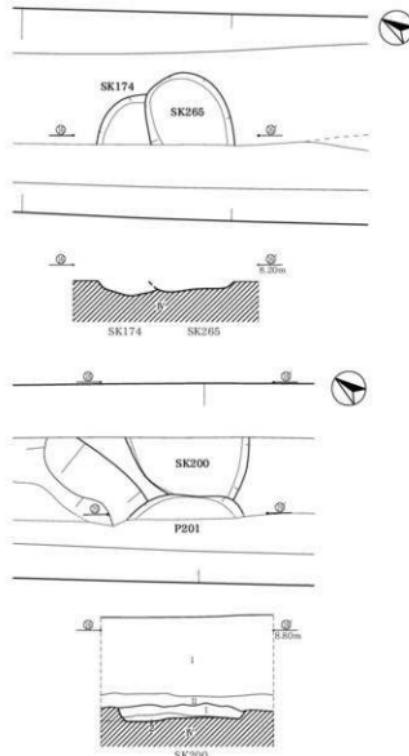
SE262
1 黄褐色シルト (10YR3/2) しまり・粘性ややあり、上面に苔生む。
2 黄オーラフ粘土 (5Y5/2) しまりややあり、粘性あり、往3cm内の範囲で土ブロック含む。



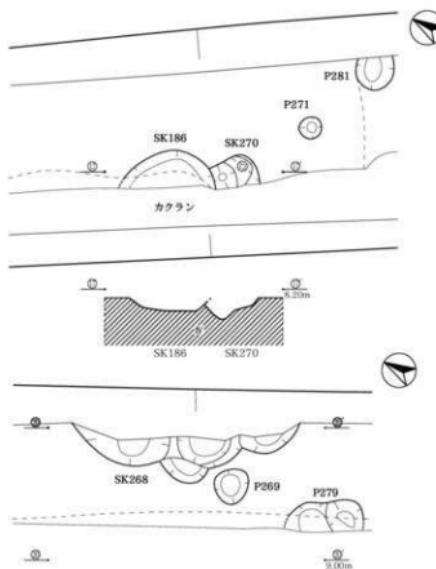
SE263
1 黄褐色シルト (10YR4/2) しまり・粘性ややあり。
2 黄褐色シルト (10YR3/2) しまりやや弱い・粘性あり。
3 黄色シルト (10YR2/2) しまりやや弱い・粘性弱い。根子。

- SK38
1 黄褐色シルト (10YR3/2) しまり・粘性ややあり、往5cm内の範囲で土ブロック多量含む。
2 黄褐色シルト (10YR3/2) しまり・粘性やや弱い、往1cm以内の範囲で土ブロックを含む。
- P35
1 黄褐色シルト (10YR3/2) しまり・粘性ややあり、往1cm以内の範囲で土ブロックを含む。
- Pr36
1 黄褐色シルト (10YR3/2) しまり・粘性ややあり、往3cm以内の範囲で土ブロックを含む。

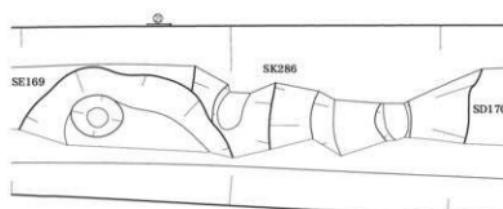




SK200
1 黒褐色シート (10YR3/1) しまりややあり、粘性やや高い。径1cm以内の黄褐色土ブロックを含む。
2 にらい-黄褐色シート (10YR4/2) しまり・粘性やや高い。径3mm以内の黄褐色土ブロック含む。

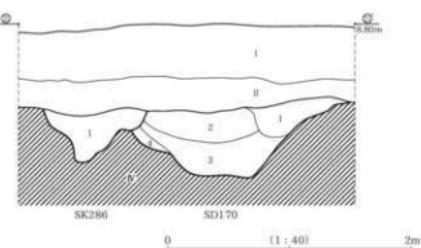


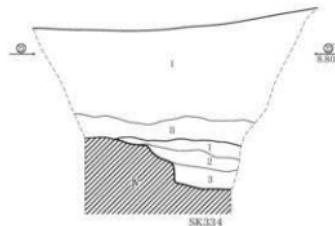
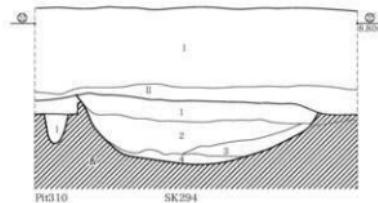
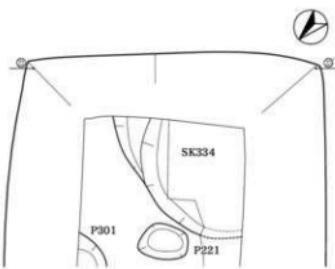
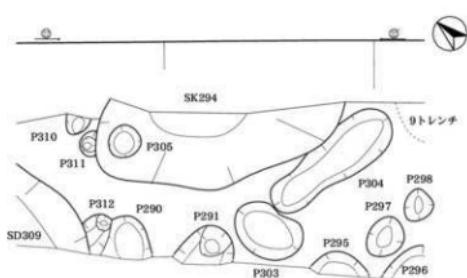
SK268
1 黒褐色シート (10YR3/1) しまりややあり、粘性あり、径3mm以内の黄褐色土ブロック含む。
2 黄褐色シート (10YR4/1) しまりややあり、粘性弱い、透水性を有する。
3 C-ない 黄褐色シート (10YR3/1) しまり・粘性弱い、径3mm以内の黄褐色土ブロック多量含む。



SK286
1 黒褐色シート (10YR3/1) しまり・粘性ややあり、径3mm以内の黄褐色土ブロックを含む。

- 2 黑褐色シート (10YR4/1) しまりややあり、粘性やや高い。径3mm以内の黄褐色土ブロックを含む。
- 3 黑褐色シート (10YR2/1) しまりややあり、粘性やや高い。径3mm以内の黄褐色土ブロックを含む。
- 4 黄褐色シート (10YR4/2) しまりややあり、粘性やや高い。径3mm以内の黄褐色土ブロック含む。



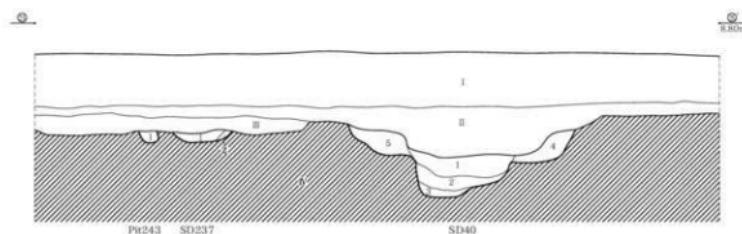


SK294

- 1 黄褐色シート (10YR8/1) しまり・軟性やや硬い。
- 2 黄褐色シート (10YR8/2) しまり・軟性やや硬い。径3cm内の黄褐色土ブロック含む。
- 3 黄褐色シート (10YR8/3) しまり・軟性やや硬い。堅性やや硬い。
- 4 黄褐色シート (10YR8/1) しまり・軟性やや硬い。

PK110

- 1 黄褐色シート (10YR8/1) しまり・軟性やや硬い。径3cm内の黄褐色土ブロック含む。



SD237

- 1 黄褐色シート (10YR8/1) しまりやや硬い。径1cm内の黄褐色土ブロック含む。
- 2 黄褐色シート (10YR8/2) しまり・軟性やや硬い。径3cm内の黄褐色土ブロック含む。

PK243

- 1 黄褐色シート (10YR8/1) しまり・軟性やや硬い。径3cm内の黄褐色土ブロック含む。

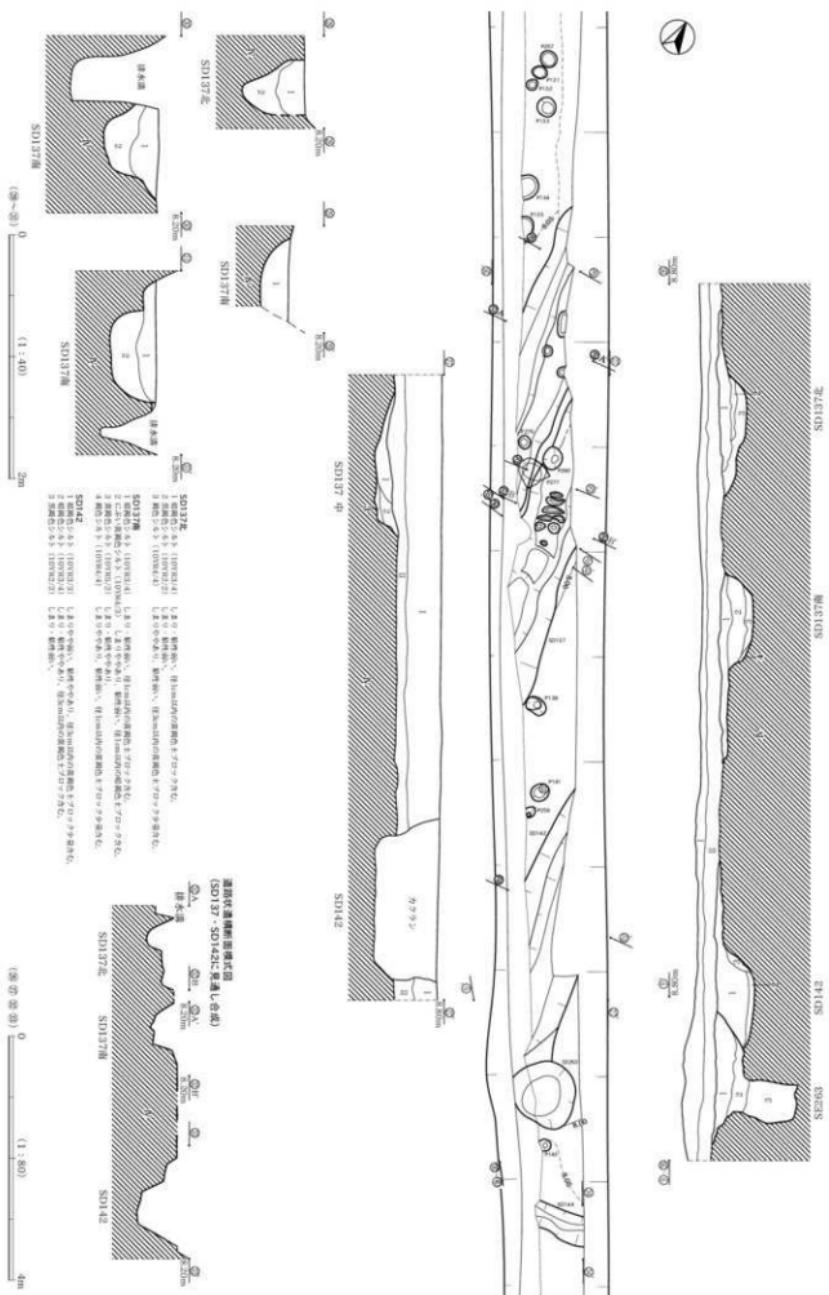
SD340

- 1 黄褐色シート (10YR8/2) しまり・軟性やや硬い。径3cm内の黄褐色土を含む。
- 2 黄褐色シート (10YR8/1) しまりやや硬い。堅性やや硬い。径3cm内の黄褐色土ブロック含む。
- 3 黄褐色シート (10YR8/1) しまり・堅性あり。径3cm内の黄褐色土ブロック含む。
- 4 黄褐色シート (10YR8/1) しまり・軟性やや硬い。径3cm内の黄褐色土を含む。堅性。
- 5 黑褐色シート (10YR8/2) しまり・軟性やや硬い。径3cm内の黄褐色土ブロック含む。堅性物を含む。



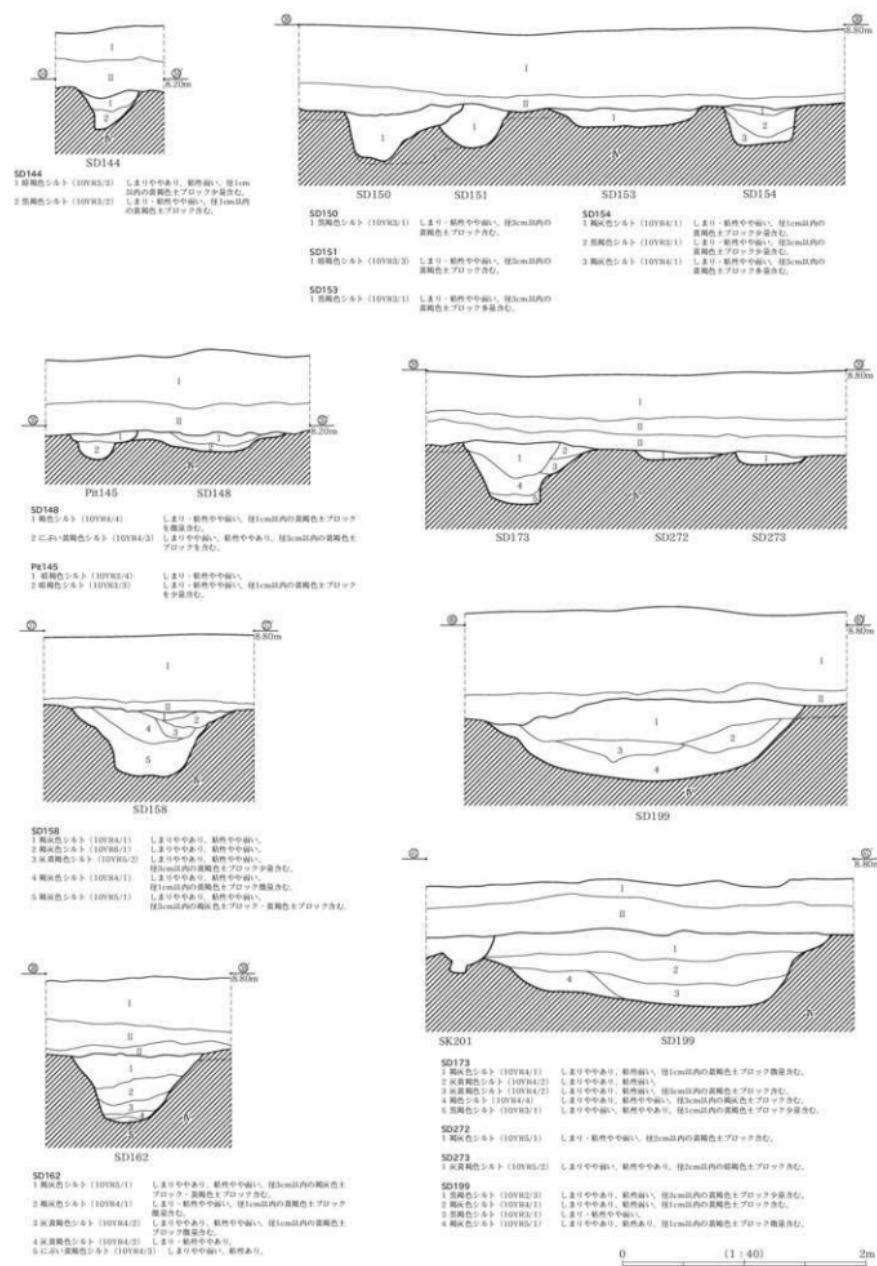
SD3

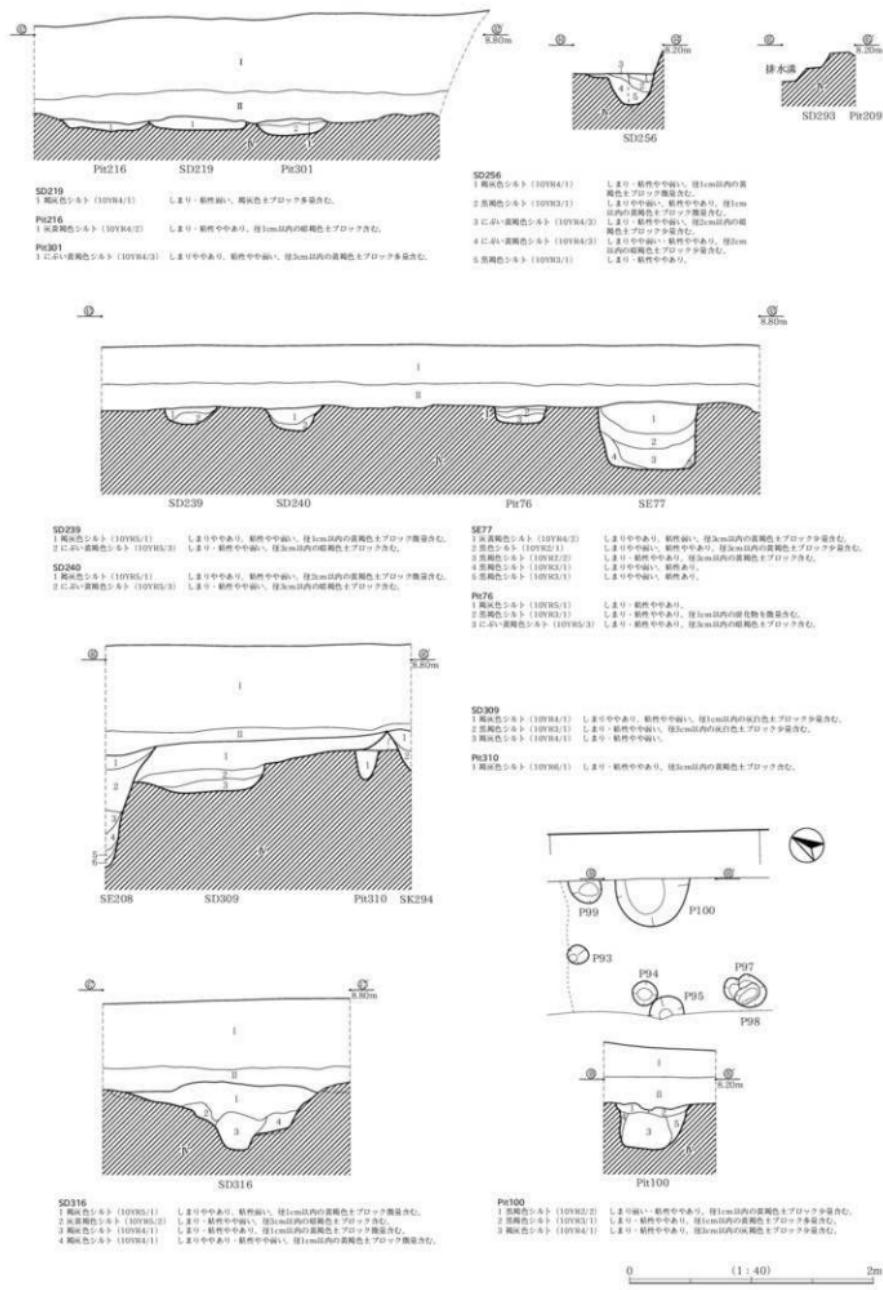
- 1 黄褐色シート (10YR8/3) しまり・軟性やや硬い。透水性良好をわずかに含む。
- 2 黄褐色シート (10YR8/4) しまり・軟性やや硬い。堅膜性状の軟性を含む。



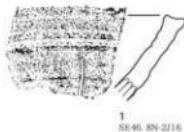
図版 21

遺構実測図 8 (1/40)





SE46 (1)



SE77 (2)



SE178 (3)



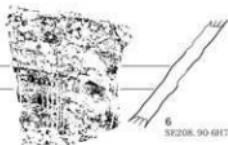
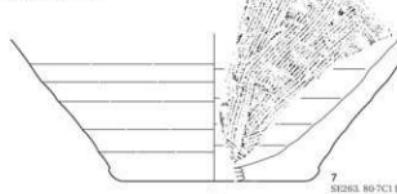
SE189 (4)



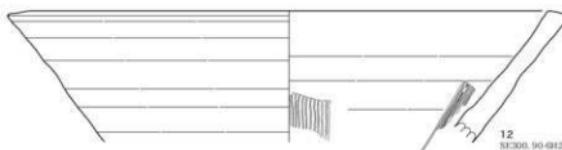
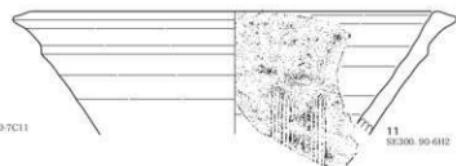
SE208 (5・6)



SE263 (7~9)



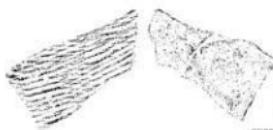
SE300 (10~14)



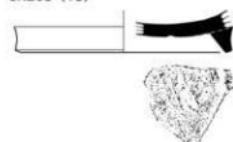
0 (1 : 3) 10cm

14

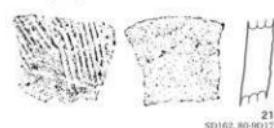
SE300 (15~17)



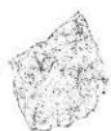
SK268 (18)



SD162 (21)



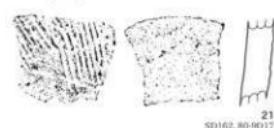
SD117 (19)



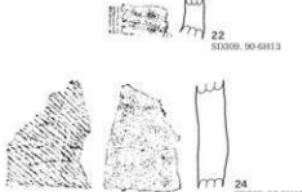
SD137 (20)



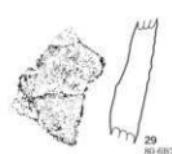
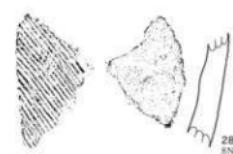
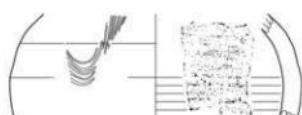
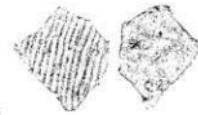
SD162 (21)



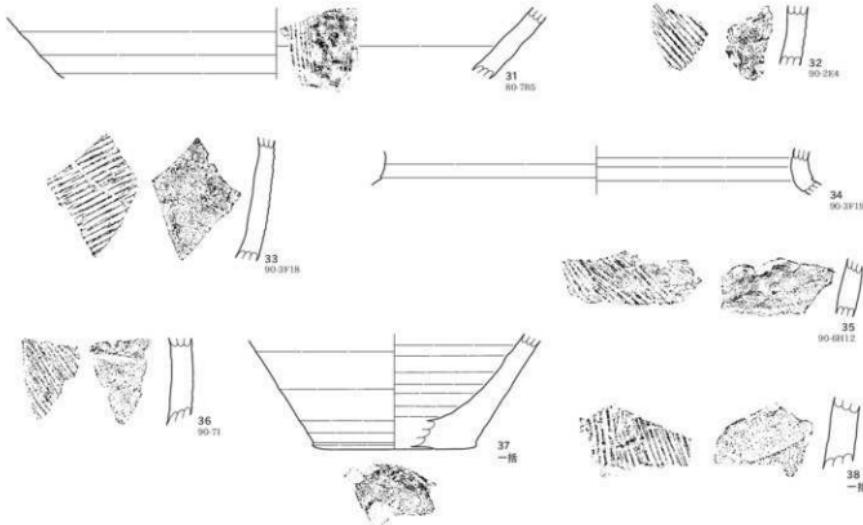
SD309 (22~24)



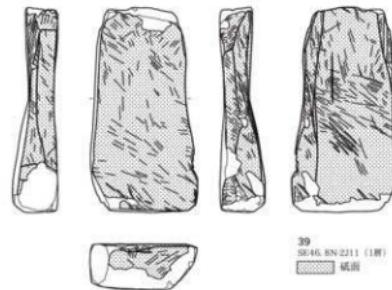
包含層 (25~30)



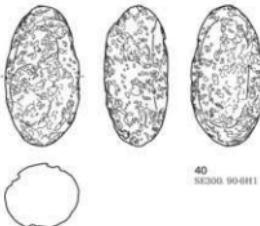
包含層 (31~38)



SE46 (39)



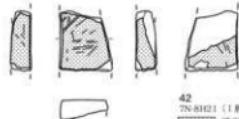
SE300 (40)



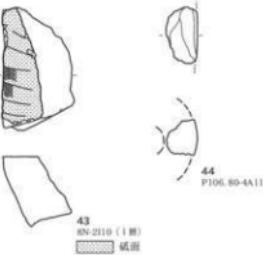
Pit180 (41)



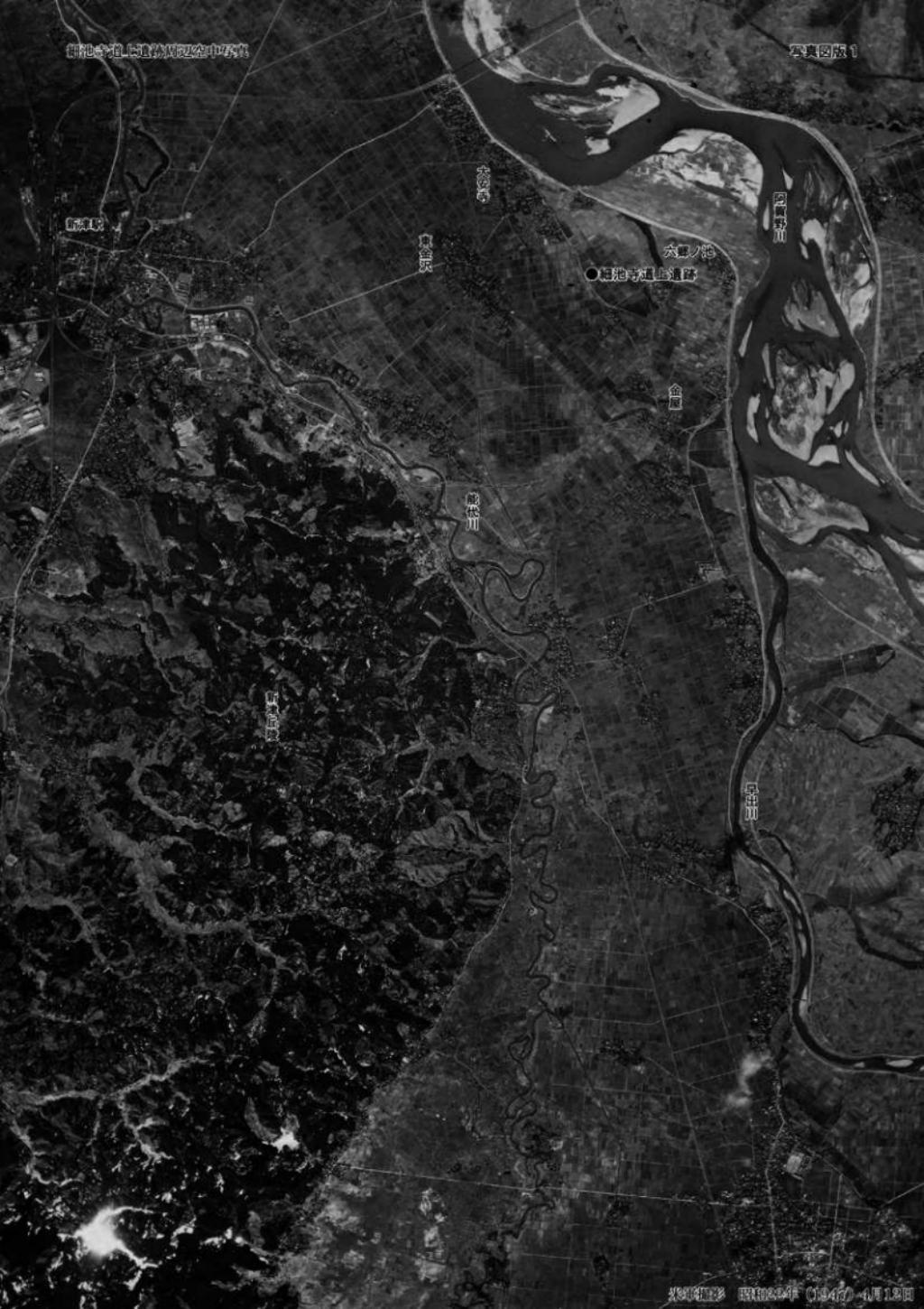
包含層 (42・43)



Pit106 (44)



0 (1 : 3) 10cm





調査区周辺空中写真（北→南）



調査区遠景空中写真（南東→北西）



調査区遠景空中写真（北東→南西）



調査区遠景空中写真（北西→南東）



調査区中央（北→南）



調査区全景（南東→北西）



調査区南端（北東→南西）



調査区全景（北西→南東）



調査区全景（南東→北西）



調査区中央（北西→南東）



第 26 次調査 2 区・第 43 次調査合成写真(北→南)



第 26 次調査 2 区・第 43 次調査合成写真(俯瞰)



道路状遺構 1 (SD137・SD142) 全景 (南西から)



道路状遺構 1 (SD137・SD142) 土刷断面 (北東から)



着手前（南東→北西）



着手前（北西→南東）



基本層序 A（南→北）



基本層序 B（西→東）



基本層序 C（西→東）



基本層序 D（西→東）



基本層序 E（西→東）



基本層序 F（西→東）



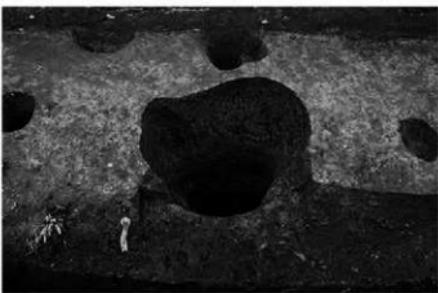
基本層序 G (北→南)



SE12 土層断面・完掘状況 (西→東)



SE46 土層断面 (西→東)



SE46 完掘状況 (西→東)



SE77 · Pit76 土層断面・完掘状況 (西→東)



SE77 土層断面・完掘状況 (西→東)



SE169 土層断面・完掘状況 (東→西)



SE178 土層断面・完掘状況 (西→東)



SE189 完掘状況（西→東）



SE208 土層断面・完掘状況（西→東）



SE262 土層断面（南→北）



SE262 完掘状況（南→北）



SE263 土層断面・完掘状況（東→西）



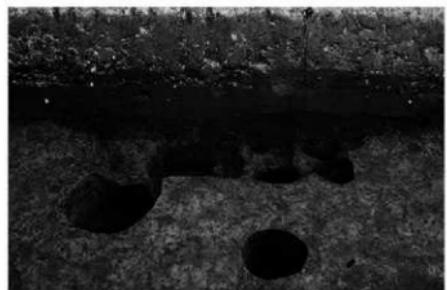
SE300 土層断面・完掘状況（西→東）



SK20 土層断面（西→東）



SK20 完掘状況（西→東）



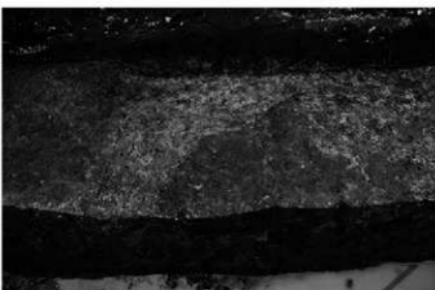
SK49 土層断面・完掘状況（西→東）



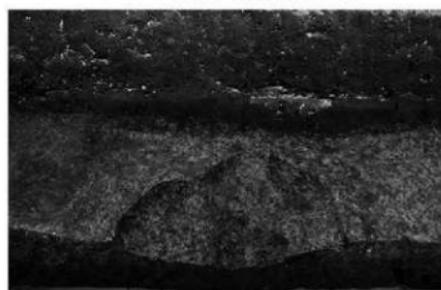
SK127・SK128 土層断面・完掘状況（西→東）



SK130 土層断面・完掘状況（西→東）



SK174・SK265 土層断面（西→東）



SK174・SK265 完掘状況（西→東）



SK186・SK270 土層断面（西→東）



SK186・SK270 完掘状況（西→東）



SK200・SK201 完掘状況（西→東）



SK268 土層断面・完掘状況（西→東）



SD170・SK286 土層断面・完掘状況（西→東）



SK294 土層断面・完掘状況（西→東）



SK334 土層断面・完掘状況（北→南）



SD3 土層断面（南→北）



SD3 完掘状況（南→北）



SD40 土層断面・完掘状況（西→東）



SD117・Pit118・Pit119 土層断面・完掘状況（西→東）



SD122・SD123 土層断面・完掘状況 (西→東)



SD137 土層断面① (東→西)



SD137 土層断面② (東→西)



SD137 土層断面③ (南→北)



SD137 土層断面④ (北→南)



SD137 土層断面⑤ (南→北)



SD142 土層断面① (東→西)



SD142 土層断面② (東→西)



SD144 土層断面・完掘状況（西→東）



SD148 土層断面・完掘状況（西→東）



SD150・SD151 土層断面・完掘状況（西→東）



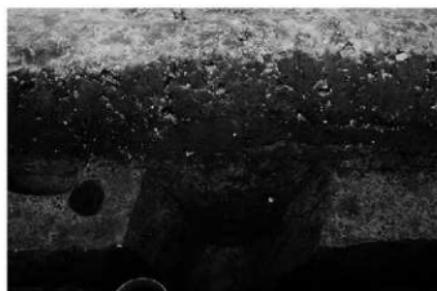
SD153 土層断面・完掘状況（西→東）



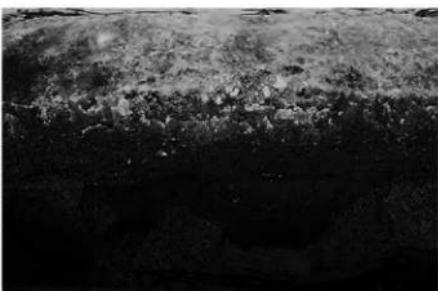
SD154 土層断面・完掘状況（西→東）



SD158 土層断面・完掘状況（西→東）



SD162 土層断面・完掘状況（西→東）



SD170・SK286 土層断面・完掘状況（西→東）



SD173 土層断面・完掘状況（西→東）



SD199 土層断面・完掘状況（西→東）



SD199 土層断面・完掘状況（東→西）



SD219 土層断面・完掘状況（西→東）



SD237 土層断面・完掘状況（西→東）



SD239・SD240 土層断面・完掘状況（西→東）



SD256 土層断面（南→北）



SD256 完掘状況（南→北）



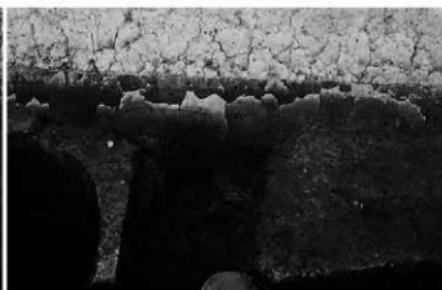
SD272・SD273 土層断面・完掘状況（西→東）



SD309 土層断面・完掘状況（西→東）



SD316 土層断面（西→東）



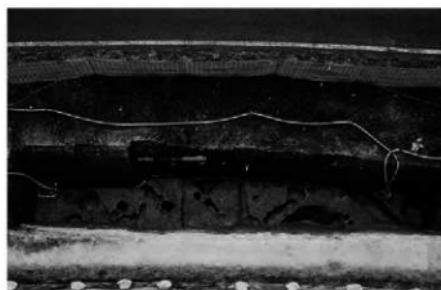
SD316 土層断面・完掘状況（西→東）



Pit106 完掘状況（南→北）



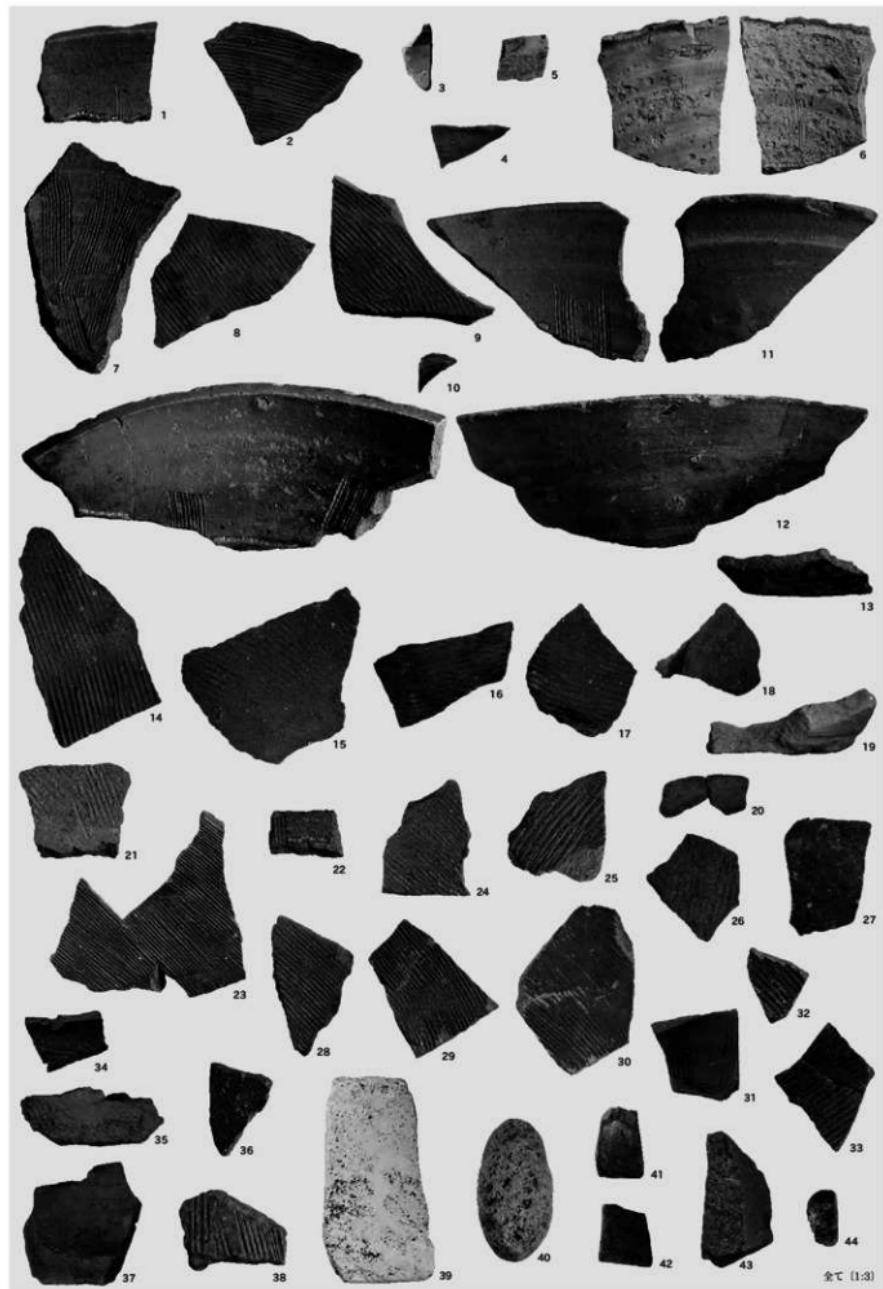
Pit315 完掘状況（西→東）



調査区南端完掘状況（東→西）



調査区南端完掘状況（西→東）



報告書抄録

ふりがな	ほそいけてらみちうえいせき よん だいよんじゅうさんじちょうさ						
書名	細池寺道上遺跡IV 第43次調査						
圖書名	市道大安寺第5号大閑線改良工事に伴う細池寺道上遺跡第3次発掘調査報告書						
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号							
編著者名	速藤恭雄・青木誠・株式会社火山灰考古学研究所・株式会社加速器分析研究所						
編集機関	新潟市文化スポーツ部 文化財センター						
所在地	〒950-1122 新潟市西区木場 2748番地1 TEL 025-378-0480						
発行年月日	2015年3月31日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東經	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因	
細池寺道上遺跡	新潟県新潟市 秋葉区大安寺 693-3ほか	15105 151	37° 47° 51°	139° 09° 43°	20140709～ 20140930	557.28 m ²	市道大安寺第5号 大閑線改良工事
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
細池寺道上遺跡	集落遺跡	平安時代・鎌倉時代・ 室町時代 (13世紀～14世紀)	井戸・土坑・溝・ 道路状構造	須恵器・土師器・白磁・青磁・ 珠洲焼・珠洲系陶器・鍛治 関連遺物・石製品			
要約	<p>細池寺道上遺跡は阿賀野川左岸の微高地上に立地し、早出川合流地点の北1.5kmに位置する。調査地は遺跡化寄りにあり、2008年度(第26次)調査2区に隣接する。現地標高は8.1～8.5mである。調査の結果、第26次調査2区隣接地点を中心に、調査区南寄りおよび南端部の3か所の集落域を検出した。第26次調査2区隣接地点では道路状構造と掘立柱建物の延長部を確認した。遺構内を中心に珠洲焼を中心とする中世遺物が出土している。出土遺物の年代は13世紀～14世紀が主体であり、今回検出した遺構も同時期のものと考えられる。狭小な道路用地内の調査であるため様相は不明な点が多いが、種実同定や植物珪酸体分析の結果、調査地周辺では稻作を主体とする多様な栽培植物を栽培したことがうかがえ、道路状構造の存在から、13世紀～14世紀に阿賀野川と沿岸の集落を結ぶ交通の一端を担った小規模な農村集落と考えられる。</p>						

細池寺道上遺跡IV 第43次調査

—市道大安寺第5号大閑線改良工事に伴う細池寺道上遺跡第3次発掘調査報告書—

2015年3月30日印刷
2015年3月31日発行

編集	新潟市文化財センター 〒950-1122 新潟市西区木場 2748番地1 TEL 025(378)0480
発行	新潟市教育委員会 〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町 602番地1 TEL 025(228)1000
印刷・製本	株式会社ハイグラフ 〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号 TEL 025(233)0321